

# 緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線) 埋蔵文化財調査報告書

—館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡—

平成17年3月

千葉県県土整備部  
財団法人 千葉県文化財センター

# 緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線) 埋蔵文化財調査報告書

—館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡—



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第502集として、千葉県県土整備部の緊急地方道路整備（県道館山大貫千倉線）事業に伴って実施した館山市長須賀条里制遺跡及び東山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、弥生時代の小区画水田や古代の条里区画水田、縄文時代～中世に及ぶ遺物を含む旧河道など、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人千葉県文化財センター

理事長 清水新次

## 凡　例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による緊急地方道路整備（県道館山大貢千倉線）計画に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

長須賀条里制遺跡 千葉県館山市下真倉字引田275-1ほか (205-002 (2))  
東山遺跡 千葉県館山市作名字南条原681-2ほか (205-006)
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者並びに実施期間等は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、研究員 城田義友が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関から多くの御指導、御協力を得た。

千葉県県土整備部安房地域整備センター、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県立安房博物館、館山市教育委員会、財団法人絶南文化財センター。
- 7 本書で使用した地形図は、以下のとおりである。

第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「那古」「安房古川」「館山」「千倉」(N1-54-26-2-2-4, 3-1-3)  
第2図 館山市役所発行 1/2,500地形図「26」「27」
- 8 本書で使用した図面の方針は、すべて座標北である。測量値は日本測地系を使用した。
- 9 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

# 本文目次

第1章 はじめ	1
第1節 調査に至る経緯	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3節 調査の方法と経過	3
第3章 長須賀条里制遺跡	9
第1節 概要	9
第2節 検出された遺構と遺物	9
1. 第1トレンチ	9
2. 第2トレンチ	10
3. 第3トレンチ	13
4. その他のトレンチ	14
第4章 東山遺跡	15
第1節 概要	15
第2節 確認調査の遺構と遺物	15
1. 第2トレンチ	15
2. 第3トレンチ	21
3. 第9トレンチ	23
4. 第11トレンチ	23
5. 第12トレンチ	25
6. 第13・14トレンチ	26
7. 第15トレンチ上層	27
8. 第15トレンチ下層	29
9. その他のトレンチ	33
第3節 本調査区の遺構と遺物	35
第5章 まとめ	47
報告書抄録	卷末

# 挿図目次

第1図 調査地点と周辺の遺跡	2	第9図 東山遺跡確認トレンチ配置図①	16
第2図 調査区と周辺の地形	4	第10図 東山遺跡確認トレンチ配置図②	17
第3図 長須賀条里制遺跡グリッド配置図	5	第11図 東山遺跡確認トレンチ配置図③	18
第4図 東山遺跡グリッド配置図	6	第12図 東山遺跡確認トレンチ配置図④	19
第5図 長須賀条里制遺跡第1トレンチ	9	第13図 東山遺跡第2トレンチと遺物	20
第6図 長須賀条里制遺跡第2トレンチ	11	第14図 東山遺跡第3トレンチ	22
第7図 長須賀条里制遺跡第2トレンチの遺物	13	第15図 東山遺跡第3トレンチの遺物	22
第8図 長須賀条里制遺跡第3トレンチ	14	第16図 東山遺跡第9トレンチ	24

第17図	東山遺跡第11トレンチ	24	第28図	本調査区	…36
第18図	東山遺跡第9・11トレンチの遺物	25	第29図	本調査区の遺物	…37
第19図	東山遺跡第12トレンチと遺物	25	第30図	本調査区旧河道の遺物①	…38
第20図	東山遺跡第13・14トレンチ	26	第31図	本調査区旧河道の遺物②	…39
第21図	東山遺跡第13・14トレンチの遺物	27	第32図	本調査区旧河道の遺物③	…41
第22図	東山遺跡第15トレンチ小区画水田跡	28	第33図	本調査区旧河道の遺物④	…42
第23図	東山遺跡第15トレンチの遺物	29	第34図	本調査区旧河道の遺物⑤	…43
第24図	東山遺跡第15トレンチ拡張区	30	第35図	本調査区旧河道の遺物⑥	…44
第25図	東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物①	31	第36図	本調査区旧河道の遺物⑦	…45
第26図	東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物②	32	第37図	本調査区旧河道の遺物⑧	…46
第27図	東山遺跡その他のトレンチの遺物	34			

## 表 目 次

第1表	長須賀条里製造跡の遺物① 土器類	第五表	東山遺跡の遺物③ 古墳時代以降の土器類
第2表	長須賀条里製造跡の遺物② 土製品・石製品	第六表	東山遺跡の遺物④ 土製品・石製品
第3表	東山遺跡の遺物① 縄文土器	第七表	東山遺跡の遺物⑤ 石器類
第4表	東山遺跡の遺物② 弥生土器		

## 図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真	図版13	本調査区 全景①～③
図版2	長須賀条里製造跡 第1トレンチ検出状況、 第2トレンチ検出状況・完掘全景	図版14	本調査区 全景④、ピット群全景
図版3	長須賀条里製造跡 第2トレンチ完掘全景、 第3トレンチ検出状況・完掘全景	図版15	出土遺物① (長須賀条里製造跡・東山遺跡第2トレンチ)
図版4	東山遺跡 第2トレンチ完掘全景・検出状況、 第3トレンチ検出状況	図版16	出土遺物② (東山遺跡第3・9・11～15トレンチ)
図版5	東山遺跡 第2トレンチ完掘全景、第3トレンチ(SD-2、ウシ足跡)	図版17	出土遺物③ (東山遺跡第15トレンチ拡張区①)
図版6	東山遺跡第3～5トレンチ検出状況	図版18	出土遺物④ (東山遺跡第15トレンチ拡張区②)
図版7	東山遺跡 第7トレンチ・第9トレンチ検出状況	図版19	出土遺物⑤ (東山遺跡第1・4～6・8・16トレンチ)
図版8	東山遺跡 第8・10トレンチ検出状況、第11トレンチ旧河道木質出土状況	図版20	出土遺物⑥(東山遺跡本調査区)
図版9	東山遺跡 第12トレンチ(SK-1)、第13トレンチ完掘前傾、第14トレンチ検出状況	図版21	出土遺物⑦(東山遺跡本調査区旧河道①)
図版10	東山遺跡 第15トレンチ小区画水田跡、SX-1検出状況	図版22	出土遺物⑧(東山遺跡本調査区旧河道②)
図版11	東山遺跡 第15・16トレンチ検出状況	図版23	出土遺物⑨(東山遺跡本調査区旧河道③)
図版12	本調査区 上層検出状況、土層断面	図版24	出土遺物⑩(東山遺跡本調査区旧河道④)
		図版25	出土遺物⑪(東山遺跡本調査区旧河道⑤)
		図版26	出土遺物⑫(東山遺跡本調査区旧河道⑥)
		図版27	出土遺物⑬(東山遺跡本調査区旧河道⑦)

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

千葉県土整備部は、東京湾アクアラインおよび館山自動車道開通による自動車流入量の増加に伴い、国道128号のバイパスとして一般県道館山大貫千倉線の利用者の増加が見込まれることから、本県道の拡幅および歩道建設工事を計画し、事業地区の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議を重ねた結果、記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 遺跡の立地と環境（第1図）

### 1. 地理的環境

房総半島南部に位置する館山平野は、北側・東側・南側を丘陵に囲まれ、西側に通称「鏡ヶ浦」と呼ばれる波静かな館山湾に面した弧状の海岸線（北条海岸）を持つ、南北に長い海岸平野である。本平野には南北方向に多くの砂丘列が存在するが、一般にこれらの砂丘列上は集落や畠地、その間の後背湿地は水田として利用されている。また、この平野の北部には富津市南端部に源を発する平久里川、南部には館山市南部の丘陵に発する汐入川という二級河川が館山湾に注いでいる。いずれも過去には幾度も氾濫を繰り返したようで、現在でも多くの旧河道の痕跡を見ることができる。このほかにも多くの小河川があり、館山平野は砂丘列と河川の氾濫などによって形成された自然堤防などが組み合わさせて、複雑な地形を呈している。長須賀条里制遺跡（1）と東山遺跡（2）は、このような館山平野の南端部付近に位置する。

### 2. 歴史的環境

長須賀条里制遺跡・東山遺跡の周辺には、千葉県教育委員会による埋蔵文化財分布調査によって多くの遺跡の所在が確認されているが、その多くは詳細不明であった。しかし近年の開発に伴う発掘調査により貴重な成果が得られ、各時代における館山平野の様相が明らかになりつつある。以下、時代別にいくつか例示しておきたい。

まず縄文時代では、出野尾貝塚（3）<sup>1)</sup>、宮原貝塚（4）<sup>2)</sup>、第1図の範囲外ではあるが大寺山洞穴<sup>3)</sup>などがある。出野尾貝塚と大寺山洞穴は海蝕洞穴であるが、後者は千葉大学考古学研究室と館山市教育委員会の調査により、後期の土器や骨角器など多くの遺物が出土した。このほか県指定史跡となっている鉈切洞穴<sup>4)</sup>も多く後の後期の遺物が出土しており、この時期の洞窟の利用を知る上で重要な資料である。

弥生時代では、東田遺跡（5）<sup>5)</sup>、萱野遺跡（6）<sup>6)</sup>などが挙げられる。東田遺跡は弥生時代～奈良時代にかけての複合遺跡である。平成8年度と平成9年度に当センターが発掘調査を実施し、弥生時代後期～古墳時代後期の集落跡や水場遺構を検出した。萱野遺跡は弥生時代～中世に至る複合遺跡で、平成11年度と平成14年度に当センターが調査を実施しており、後期の環濠のほか、多くの竪穴住居跡が検出された。両遺跡共に現在整理作業中である。

古墳時代では、墓域として東山遺跡の裏山にあたる南条横穴墓群、峯古墳（7）、熊野横穴群（37基）（8）、大寺山洞穴が知られる。当地域では高塚古墳はきわめて稀で、横穴墓が多いことが特徴である。大寺山洞穴からは舟を転用した舟葬墓と称される特異な埋葬形態が検出された。出土遺物は豊富で、衝角付



第1図 調査地点と周辺の遺跡 (S=1/25,000)

青や三角板鉄留短甲などの武器のほか、青銅製の鈴や多くの土師器や須恵器が副葬されていたことから脚光を浴びた。祭祀遺跡では、館ノ前遺跡（9）<sup>11</sup>、大戸入（沼つとるば）遺跡（10）<sup>12</sup>、小網坂遺跡（11）<sup>13</sup>、谷遺跡・新戸遺跡・觀音院遺跡（12）<sup>14</sup>などを挙げることができるが、多くは祭祀遺物のみが出土する遺跡であり、祭祀の形態などについてははっきりしていない。そのような中で東田遺跡と長須賀条里制遺跡<sup>15</sup>は、祭祀遺物が遺構に伴って出土した例として重要である。集落遺跡としてはこれまでのところ、前述の東田遺跡、萱野遺跡などが知られるのみである。前者では古墳時代後期の大型掘立柱建物や水際祭祀を伴う大溝、後者では集落のほかに古墳時代前期の古墳周溝など、特記すべき貴重な成果が得られている。

奈良・平安時代では県指定史跡の安房国分寺跡（13）<sup>16</sup>、条里制遺跡としては長須賀条里制遺跡のほか、北条条里制遺跡（14）、亀ヶ原条里跡（15）、下の台条里跡（16）、腰越条里跡（17）<sup>17</sup>、上真倉条里跡（18）などが知られる。この時期も集落はほとんど知られていなかったが、近年東田遺跡と萱野遺跡で検出された。

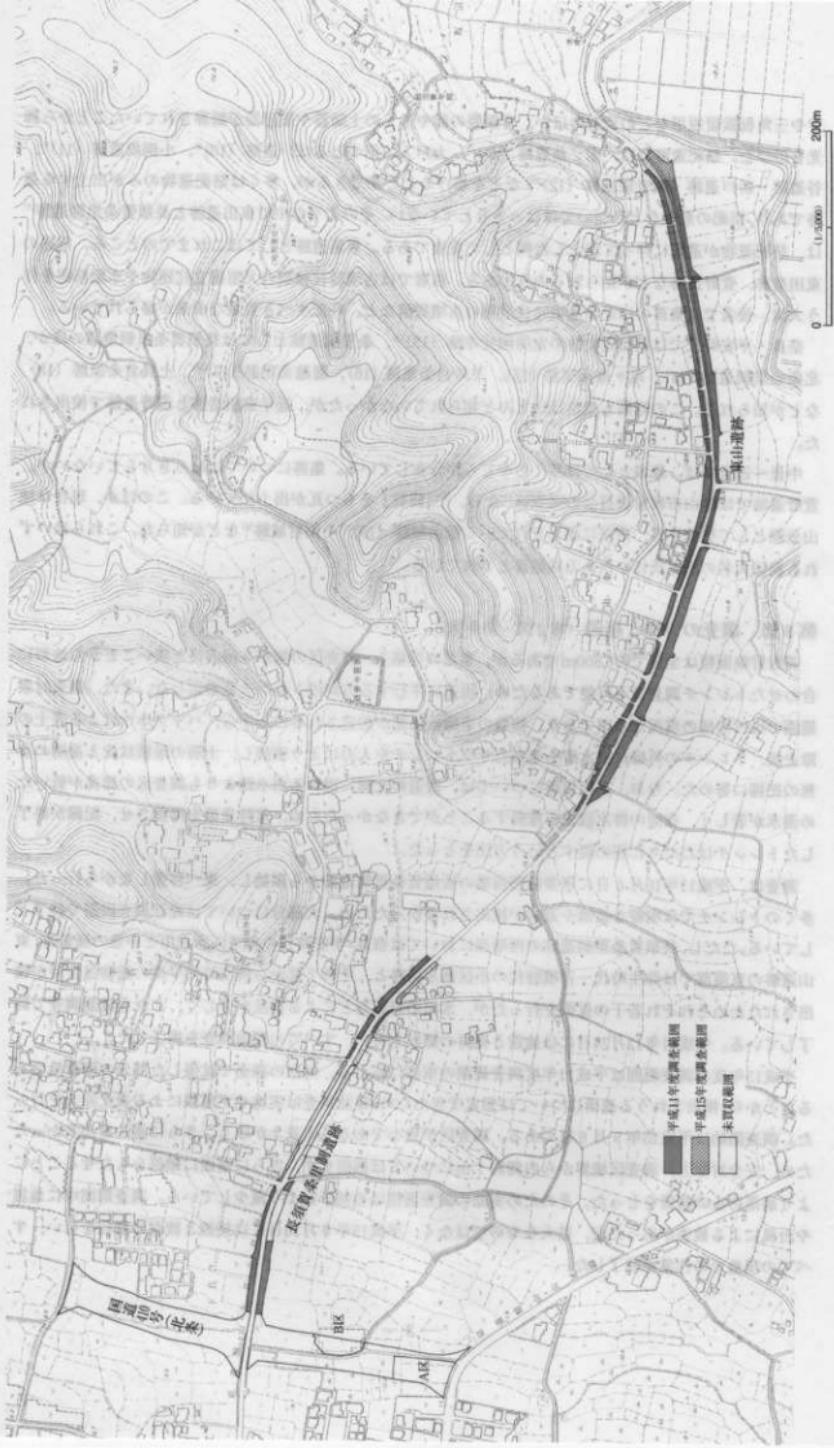
中世～近世では、墓域としては多くのやぐらが分布している。集落についてははっきりしていないが、萱野遺跡では館山市教育委員会の調査区<sup>18</sup>から、「三鱗紋」をもつ瓦が出土している。このほか、現在は城山公園として整備され、市民に親しまれている館山城跡（19）<sup>19</sup>や稲村城跡<sup>20</sup>などが知られ、これらはいずれも戦国大名の里見氏にかかわる城館跡とされている。

### 第3節 調査の方法と経過（第2図・第3図）

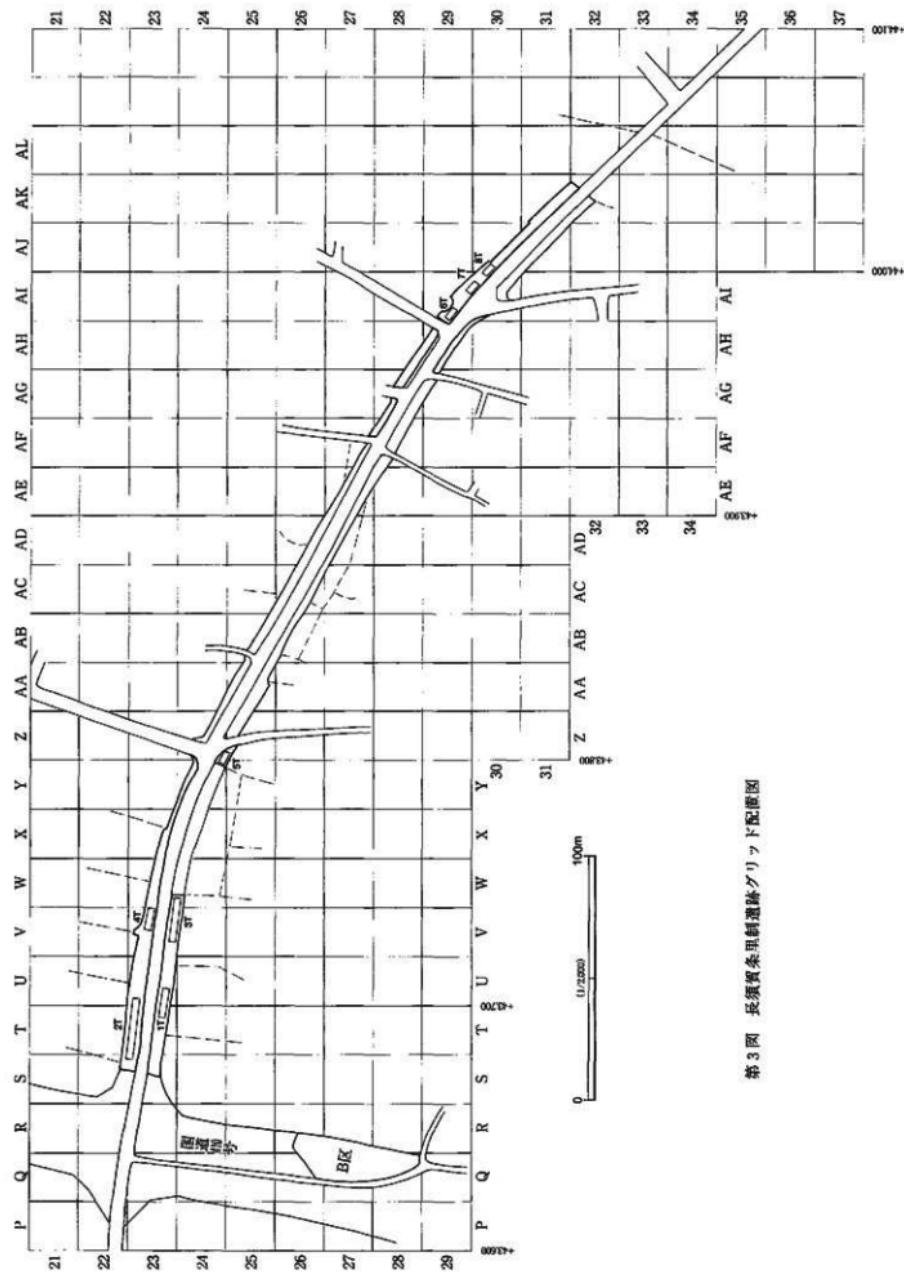
調査対象面積は全体で約6,800m<sup>2</sup>であるが、事業の性格上、調査区の幅が5m前後と狭いことから地形に合わせたトレントン調査は不可能であるため、現道に平行する方向のトレントンを設定した。また、調査対象範囲のほか全域の現況が水田であり、複数の遺構検出面が想定されることから、バックホウによる表土の除去後、トレントンの外縁に排水溝を兼ねたサブトレントンを人力により掘削し、土層の堆積状況と遺構の有無の把握に努めた。なお、東山遺跡については、現道の北側に流れる用水路よりも調査区の標高が低いため湧水が著しく、夜間の排水設備を稼動することができなかつたため、常時重機を待機させ、記録が終了したトレントンはただちに埋め戻すという方法をとった。

調査は、平成11年10月6日に事業範囲西端の長須賀条里制遺跡から開始し、東へ移動しながら行った。多くのトレントンでは明瞭な遺構や遺物が検出されなかつたため、大部分については確認調査段階で終了をしている。ただし、長須賀条里制遺跡の西端部においては奈良・平安時代の条里区画水田と中世の屋敷跡、東山遺跡の東端部では弥生時代～古墳時代の小区画水田跡と、その下部から绳文時代早期の遺物包含層が検出されたためそれぞれ若干の拡張を行つたが、水田の暗渠などによる擾乱が著しく、これも確認調査で終了している。平成11年12月24日には施設と機材の撤収を行い、すべての現地調査を終了した。

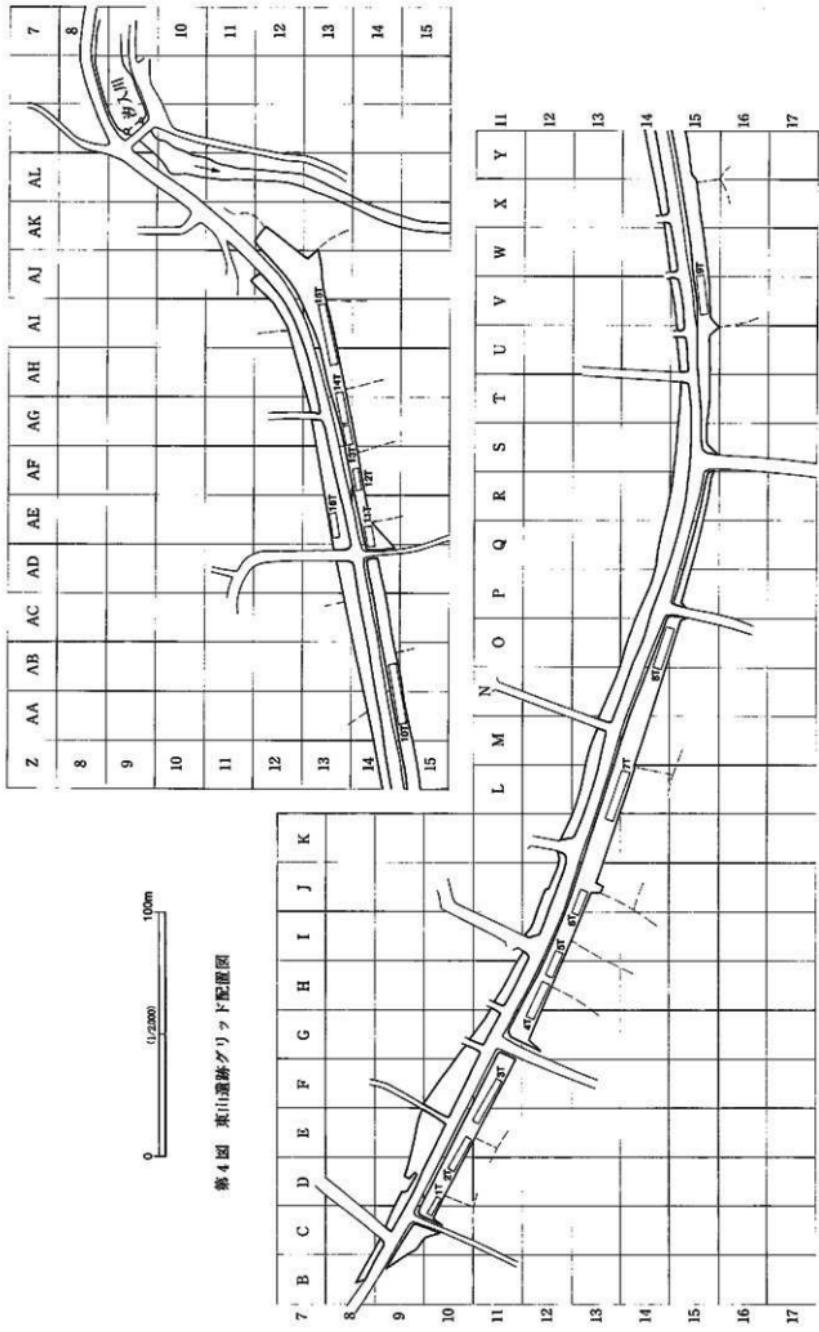
平成15年度の調査範囲は平成11年度調査範囲の東部にあたる。前回の調査で拡張した部分の隣接地であることから、検出されうる遺構については想定できたため、確認調査は実施せず重機による表土除去を行つた。調査開始は平成15年9月6日である。調査区が狭小であるうえ表土が厚く、さらに湧水量が多かつたため、安全対策上、調査区境界から内側約1mについては掘削せず、さらに崖面に傾斜をもたせることにより崩落防止の措置をとつた。そのため実際の調査面積は当初予定より減少している。調査期間中に地震や台風による被害があったが、甚大なものではなく、平成15年9月30日には施設と機材の撤収を行い、すべての現地での作業を終了した。



第2図 調査区と周辺の地形



第3圖 長須賀条里鉄道跡グリッド配置図



当センターの発掘調査では公共座標に基づくグリッド設定を行うが、平成11年度の調査区については確認調査で終了したため、現地調査の段階では工事用の測量杭を用いて実測作業を行った。平成15年度の調査区については、当初から本調査の予定であったため、東山遺跡全体を覆うように20m×20m方眼の大グリッドを設定した。大グリッドは公共座標のX = -113.0km, Y = +3.5kmを基点として東へ1~33, 南へA~Zの記号を付した。さらに大グリッド内を2mの小グリッドに分割し、各々の小グリッドを13AJ-22のように表示した。なお、整理作業の段階で、平成11年度の調査区についても、事業者より提供された工事関係の測量杭の座標成果から、グリッドを設定した。その際、長須賀条里制遺跡については国道410号（北条）の調査の際に利用したグリッドを踏襲している。なお、遺物の水洗と注記作業の一部については、現地調査と並行して実施した。

整理作業は平成16年度に実施し、遺物の水洗・注記の一部、記録整理、図面修正、分類、接合・復元、実測、トレース、写真撮影、挿図・図版作成、原稿執筆・編集、校正を行い、報告書を刊行した。また、移管用整理作業も実施し、平成16年度中にすべての作業を終了した。

なお各年度の作業内容、期間、組織、担当職員、面積は以下のとおりである。

#### 平成11年度

##### 長須賀条里制遺跡（上層確認調査）

期間 平成11年10月6日～平成11年11月12日

組織 南部調査事務所長 高田 博、担当職員 技師 城田義友

対象面積 1,770m<sup>2</sup> 上層確認 310m<sup>2</sup>, 上層本調査 0m<sup>2</sup>

##### 東山遺跡（上層確認調査）

期間 平成11年10月6日～平成11年12月24日

組織 南部調査事務所長 高田 博、担当職員 技師 城田義友

対象面積 4,800m<sup>2</sup> 上層確認 580m<sup>2</sup>, 上層本調査 0m<sup>2</sup>

#### 平成15年度

##### 東山遺跡（上層本調査）

期間 平成15年9月1日～平成15年9月30日

組織 南部調査事務所長 鈴木定明、担当職員 研究員 城田義友

対象面積 231.8m<sup>2</sup> 上層確認 - m<sup>2</sup>, 上層本調査 231.8m<sup>2</sup>

#### 平成16年度

##### 長須賀条里制遺跡・東山遺跡（整理・刊行）

期間 平成16年6月1日～平成16年11月30日

組織 中央調査事務所長 谷 句、担当職員 研究員 城田義友

## 参考文献

- 注1 出野尾貝塚 館山市史編さん委員会 1973 『館山市史』 館山市
- 2 宮原貝塚 財団法人總南文化財センター 2002 『年報』 №12 財団法人總南文化財センター
- 3 大寺山洞穴 岡本東三 1997-1999 『館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書』 I ~ III 大寺山洞穴遺跡調査会
- 4 鈍切洞穴 金子浩昌・和田哲ほか 1958 『館山市鈍切洞窟の考古学的調査』 早稲田大学考古学研究室
- 5 東田遺跡 城田義友・吉野健一 1999 『安房の古墳時代祭祀』 『研究連絡誌』 53 財団法人千葉県文化財センター
- 6 財団法人千葉県文化財センター 1998 『年報』 №24 財団法人千葉県文化財センター
- 7 菅野遺跡 財団法人千葉県文化財センター 2003-2004 『年報』 №27・№28 財団法人千葉県文化財センター
- 8 館ノ前遺跡 森谷ひろみ 1966 「祭祀対象不明の祭祀遺跡とその沖積地質について~館山市東長田および大戸館ノ前の場合」 『千葉大学文理学部紀要』 4 千葉大学
- 9 小網坂遺跡 館山市史編さん委員会 1973 『館山市史』 館山市
- 10 谷遺跡・新戸遺跡・觀音院遺跡 森谷ひろみ 1971 『式内社の歴史地理学的研究』 雄山閣  
財団法人總南文化財センター 2002 『年報』 12 財団法人總南文化財センター
- 11 長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡 高柳義春 1995 『長須賀条里制遺跡発掘調査報告書』 長須賀条里制遺跡調査会  
財団法人總南文化財センター 2002 『年報』 №12 財団法人總南文化財センター
- 12 高梨友子ほか 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡』 財団法人千葉県文化財センター
- 13 安房国分寺跡 館山市教育委員会 1980 『安房国分寺』 館山市教育委員会
- 14 萱野遺跡 財団法人總南文化財センター 1998 『年報』 №10 財団法人總南文化財センター
- 15 館山城跡 館山城跡調査会 1978-1980 『館山城跡調査概報』 第1次~第3次 館山市・館山市教育委員会  
第4次館山城跡調査会 1987 『館山城跡第4次調査報告書』 館山市・館山市教育委員会
- 16 稲村城跡 財団法人總南文化財センター 2002 『年報』 №12 財団法人總南文化財センター

## 第2章 長須賀条里制遺跡

### 第1節 概要（第2図）

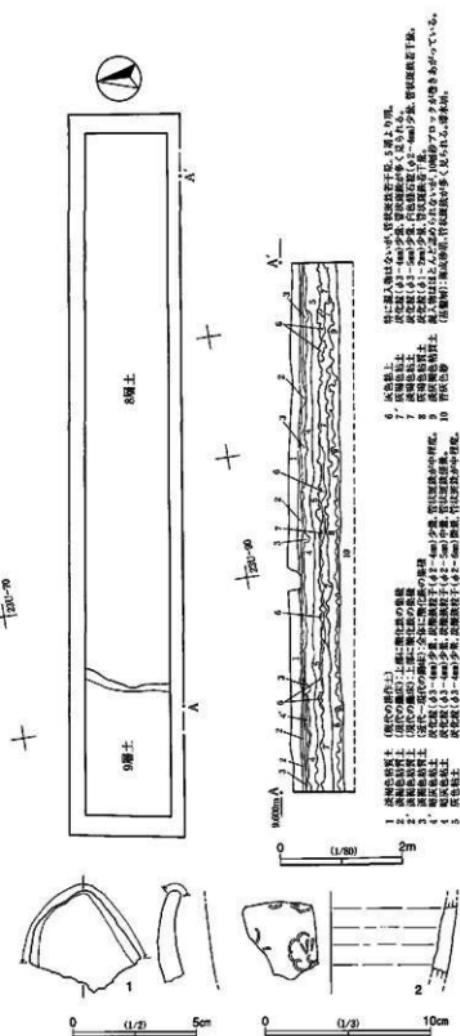
今回の事業範囲の西端に位置する。事業の対象となる部分の面積は2,857m<sup>2</sup>だが、調査時点で未買収の部分があったため、調査を実施した面積は1,843m<sup>2</sup>である。西端は国道410号（北条）バイパスの事業範囲に隣接しており、当該調査範囲で最も近い調査区は小区画水田を検出したB区と、AB区第3トレーニングだが、今回の調査区の西隣では遺構は検出されていない。各地点の現標高は第2トレーニング西端付近で9.4m、第4トレーニング東端で9.7m、道路北側の未買収地の西端付近が12.4m、中央付近が13.4m、東端付近が14.3mで最も高く、その東側の第6トレーニング付近は14.1mである。大まかに東から西に向かって傾斜している様子がうかがえる。確認面も同様の傾斜が認められるが、現地表面より標高差が大きい。これは遺跡北側の丘陵の尾根筋が埋没して未買収範囲周辺に延びていることを示している。

検出された遺構は古代の溝状遺構、中世のピット群と溝状遺構である。

### 第2節 検出された遺構と遺物

#### 1. 第1トレーニング（第5図、図版2・15）概要

調査区西端、現道の南側に設定したトレーニングである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.8m～0.9mで、周辺の堆積状況（国道410号バイパスのB区など）と比べると堆積土はかなり厚い。土層は遷移層を含め、13層程度に分けられたが、大きくは、淡褐色系の上層（1層～3層）、灰



色系の中層（4'層～7層）、灰褐色系の下層（8層・9層）にまとめられる。本トレンチの出土遺物は極めて少量であったが、遺物の時期から勘案すると、おおむね上層が近代以降の耕作土、中層が中世末～近世段階の耕作土、下層が古代～中世の耕作土と考えることができる。層位的に3面程度の耕作土を確認したことになるが、調査範囲が狭かったため、畦畔や水路といった明瞭な遺構は検出できなかった。第5岡の平面図に示したものは8層（下層）上面の段階であり、東から西に傾斜している。トレンチ東部の1/3程度の範囲では明瞭に8層が検出されたが、その西側では8層は残っておらず、同等レベルで9層が検出された。8層検出範囲と9層土検出範囲の境はトレンチ西部ではやや東に振れた南北方向であり、国道410号バイパス調査区のA区で確認された条里型水田の方向性ともほぼ合致することから、旧地形の緩斜面を利用した条里型水田区画の境を示す可能性がある。

#### 遺物（第5図）

古墳時代～奈良・平安時代の土師器、中世・近世の陶磁器が出土したが、量は僅少でほとんどが小破片であったため、図示し得たのは2点のみである。1は常滑系の壺の破片を転用した砥石、2は印花紋を施した瀬戸の灰釉瓶子で花瓶Ib類（中型仏花瓶）と呼ばれるものである。

#### 2. 第2トレンチ（第6・7図、図版2・3・15）

##### 概要

調査区西端、現道の北側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.4m～0.5m程度で、第1トレンチと比べると堆積土はかなり薄いが、国道410号（北条）調査区のAB区第3トレンチとはほぼ同程度の厚さである。堆積土は遺構の覆土を除けば3層に分けられたが、1・2層が暗褐色系粘質土、3層が暗灰色粘土であり、概ね上下2層にまとめられる。出土遺物から上層が近代～現代の耕作土、下層が近世の耕作土と考えられる。遺構は溝状遺構（11条）とピット群が確認された。

##### 遺構

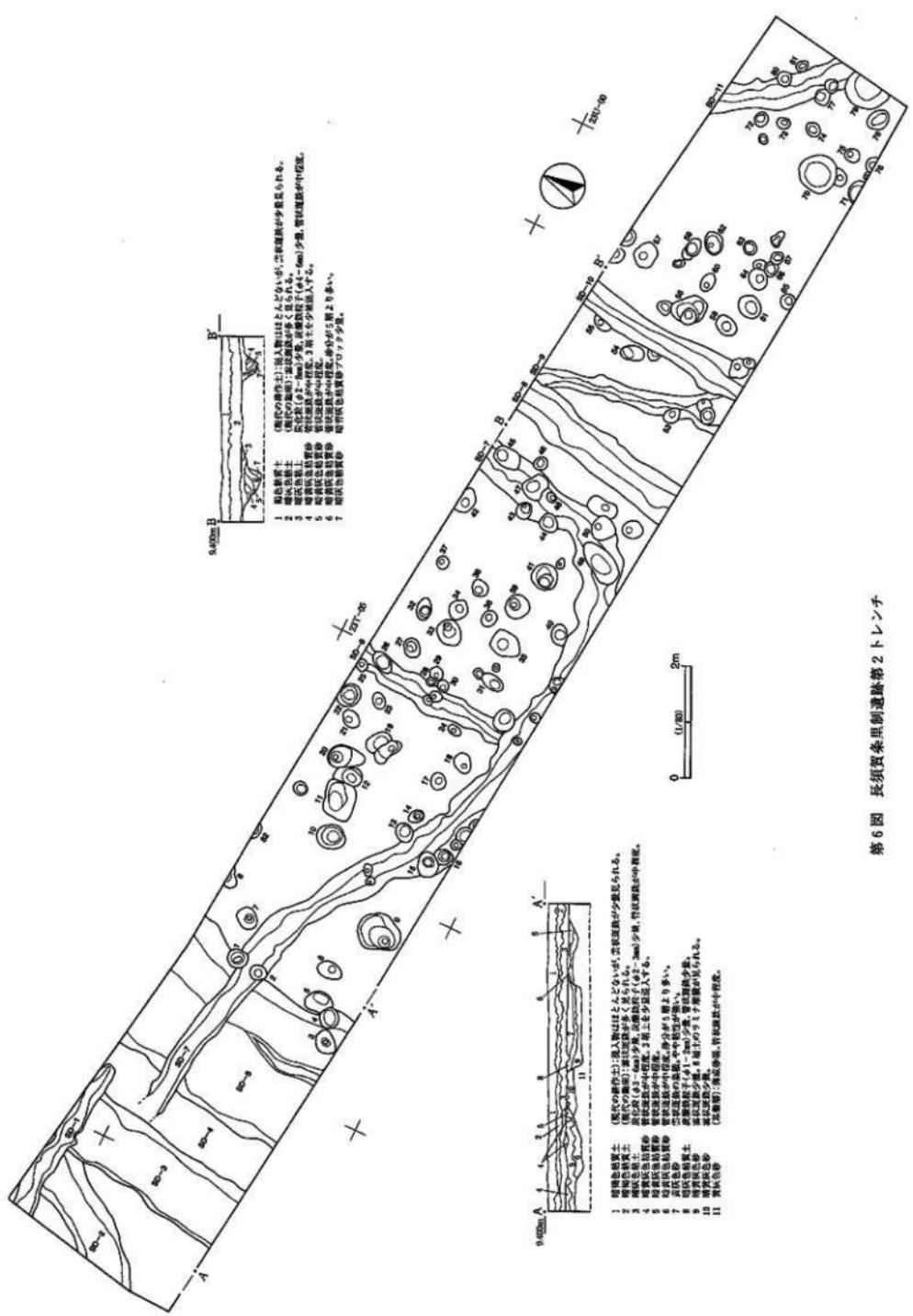
SD-1 トレンチ北西隅で検出された東西方向の溝状遺構である。重複関係からSD-2・3より新しい。幅0.3m～0.4m、深さは最も深い箇所で0.1m程度である。覆土は灰褐色系粘質土の単層で、遺物は出土しなかった。

SD-2 トレンチ西端で検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD-1・3より古い。幅1m前後、深さはもっとも深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は黒色もしくは黒褐色の粘質土で、本トレンチで検出された溝の中では異色である。覆土の状況から古墳時代あるいはそれ以前の時期の可能性が考えられたが、遺物は出土していないので断定できない。

SD-3・5 トレンチ西部で検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD-4・7より古く、SD-3はSD-2より新しい。共に幅1.2m前後、深さは最も深い箇所でも0.1m程度で、両者の間隔は2.4m前後である。国道410号（北条）調査区のA区で検出された条里坪畦畔のうち東側のものの延長線上にあたることからこの続きの坪畦となる可能性がある。覆土はシルト分の多い砂質土を主体とする。遺物は出土しなかった。

SD-4 トレンチ西部、SD-3と5の間に検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD-5より新しく、SD-7より古い。幅1.5m前後、深さは最も深い箇所で0.1mを僅かに超える程度である。覆土は上層と下層が砂を主体とし、中層に粘質土が挟まる。ラミナ等の堆積状況は見られないことから緩流性もしくは止水性の堆積と考えられる。遺物は土師器の小破片が出土したが図示できるものはない。性

第6図 長須賀条里製鐵跡第2トレンチ



格ははっきりしないが、本遺構より東側にピット群が存在するが西側には存在していないことから、居住域の区画溝の可能性が考えられる。

SD-6 トレンチ中央付近から検出された南北方向の溝状遺構である。SD-7 及び重複するすべてのピットより古い。幅0.5m前後、深さは最も深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は粘質砂を主体とする。遺物は出土しなかった。

SD-7 トレンチ中央付近で東西方向から北に向かう方向を変える溝状遺構である。重複するすべての溝より新しく、重複するすべてのピットより古い。幅0.5m~0.8m、深さは最も深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は灰褐色系粘質土の単層で、遺物は出土しなかった。

SD-8・10 トレンチ東部で確認された南北方向の溝状遺構である。SD-9 及び重複するすべてのピットより古い。いずれも幅0.5m~0.7m、深さは最も深い箇所で0.4m程度、両者の間隔は1.5m~1.8mである。覆土は粘質砂を主体とし、SD-8・10の間からの流れ込みによる堆積の様子が観察できた。性格ははっきりしないが、前述のSD-3・5と方向が一致し、SD-5とSD-8との間隔が10m弱であることから、条里型水田の南北小畦畔である可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器の小破片のほか、上層から中世の陶器類が出土している。

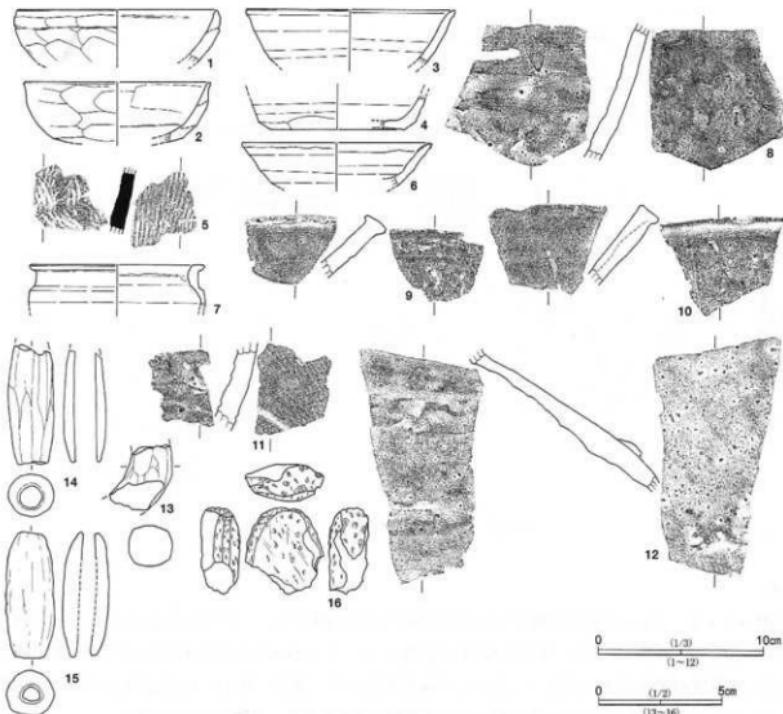
SD-9 トレンチ東部、SD-8・10の間で検出された溝状遺構である。SD-8・10より新しく、重複するすべてのピットより古い。幅0.3m~0.5m、深さは最も深い箇所で0.1mに達しない。覆土は暗灰色粘土の単層で、遺物は多くないが上層から中世の陶器等が出土している。

SD-11 調査区東端部で検出した溝状遺構である。他の溝状遺構とは重複しないが、重複するすべてのピットより古い。幅0.5m前後、深さは最も深い箇所で0.1mを僅かに超える程度である。方向は北西-南東で、覆土は黒褐色粘質シルトが主体の単層であることなど、SD-2と並び本トレンチ内の溝状遺構としては異色である。遺物は出土しなかった。

ピット群 SD-4より東側のほぼ全面から検出された。総数は116基である。それぞれ重複する溝状遺構より新しいが、SD-7と重複するものについてはこれより古い。平面形は円形もしくは梢円形で直径0.3m~0.8m程度、深さは概ね0.2m~0.5m程度である。P-10・20・22・82をはじめとして掘立柱建物として認識することのできる組合せも複数あるが、いずれも柱穴間の距離などが同一でないため、建物とするには若干の躊躇を感じる。ただ、柱材の残るピット(P-1・3・4)も検出されていることから、これらのピットが何らかの柱穴として利用されていたことは確実であろう。遺物はほとんど出土していないが、P-55とP-78、P-22から図示可能な遺物が出土している。

#### 遺物（第7図）

出土量は第1トレンチと比較すると明らかに多いが、小破片が多い点は変わらず、図示し得た遺物は全体の量の一部にとどまる。1・2・4・6・10・13・16はトレンチ覆土の中層～下層、3・12は拡張部分の中層～下層、5はP-55、8・14はSD-009の上層、9はP-78、11はSD-008、15はP-22から出土した。1・2は土師器杯で、いずれも体部外面は横方向のヘラケズリ、内面はヘラナデにより調整している。3・4はいわゆるロクロ土師器で、3についてにははっきりしないが、4は体部下端を持ちヘラケズリにより調整している。5は須恵器壺の胸部で、外面上にはタタキ目、内面にはいわゆる青海波と呼ばれる当て具痕が明瞭に残る。6・7は古瀬戸窯製品で、6が縁釉小皿、7が持腰形香炉である。いずれも古瀬戸後期様式第Ⅲ期に比定される。8～12は常滑窯製品で、8・11・12が壺の体部、9・10が片口鉢の口縁



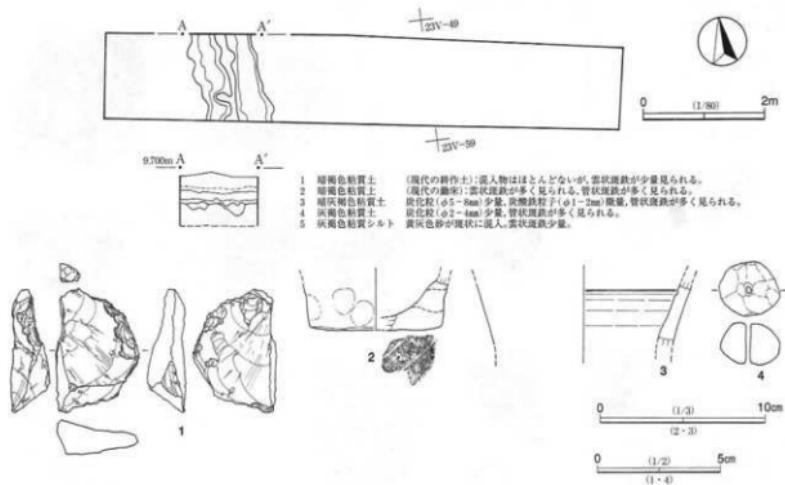
第7図 長須賀条里制遺跡第2トレンチの遺物

部である。8・12は外面に暗オリーブ灰色の釉がかかる。9・11はいずれも口縁端面は体部の傾きに対してほぼ直角で、上下に拡張される傾向がみられる事から常滑窯10型式（15世紀後半）、12は体部の傾きから常滑窯5型式以降（13世紀後半以降）と考えられる。13は上下の欠損した勾玉形の土製模造品、14・15は管状土錘である。16は軽石製品で、下部を欠損するが、上面、下面、側縁のいずれもに平坦面が形成されており、やや不明瞭ながら擦痕も観察されることから砥石と考えられる。

### 3. 第3トレンチ（第8図、図版3・4・15）

#### 概要

調査区西部、第2トレンチの東側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.3m～0.4m程度で第2トレンチとはほぼ同程度である。堆積土は遺構の覆土を除けば4層に分けられたが、1・2層が褐色系粘質土、2・4層が灰褐色系粘質土であり、実質的には上下2層にまとめられる。出土遺物から、第2トレンチと同様、上層が近代～現代の耕作土、下層が近世の耕作土と考えられる。遺構は溝状遺構（2条）が確認された。



第8図 長須賀条里製造跡第3トレンチ

### 遺構

SD-1・2 トレンチ西部で検出された南北方向の溝状遺構である。共に幅は0.4m~0.6m、深さは最も深い箇所で0.2m程度である。覆土は灰褐色の粘質シルトで、基盤層の砂が斑状に混入する。この2条の溝は0.2m程度の間隔をおいて並行しており、方向も国道410号（北条）調査区A区及び第2トレンチのSD-8~10とほぼ合致することから条里型水田の小畦畔と考えられる。遺物は出土しなかった。

### 遺物（第8図）

いずれもトレンチ覆土下層の一括出土遺物である。1は黒曜石の削器で、貝殻状剥片を半削し、側縁を調整することによって鋭利な刃をつくりだしている。2は土師器粗造土器の鉢で、外面には指頭押捺痕、底部には木葉痕を残す。3はいわゆる「締腰型」と呼ばれる古瀬戸灰釉瓶子の体部で、外面には暗オリーブ灰色の釉がかかっている。4は土玉である。

### 4. その他のトレンチ（第3図）

このほか、第1トレンチの東側に第4トレンチ、調査範囲中央付近の道路南側に第5トレンチ、東端付近の道路北側に第6~8トレンチを設定したが、遺構は検出されず、遺物も僅少で図示できるものはなかつた。

## 第3章 東山遺跡

### 第1節 概要（第9図～第12図）

今回の調査範囲は当初、南条遺跡と呼んでいたが、隣接する東山遺跡との差が不明であったため、館山市教育委員会の要請により、東山遺跡と呼称することになった。長須賀条里制遺跡の東端から東に200mほど離れた事業範囲の中央付近から東端の汐入川に至る範囲である。東山遺跡の周知範囲における事業の対象面積は5,158m<sup>2</sup>で、当初時点での未買収範囲は虫食い状に207.2m<sup>2</sup>であるが、後述の通り周辺から遺構が検出されなかつたため、買収後もこの部分については調査不要とした。このほか東端部に当初の対象範囲に入っていた231.8m<sup>2</sup>がある。また、買収済みであっても、現道からの段差や法面、水路が通っているたり、狭小であつたりしたため、実際には調査不可能な部分が625.1m<sup>2</sup>を占める。それでも調査可能と判断した4,951.5m<sup>2</sup>についてはできる限りトレンチを入れ、状況の把握につとめた。トレンチの総数は16か所で、うち3か所については拡張した。また、東端部については前述の通り平成15年度に全面確認により調査を実施している。調査範囲の現標高は、東端部第15トレンチ付近の17.4mが最も高く、西端の第1トレンチ付近が13.4m、第4トレンチ付近が12.2m、第7トレンチ付近が13.0m、中央部の第9トレンチ付近が13.3m、東部の第11トレンチ付近が10.4mである。調査範囲の西端と東端との距離は約1kmであるが、その中の標高差が僅か4mに満たない。しかし基盤層の高さには6m強の高低差がある。このことは今回の調査範囲が丘陵から若干離れているため、丘陵から延びる尾根筋が完全に地表面下に埋没してしまっていることを示している。

検出された遺構は、小区画水田跡、溝状遺構、旧河道、土坑、井戸、水路、掘立柱建物跡などである。遺物量は多くはないが、縄文時代早期～晩期、弥生時代中期～古墳時代前期、古墳時代後期～奈良・平安時代、中近世に至るさまざまな時代の遺物が出土した。

### 第2節 確認調査の遺構と遺物

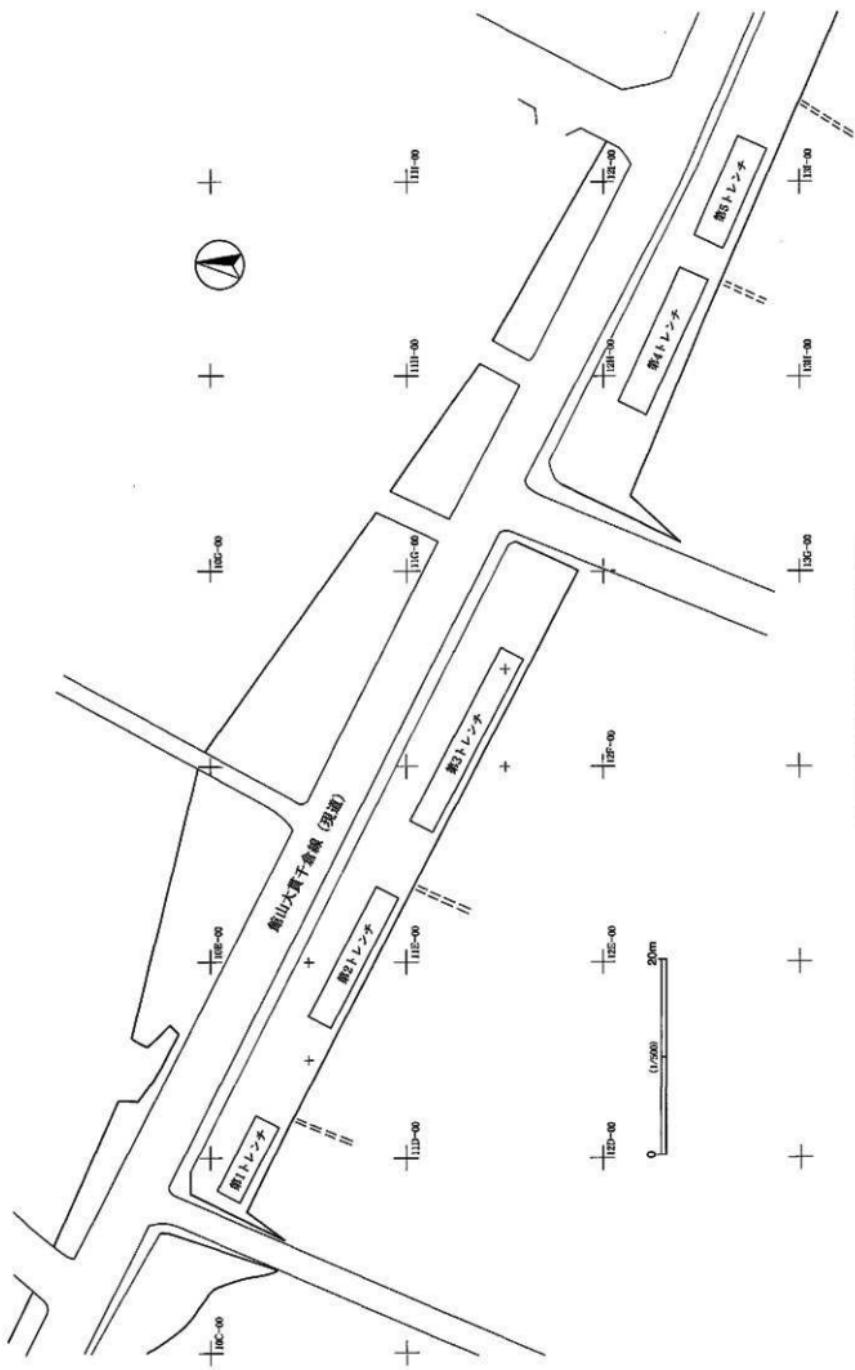
#### 1. 第2トレンチ（第13図、図版4・5・15）

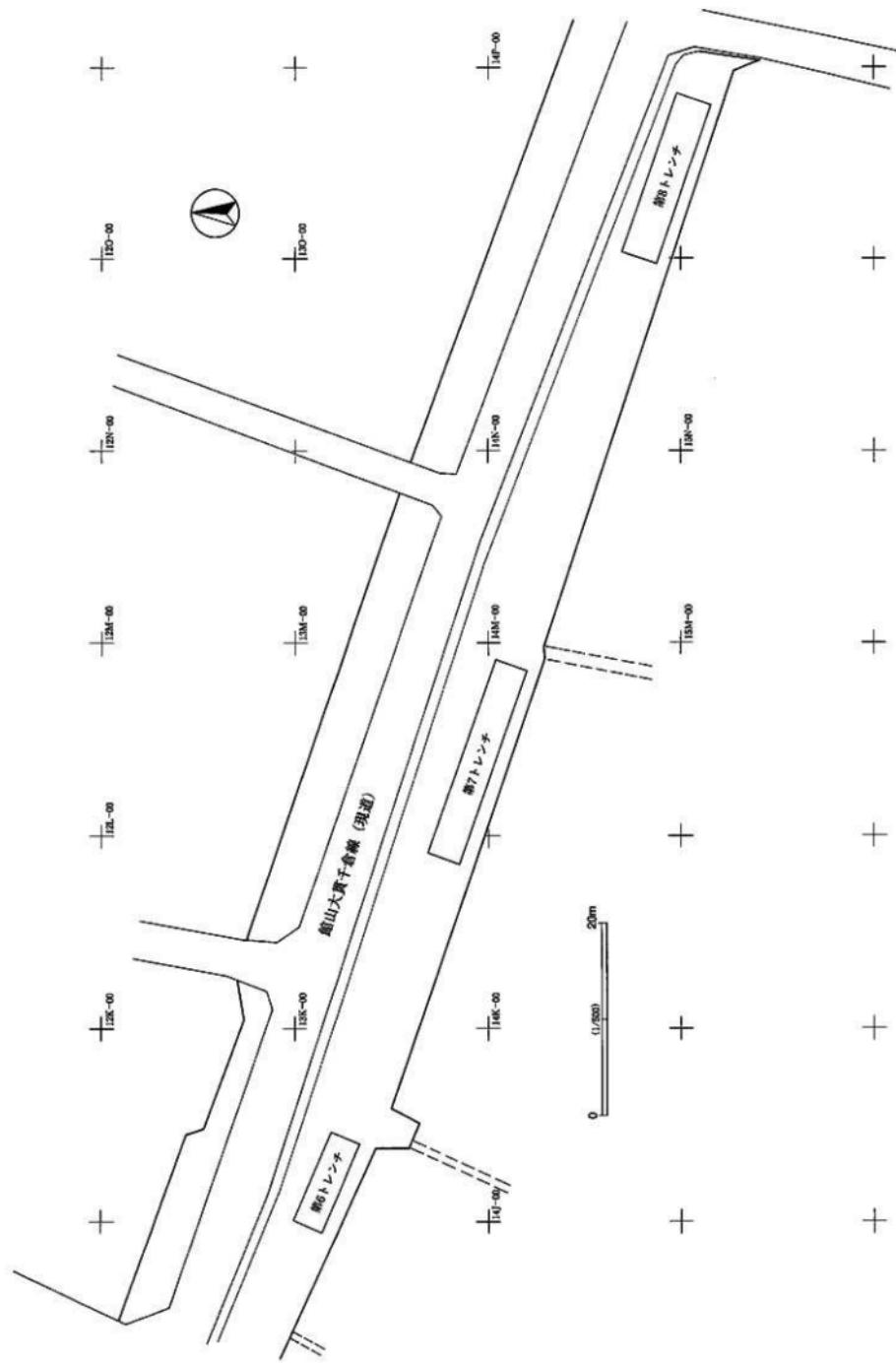
##### 概要

調査区西端の現道南側（第1トレンチ東端の東側8mの位置）に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.3m～0.4m程度で非常に浅い。堆積土は遺構の覆土を除くと、ごく近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土の單層で、遺構の検出面はこの粘質土層直下の10層上面である。遺構は溝状遺構、土坑などが確認された。

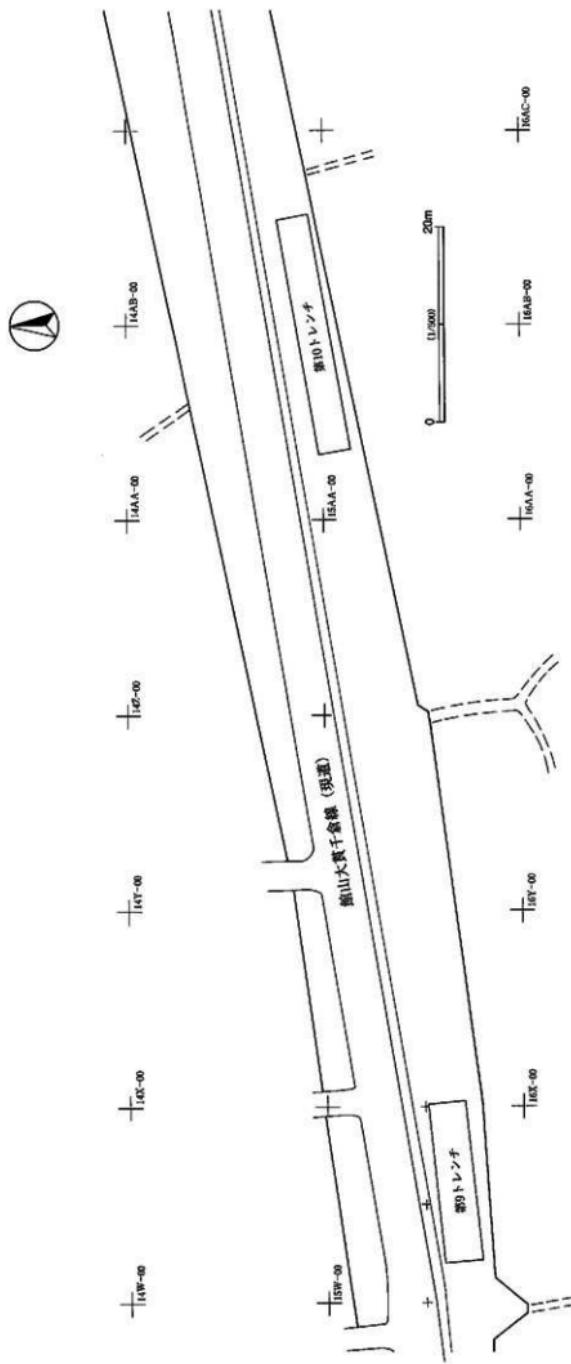
##### 遺構

SD-1 本トレンチ西部で検出された溝状遺構である。他の遺構との重複関係はない。幅1.4m～1.5m、深さは最も深い箇所で0.3m～0.4m、底面レベルは概ね北西から南東方向に傾斜している。断面はきわめて浅い逆台形で、西北西から東南東方向で直線的に伸びている。覆土はシルトもしくは砂質が中心で、ラミナ堆積が比較的顕著に発達し、木質の小片を多く含む層（9層）が認められることから、水路もしくは流路として利用されていたものと考えられる。遺物は古墳時代～平安時代の土師器小片が若干量出土してい

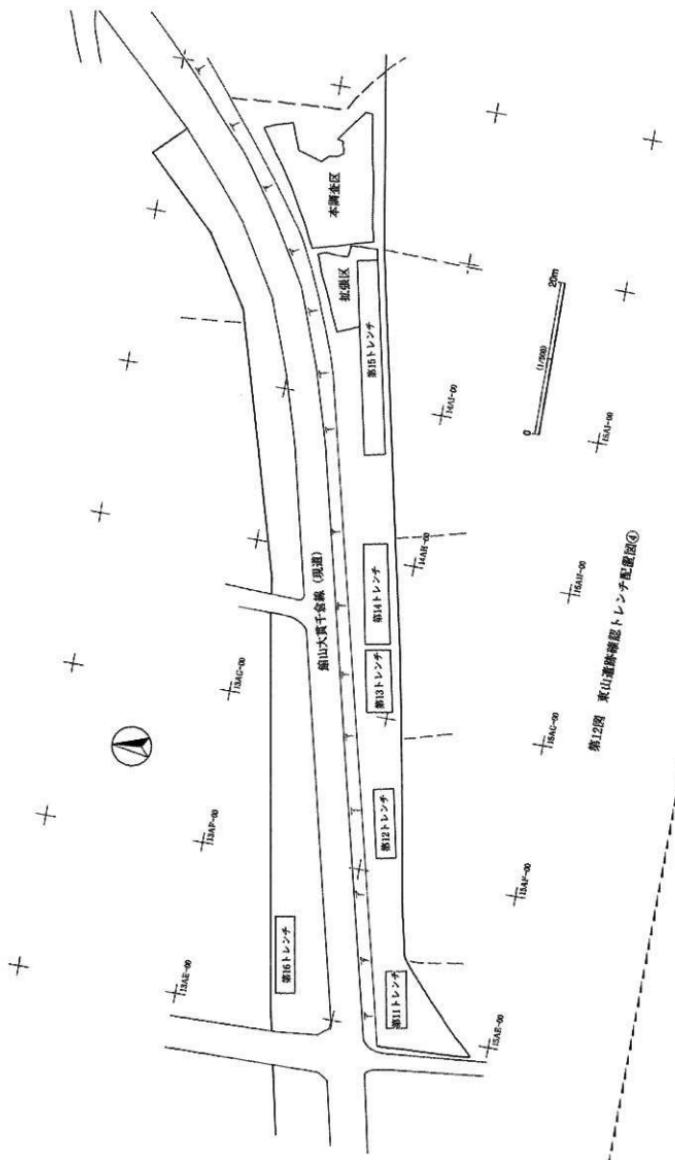




第10図 東山遺跡確認レンチ配置図②



第11図 東山連絡線トレンチ配管図⑤





X105-72

0 (1/80) 2m

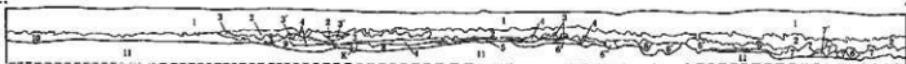
排水沟



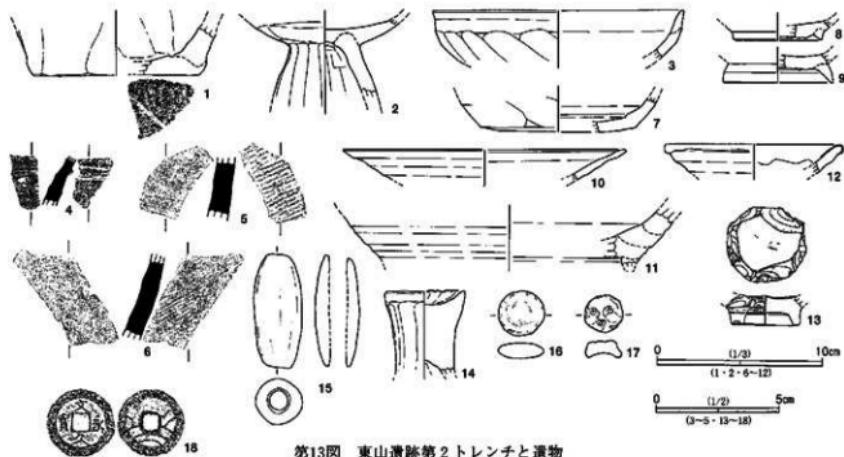
排水溝

A

A'



1. 黄褐色粘質土 (現代～近代の耕作土・耕作)  
2. 暗褐色粘土 (近世の耕作土)  
3. 黄褐色粘質土  
4. 暗褐色粘質土  
5. 黄褐色粘質土  
6. 黄褐色砂  
7. 岩間色粘土  
8. 黄褐色粘土  
9. 黄褐色粘質土  
10. 黄褐色粘質土  
11. 黄褐色砂
- (選択的記載)  
耕作層(1-3)少多、本片をやや多く含む。  
炭酸鉄鉱(4)少多。  
炭酸鉄鉱(5)少多。  
塊状入物はほとんど認められない。  
炭酸鉄鉱(6)少多。  
炭酸鉄鉱(7)少多。
- 炭酸鉄鉱(8)少多。  
炭酸鉄鉱(9)少多。  
木片多く含む。  
炭酸鉄鉱(10)少多。  
塊状入物はほとんど認められないが、粒径の異なる粒子のラミナ堆積が見られる。  
(基盤部) 海成砂原、潮状地盤が中程度。



第13図 東山遺跡第2トレンチと遺物

るが、図示し得るものはない。

SD-2 本トレンチ東部から検出された南北方向の溝状遺構である。断面は逆台形に近く、幅0.2m～0.4m、深さ0.1m程度で、底面は概ね北から南へ傾斜している。覆土はシルトを主体とし、やや細かい砂や暗褐色粘質土の混入するラミナ堆積が認められる。遺物は出土しなかった。

SD-3 本トレンチ東部から検出された南北方向の溝状遺構である。幅0.4m～0.6m、深さは0.1mに満たない。底面は概ね北から南へ傾斜している。覆土はSD-2とほとんど同様で、ラミナ堆積が認められる。遺物は出土しなかった。

**SX-1** トレンチ東端部で確認された段差であるが、遺物が比較的多く出土したため、その他の遺構として扱った。断面観察からSD-3より古い。段差の肩は東におよそ30°振れた方向で伸び、深さは0.1m～0.2m、底面にはやや顕著な凹凸がある。覆土は上層では砂を中心とするが、下層では暗褐色粘土やシルトを中心とし、それぞれ互いにブロック状になったものの混入が見られる。古墳時代～中世初期の遺物が出土している。

#### 遺物（第13図）

1・5・10・11・14はSX-1の覆土（7層）から、2～4・6～9・12・13・15は検出面（10層上面）、16～18はSX-1の2層中から出土した。1～3は土師器で、1は底部に木葉痕を残す甌、2は筒状の脚部に杯部をはめ込むタイプの高杯、3は体部に斜め方向のヘラケズリを施した杯である。4～6は須恵器甌で、4が口縁部、5・6は胴部の破片である。後者は外面にタタキ目を残すが、内面の当て具痕はケズリによって取られ、その後ヘラナデを施されている。7は非クロクロの土師器杯で、体部と底部には手持ちヘラケズリを施す。8～10はロクロ土師器である。8・9は炭素吸着による内面の黒色処理を行った高台付杯で、10はやや大ぶりの甌である。11は瓷器系陶器、いわゆる山茶碗系の片口鉢である。胎土は石英粒などを多く含む粗いもので南部系のものと考えられる。12は古瀬戸縁袖皿の口縁部で、器形や厚みから卸皿となる可能性がある。13は染付碗で、体部はすべて打ち欠かれている。14は脚部を欠く白形の土製模造品で、外側はヘラで丁寧に調整されている。15は管状土錘、16は上製の碁石であろうか。17は人面の泥面子で、裏面に型押しの際の指頭押捺痕を残す。18は文久永宝で、俗に「真文細字」と呼ばれるものである。外縁外径2.7cm、内郭外径0.8cm、孔幅0.65cm、外縁厚の平均0.1cm、肌厚の平均0.05cm、量目は3.40gで、若干腐食しているが表裏共に銘文は明瞭である。

#### 2. 第3トレンチ（第14・15図、図版4～6・16）

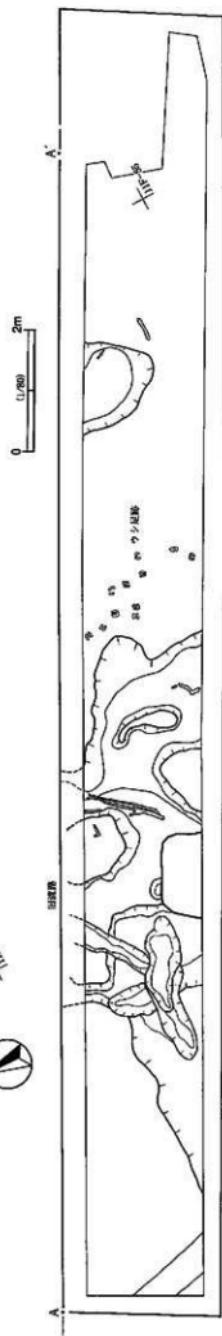
##### 概要

調査区西部、第2トレンチ東端の東側6mの位置に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までは0.3m～0.5mで浅く、東から西に傾斜している様子がうかがえる。第2トレンチと同様、堆積土は遺構の覆土を除くと近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土もしくは暗褐色粘土の単層として把握することができる。遺構の検出面はこの粘質土層の直下、基盤層部分では11層上面である。遺構は旧河道、土坑のほか、ウシの足跡が確認された。

##### 遺構

**SK-1** トレンチ東部から確認された土坑である。北側の半分程度がトレンチ外にかかっているので規模ははっきりしないが、長軸長0.8m、深さ0.1m程度である。覆土は暗褐色粘土の单層で、若干の自然木小片を含む。遺物は出土しなかった。

**SD-1・2（旧河道）** トレンチ中央部やや西よりで確認された旧河道である。平面形状は不整であるが、断面形は逆台形を呈し、幅は1.8m～2.5m程度、深さは最も深い箇所で0.3m程度である。覆土は上層が暗褐色粘土、下層が暗褐色粘質砂を主体とし、それぞれ黄褐色砂や暗褐色の泥質シルトなどのブロックを含む。特に下層において、やや粗い砂を中心とするラミナ堆積が発達していることから流水性の堆積と考えることができる。大まかに東西の2条に分けられるが、底面の高さから見て、いずれも北から南へ流れていたものと考えられる。遺物は古墳時代の土師器・須恵器の小破片が出土したが、大部分は図示し得るものではない。



第14図 東山遺跡第3トレンチ

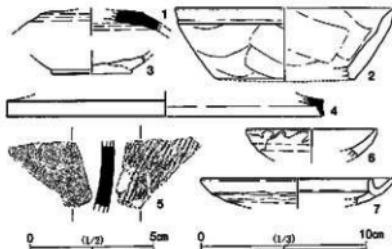


ウシ足跡 調査区中央付近の基盤層（11層）から検出された。トレンチ内の全域を精査して検出に努めたが、図示した範囲以外では見つからなかった。合計11個で、ほとんどは左右の蹄が離れている。大きさは幅が8cm～13cm、長さが8.5cm～12cmであり、覆土は4層土に類似するが、同一かどうかははっきりしない。

#### 遺物（第15図）

SD-2から出土した1以外はいずれも遺構検出面（11層）上面から出土した遺物である。

1は須恵器杯蓋である。2は非ロクロの土師器杯で、底部を完全に欠くが、体部外側に横方向のヘラケズリを施す。3はロクロ土師器杯である。底面は回転ヘラケズリと考えられるが、磨耗が著しくはっきりしない。4はやや大ぶりの須恵器杯蓋で、「かえり」が若干外反している。5は須恵器甕の体部で、外側にはタタキ目、内側には弱い當て具痕（青海波）が残るが、共にヘラナデが施されている。6は古瀬戸灰釉小皿で、内面の全面と外側の口縁部に明オリーブ灰色の釉がかかっている。7は瀬戸美濃系の褐釉灯明皿で、内面全面と外側の口縁付近に暗褐色の釉がかかっている。



第15図 東山遺跡第3トレンチの遺物

### 3. 第9トレンチ（第16・18図、図版7・16）

#### 概要

調査区中央付近の現道南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までは0.2m～0.3m程度で極めて浅い。基盤層そのものは均質ではなく、やや粒の粗い砂層やシルト層、未分解の木質屑層などが交互に堆積する複雑な堆積状況を示しており、顕著なラミナ堆積も見られることから、汐入川の洪水による堆積と考えられる。また、この基盤層は水平堆積ではなく、西から東へ若干傾斜している様子がうかがえる。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色粘土土、それ以前の耕作土と考えられる暗褐色粘質土の2層が認められ、灰色粘土層直下で遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかったため、統いて2層の直下で確認を行った。第9図の平面図は2層直下の検出状況である。遺構は畦畔を検出した。

#### 遺構

畦畔 トレンチ中央付近に南北方向（A）、トレンチ西部に東西方向（B）の各1条が確認できた。本トレンチは黄灰色砂あるいはシルトの基盤層に、耕作に伴う暗褐色粘質土の鋤込の痕跡が明瞭であったが、その中に耕作痕のない帶状の部分があったため畦畔と認定したもので、いわゆる「擬似畦畔B」と呼ばれる状態であり、本米の畦畔の高まりや耕作土は遺存していない。畦畔Aは幅0.3m～1.0m、畦畔Bは1.0m～1.2m程度で、軸方向は畦畔AがN-62°-E、畦畔BがN-28.5°-Wである。時期ははっきりしないが、現水田の軸方向（N-12°～15°-E）とは明らかに異なっていることから、条里型水田の可能性も考えられる。

#### 遺物（第18図1・2）

古墳時代～平安時代の土器類を中心とするが、ほとんどが小破片であり、図示し得る遺物は極めて限られる。図示した遺物はすべて2層中からの出土である。

1は内面に炭素吸着による黒色処理を施したロクロ土師器の高台付杯で、高台はやや高く、わずかに「ハ」字状に広がる。2は須恵器甕の頸部破片である。ロクロナデの痕跡が顕著で、下部にロクロナデによる1段の稜を残す。

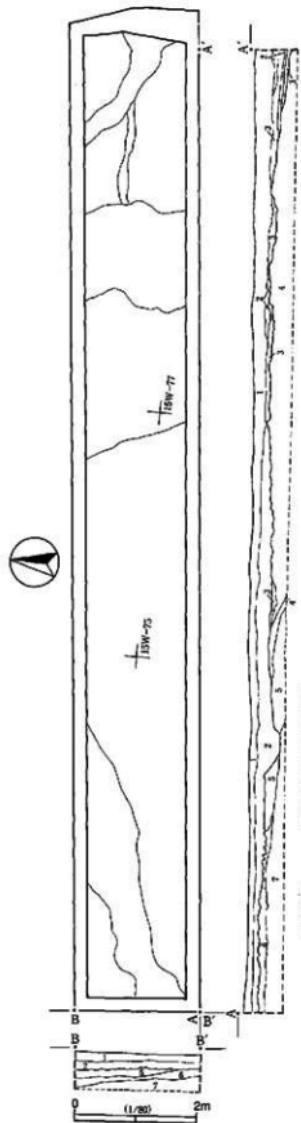
### 4. 第11トレンチ（第17・18図、図版8・16）

#### 概要

調査区東部の道路南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までの深さは、0.2m～0.3mと非常に浅い。第9トレンチと同様に基盤層そのものも均質ではなく、汐入川の洪水による堆積と考えられる。ただ、第9トレンチと異なり、堆積はほぼ水平で傾斜等は認められない。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色あるいは暗褐色粘質土の単層として把握されたため、灰色粘質土層の直下（基盤層上面）で遺構の確認を行なった。遺構は旧流路が検出された。

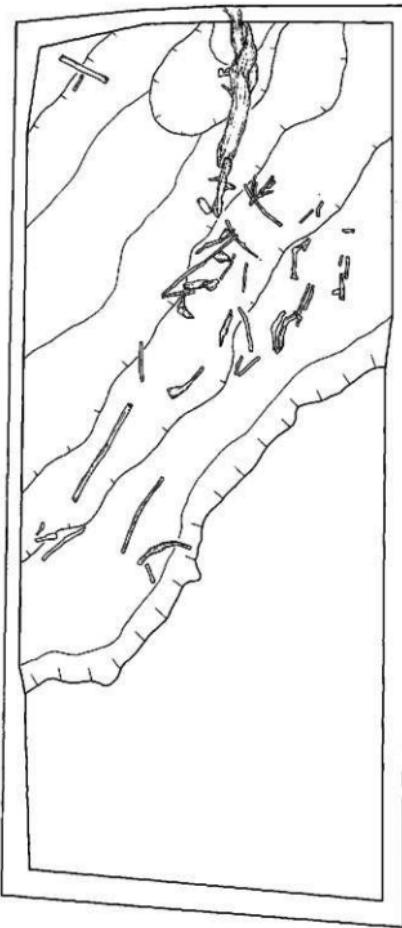
#### 遺構

SD-1（旧流路） トレンチ東半部で検出された溝状遺構である。幅は北側がトレンチ外にかかるため不明であるが、遺存部分では6m以上、深さは最も深い箇所で0.3m～0.5mである。覆土は暗褐色の粘質土と黄褐色砂、シルトの互層で、ラミナ堆積が顕著に認められる。また覆土中層～上層には漂着したものと考えられる木質や未分解の木葉が多く認められる。この木質はすべて広葉樹で、樹種は不明である。直径2cm程度の枝が多く、直径15cmを超える幹なども含まれている。流路の底面はやや凹凸があり、北西端と南東端での標高差がほとんどないためはっきりしないが、この延長上に北側の丘陵を開拓する小支谷

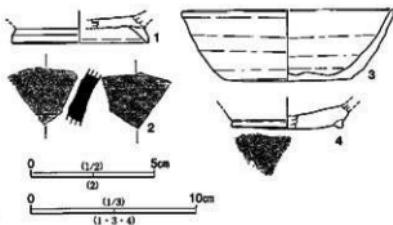


第16図 東山遺跡第9トレンチ

(解説の操作)「性別」を聞いて、  
「男」は男性、女性は女性と答えた。  
丁寧に説明が出来た事で、会話の質の高さが窺えた。  
性別を問うる事で、性別教育が実現する事に意図がある。  
性別教育が実現すれば、性別差別が減る事に期待される。  
未だ「未満年齢の性別教育」が多くある。



第17図 東山遺跡第11トレンチ



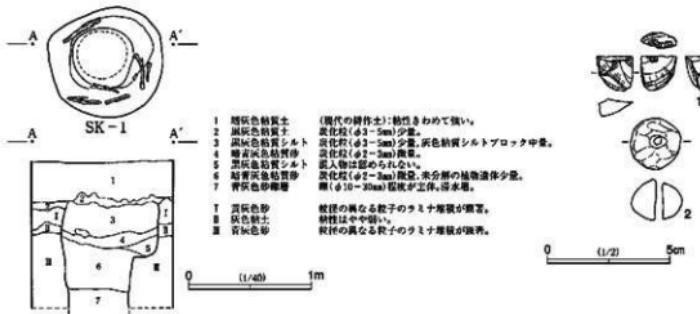
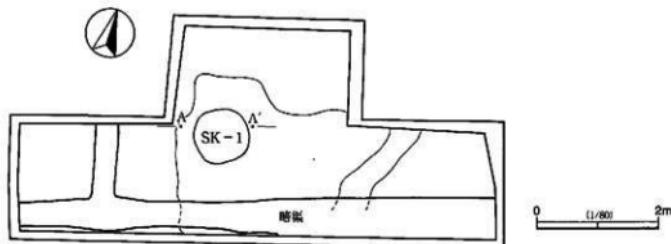
第18図 東山遺跡第9・11トレンチの遺物

い。底部は磨耗が著しいため調整技法は不明である。4は非クロコロの土器器杯である。底部は厚くやや丸底気味で、粘土紐の貼り付けにより高台を作り、わずかに底部が突出する。

#### 5. 第12トレンチ (第19図、図版9・16)

##### 概要

調査区東部の現道南側（第11トレンチの東端から東に15mの位置）に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までの深さは0.3m程度と浅い。これも第9トレンチと同様に基盤層そのものも均質ではなく、汐入川の洪水による堆積と考えられる。ただ、第11トレンチと同様、堆積はほぼ水平で傾



第19図 東山遺跡第12トレンチと遺物

斜等は認められない。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色～暗灰色の粘質土と黒灰色粘質土の2層として把握されたため、灰色粘質土層の直下（2層上面）で遺構の確認を行なうとしたが、暗渠による搅乱が著しく、湧水も激しかったため、基盤層直上での遺構確認に切り替えた。遺構は井戸跡と考えられる土坑が検出された。

#### 遺構

**SK-1（井戸跡）** トレンチ中央付近の北側壁面にかかった状態で検出されたため、拡張して全体を確認した。直径0.9m～1.1mの円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は上層が黒灰色の粘質シルトや砂で覆われ、ところどころ黒色の泥炭質シルトなども混じる。中層～下層は未分解の植物質遺体を含む粘質砂層となっている。湧水により危険であるため底面までは掘削できなかったが、検出面下1.0m程度で砂礫層が検出された。

#### 遺物（第19図）

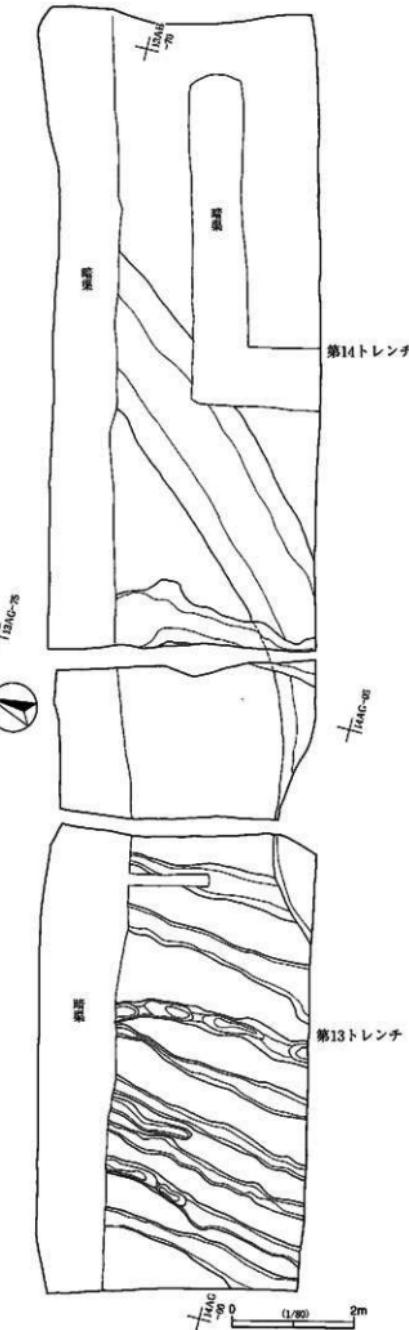
本トレンチも遺物の時期の中心は古墳時代～中世の土器類であるが、ほとんどが小破片である。図示し得たのは2点で、1がトレンチ覆土2層から、2はSK-1覆土上層から出土した。

1は黒曜石製の上部の欠損した剥片で、下端は蝶番状となっており、裏面の左側縁下半部に使用痕（刃こぼれ）がみられる。2は土玉である。

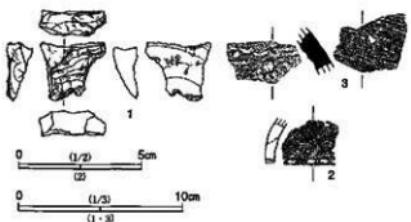
#### 6. 第13・14トレンチ（第20・21図、図版9・16）

##### 概要

調査区東端付近の道路南側（第12トレンチの東10mの位置）に設定したトレンチである。当初は間に3mの間隔をあけた別のトレンチとして設定したが、後に間に部分について拡張したため、実質的にひとつのトレンチとなった。ただ、呼称については当初の方法を踏襲している。現地表面から基盤層である砂層までの深さは0.2m～0.3m程度と非常に浅い。第11トレンチと同様に基盤層は均質ではないが、堆積は水平方向で、傾斜は見られない。覆土はすべて近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土で、それ以前の堆積土は残っていなかった。遺構は歓溝が検出された。



第20図 東山遺跡第13・14トレンチ



第21図 東山遺跡第13・14トレンチの遺物

からはこれらの溝状遺構とほぼ軸を同一とする浅い溝状遺構が検出されており、SX-1東端の溝とこの溝との間隔は2.8m～3.0mである。覆土は暗褐色粘質土の単層である。

#### 遺物（第21図）

トレンチそのものの覆土が板めて浅いため、遺物はごく僅かである。1は黒曜石製の剥片だが、楔形石器の製作に伴うものと考えられる。2は縄文土器、3は須恵器である。

#### 7. 第15トレンチ上層（第22・23図、図版10・11・16）

##### 概要

確認調査時点での、調査対象範囲東端の道路南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層までの深さ0.8m～1.3mだが、トレンチ西端では少なくともこの深さでは基盤層を確認できなかった。基盤層はトレンチ西部がグライ化した砂もしくは粗砂、東端部では黄灰色の軟質砂岩ブロックを多く含む暗褐色砂層（Ⅱ層）である。特に東部の基盤層は明らかな再堆積土壤であるが、その下層では、現地表面から0.9m～1.0m程の深さで西部と同様なグライ化した砂層を検出している。また東部では軟質砂岩ブロックを含む基盤層からやや多くの縄文土器と剥片類が出土したため、この周辺部分については拡張を実施した。トレンチの覆土は大まかに近現代の耕作土と考えられる灰色～黒灰色系の粘質土（上層）、中世～近世の耕作土と考えられる暗灰色粘質土（中層）、古代とそれ以前の耕作土と考えられる黒色粘質シルトもしくは暗褐色粘質土（下層）に分けられる。またトレンチ西部ではこの下に、黒色粘質砂層がありラミナ堆積を示している。遺構は3面以上の水田耕作土層が確認されたが、平面的に確認されたのは7層もしくは6層上面で検出した小区画水田のみである。

##### 遺構

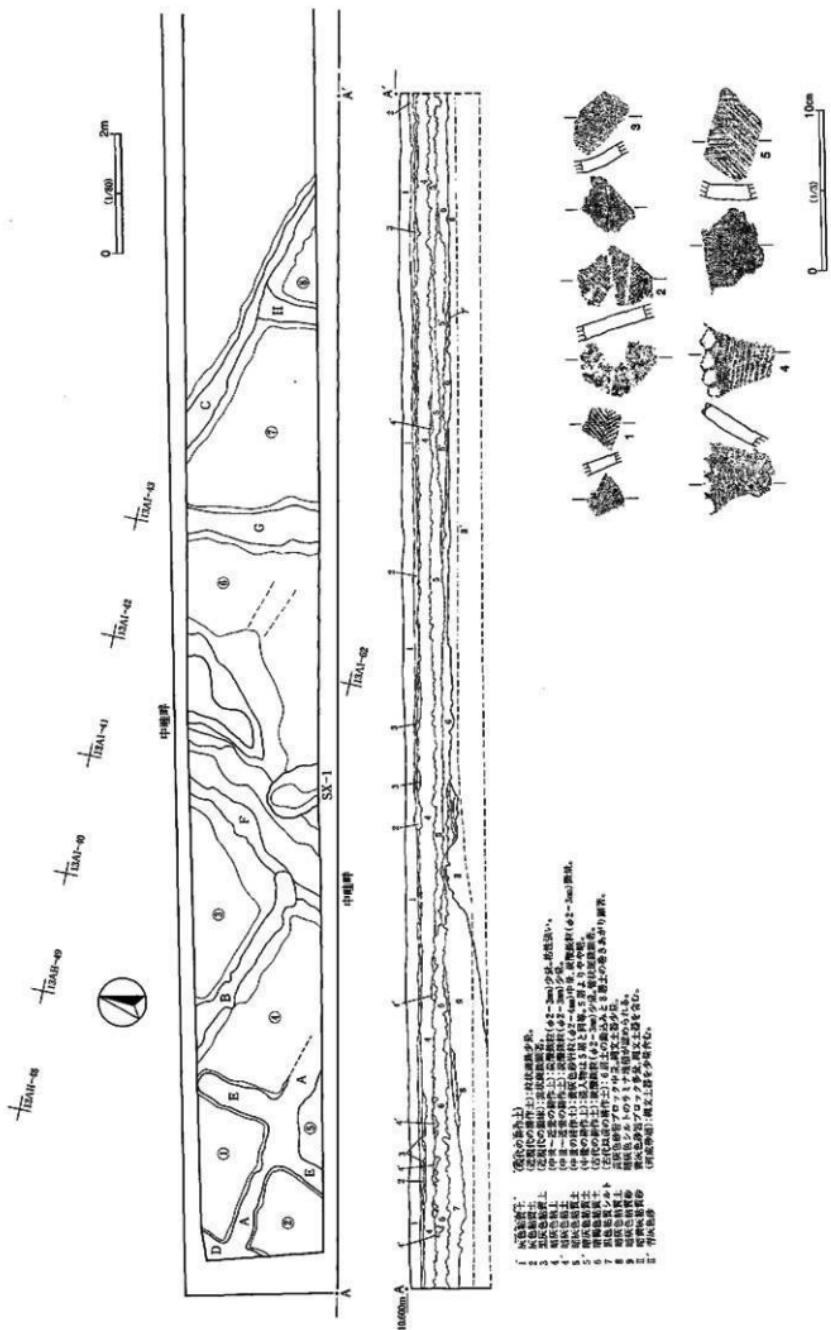
小区画水田 トレンチの西半部より確認され、東西方向に3条（A～C）、南北方向に5条（D～H）の畦畔とそれらに囲まれた水田区画8区画のほか、水路1条が検出された。

検出面である7層上面には、不明瞭ながら8層土を主体とする半月状の耕作痕跡が多く見られたが、畦畔部分にはこの痕跡を欠いている。本来の畦畔に伴う盛り土等はすでに失われ、その基部のみが遺存するいわゆる「擬似畦畔B」と呼ばれる検出状況である。また南北畦畔Fに関してはさらにその下部の基盤層（Ⅱ層）が相対的に帯状に盛り上がったような状況であり、その脇に水路と考えられる溝を伴うことから他の畦畔より大きな区画を示す大畦畔もしくは中畦畔と考えられる。トレンチ内部のみの断片的な確認状況であるため区画の面積は不明であるが、形態は一辺2m～4mの長方形が基本となり、平行四辺形や菱形に変形したものも見られる。畦畔の幅はFが0.8m～1.0m、それ以外のものは0.2m～0.4m、軸方向はA～C

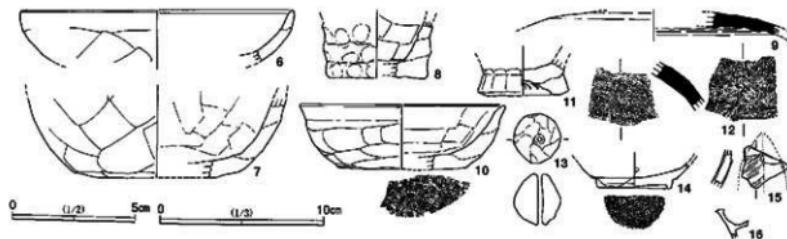
##### 遺構

#### SX-1（歎溝）

並行する複数の浅い溝状遺構として認識される。第13トレンチのほぼ全面にわたり、9条が確認された。それぞれの溝状遺構の幅は0.3m～0.5m、深さは0.1m程度で、溝間の距離は0.5m～1.0m程度である。軸方向は南北だが5°～10°程度東に振れてい。底面には若干の凹凸があるが、耕作痕跡かどうかははっきりしない。また第14トレンチの西部



第22図 東山遺跡第15トレンチ小区画水田跡



第23図 東山遺跡第15トレンチの遺物

がN-15°~22°-W、南北畦畔ではN-28°-Eの南北F畦畔と水路を境に、その東側のD・EがN-3°~9°-W、西側のG・HがN-13°~18°-Eである。水路は南北畦畔Fとほぼ同じ軸方向で、幅0.6m~0.8m、深さは畦畔Fの検出面から0.2m~0.3mである。覆土は砂とシルトが主体で、顯著なラミナ堆積が見られる。底面の南北両端で標高差がほとんどないためはっきりしないが、覆土堆積の方向からみて北から南へ流れていたものと考えられる。本水田面はトレンチの範囲外に広がることから、拡張を行い全体の検出を試みたが、現代の暗渠排水による擾乱が著しく、トレンチ外で本水田面を検出することはできなかった。遺物は7層中から弥生土器が出土したが、ほとんどは小破片である。

#### 遺物（第23図）

堆積土が厚いためか、他のトレンチと比較すると多くの遺物が出土しているが、ほとんどは上層～中層の混入した遺物で、弥生時代～平安時代の土器類が中心となる。1～5は7層中、6・13は6層、7・10は拡張区上層、14は上層、他はすべて中層から出土した。

1～5は弥生土器である。1～3は壺で、1・2では外面に横走る状模様が施され、2では紋様下部が沈線により区画される。3は無紋だが、外面には縱方向、内面には横方向のハケ目調整が施される。4・5は壺で、4は口唇部に指頭押捺、外面に横方向の粗いハケ目、5は外面に縱方向の粗いハケ目を施す。6～8は古墳時代の土器器で、6は杯、7は鉢で、共に外面に粗いヘラケズリを施す。8は粗造土器の鉢で、内面はヘラナデ、外面には輪積痕を残し、指頭押捺を施す。9～12は奈良・平安時代の遺物である。9は須恵器杯蓋、10は非黒クロ土器の杯で体部下半と底部は手持ちヘラケズリを施す。11は台付壺の脚台部、12は須恵器瓶子で外面に顯著に自然釉が付着する。13は土玉である。14～16は中世陶磁器で、14が古瀬戸灰釉平碗、15が青磁鑄蓋弁紋碗、16は東海系の羽釜である。

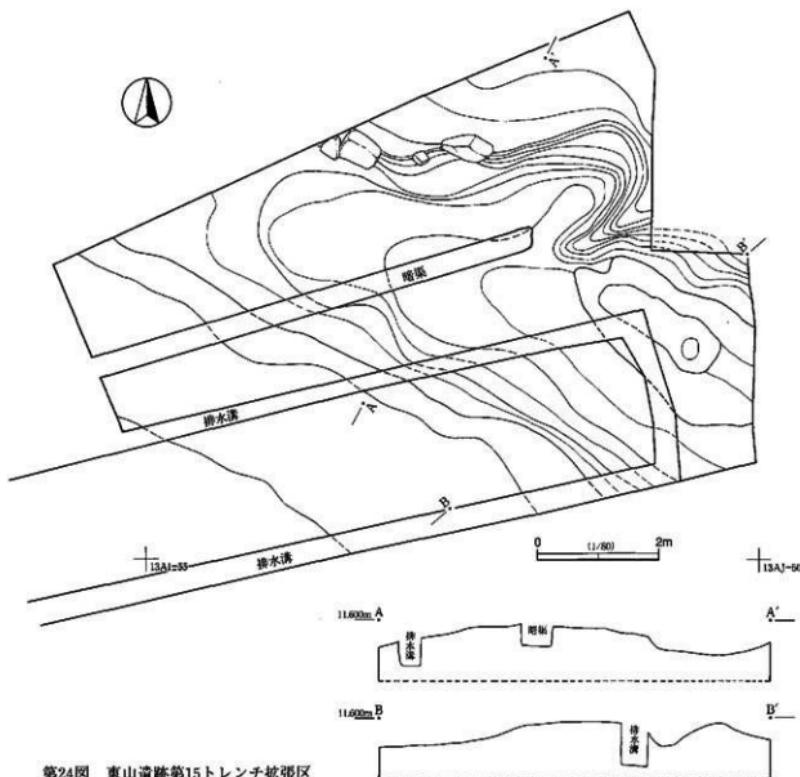
#### 8. 第15トレンチ下層（第24～26図、図版10・11・17・18）

##### 遺構

第15トレンチの排水溝を掘削している段階で、トレンチ東部のII層中から多くの縄文土器と剥片類が出土したため、東部についても拡張した。基盤層以上の堆積土については第15トレンチ西部と同様である。ただ、拡張区北東端付近は北東方向に向かって傾斜しており、その部分にII層土が堆積していた。また、II層土はきわめて堅硬であり、通常のジョレンや移植鋤ではとても掘削できず、ツルハシやエンビ等を使用した。

#### 遺物（第25・26図）

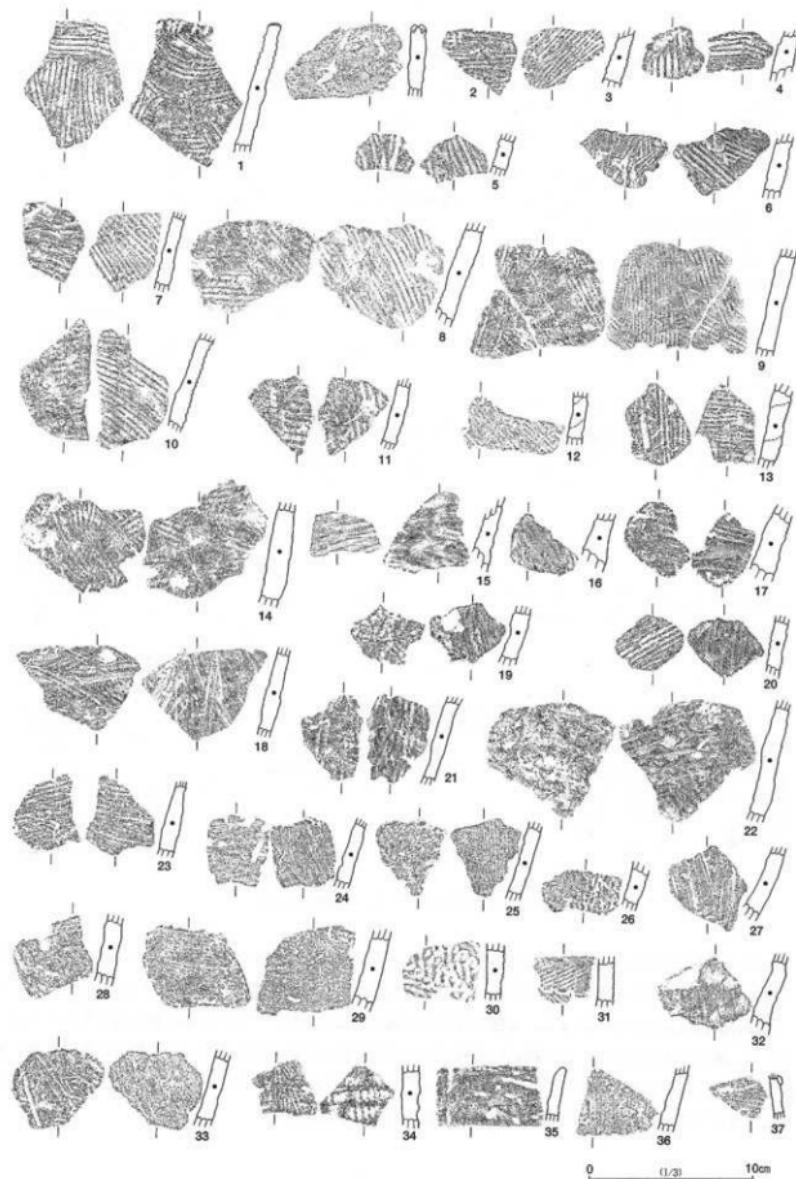
下層（II層）から出土した遺物はすべて縄文時代のものである。時期は早期（条痕紋期）～後期（安行



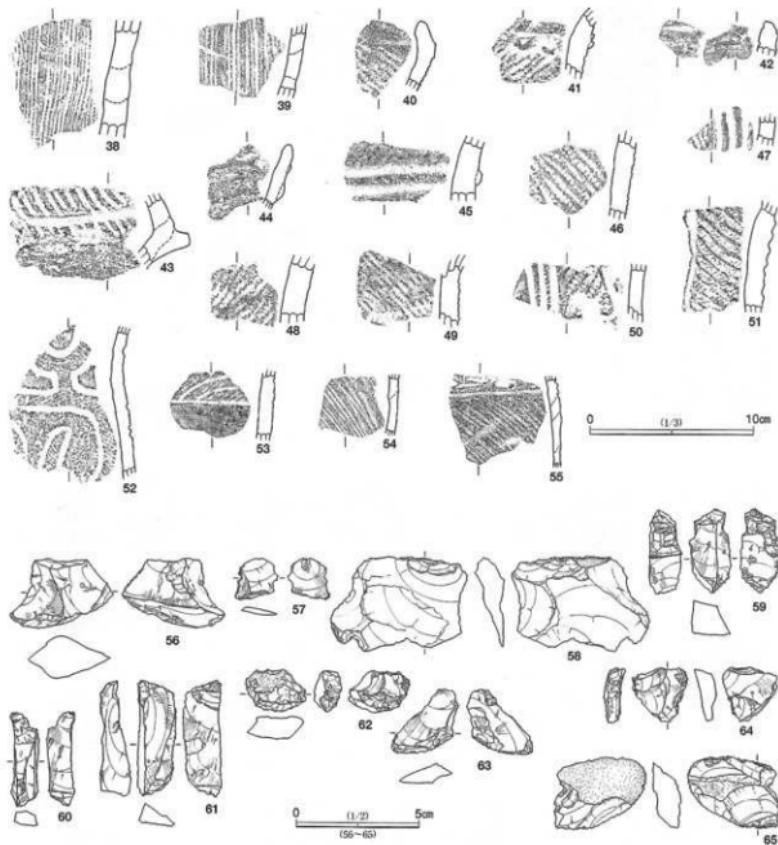
第24図 東山遺跡第15トレンチ抜張区

1式期）に及ぶが、条痕紋期の遺物が最も多い。

1～30は早期の土器で、いずれも胎土中には多量の纖維を含む。1・2は口縁部で、いずれも口唇部にキザミを施すが、1は貝殻腹縁押捺、2は丁寧に波状に整形し、その凹部に棒状工具による刺突を加える。3～29は胴部破片である。3～8は内外面共に貝殻腹縁を用いた条痕紋を施す。9～29は同様に両面に条痕紋を施すが、外面あるいは内面のどちらかが磨り消されて不明瞭になっている。30は外面に絡条体圧痕を施すもので内面には磨消しの痕跡が残る。31は縄紋の地紋に貝殻腹縁を押圧施紋するもので、早期末～前期初頭に位置づけられる。32～37は前期の土器である。32～34は胎土に纖維を含む。32・33は内面に竹管による粗い条痕を残すが、外面は磨り消されて無紋となっている。34は横方向の押引沈線紋、35は口縁、36は胴部上半で、いずれも外面に絡条体圧痕が施され、35は口唇部にも施紋される。37は外面に縄紋と粘土紐の貼付けによる浮線紋が見られる。38～51は中期の土器である。38・39は外面に縦位の条線紋、40は口縁部で、外面に縄紋が施される。41は縄紋を地紋とする紋様帶上部を沈線で区画し、その直下に貼付けによる波状の浮線紋を施す。42は口縁部で、外面は無紋だが、内面の口唇部直下に横方向の沈線を施



第25図 東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物①



第26図 東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物②

す。43・44は口縁付近で、43は斜方向の平行沈線紋、44は貼付けによる波状隆帯が施され、前者は中轄式、後者は胎土中に雲母粒を多く含む阿玉台式と考えられる。45・46は貼付隆帯区画内に繩紋が充填され、47～49は外面に繩紋が、50・51は太い沈線の区画内に繩紋が充填され、いずれも加曾利E式と考えられる。52～55は後期の土器である。52は繩紋の地紋に太い沈線で紋様を描く称名寺式、53は繩紋の地紋を細い沈線で区画する横位の紋様帯を主体とする堀之内式であろう。54・55は外面に斜方向の浅い平行沈線紋が施される安行1式で、55は上部に沈線により矢羽根状の紋様が描かれる。

## 9. その他のトレンチ（第27図、図版19）

### 遺物（第27図）

遺構が確認されなかった第1、第4～第6、第8、第16の各トレンチから出土した遺物をここにまとめた。いずれも現耕作土もしくはトレンチ堆積土からの出土遺物である。

1～4は第1トレンチの現耕作土中から出土した。1は瀬戸美濃系の鉄釉擂鉢である。口縁は折返しで、縁帯幅が1.9cmである。全面に鉄釉が施され、暗褐色を呈する。2は口唇部が若干肥大し、断面が三角形を呈する白磁の碗で、色調はややオリーブ色を帯びた灰白色である。3は泥面で、「言わ猿」を模したものと考えられる。4は玉韁もしくはメノウ製の火打石である。

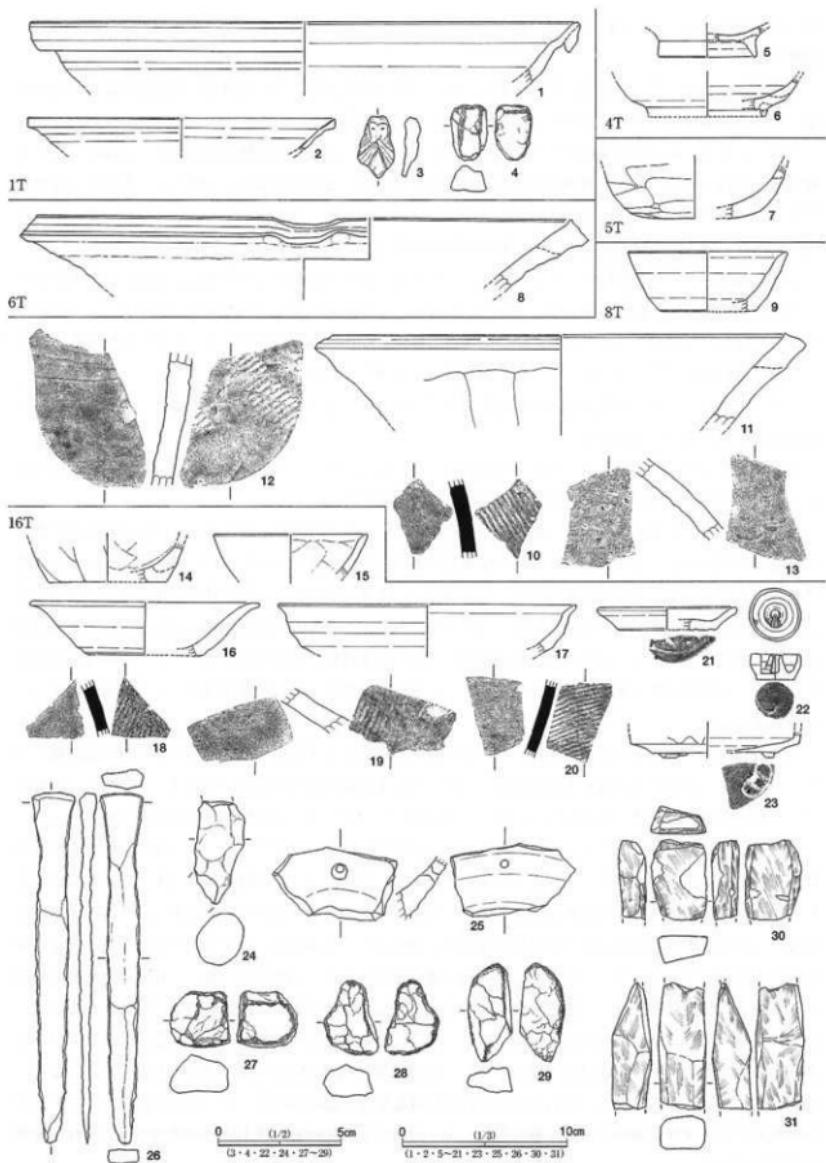
5・6は第4トレンチ堆積土から出土した。いずれもロクロ土師器の高台付杯で、内面に炭素吸着による黒色処理を施すが、磨耗が著しくはっきりしない。5は高台高1.0cmとやや足高で、僅かに「ハ」字状に広がる。内面は若干剥離しているが、外面は比較的丁寧である。6は体部が若干丸みを帯びる椀に近い形態で、高台は低いものと考えられる。これも内面は若干剥離している。

7は第5トレンチから出土した土師器椀で、底部はやや丸みを帯び、外面には手持ちヘラケズリを施す。底部周縁部が最も厚い器形である。

8は第6トレンチから出土した常滑の片口鉢である。口縁に向かって徐々に厚みを増し、口唇端面の幅1.7cm、片口部の幅3.5cm。色調は暗灰色～青灰色で、若干紫がかっている。

9～13はいずれも第8トレンチの現耕作土から出土した。9はロクロ土師器の杯で、小ぶりでやや厚手である。底部はほとんど遺存していないので調整は不明だが、体部にはロクロ目のみを残す。10は須恵器甕で、外面には明瞭にタタキ目を残すが、内面は丁寧にナデられていて、當て具の痕跡はない。11～13は常滑製品で、11が捏鉢、12・13は甕である。11はやや小ぶりで、口唇部端面の幅は1.5cmである。色調は橙色ないし暗褐色を呈する。12は成形工程に対応して押印紋を帶状に連続施紋するもので、色調は暗灰色を呈する。13の外面には全面に灰釉がかかっており、胴上部と考えられる。釉は淡オリーブ灰色～オリーブ黒色を呈する。

14～31は第16トレンチの遺物で、19・20・23・26・27・30が現耕作土～上層、15～18・21・22が覆土中層、14・24・25・28・29は覆土下層から出土した。14は土師器の中型の甕で、外面はヘラケズリ、内面にはヘラナデを施す。15は、小ぶりでやや厚手のつくりの非ロクロの土師器杯で、外面は磨耗が著しくはっきりしないが、内面はヘラナデで整形される。16・17はロクロ土師器杯である。16は皿に近い形態をもち、体部下端がやや括れ、底部がわずかに突出する形である。外面にはロクロ目のみを残す。17は体部がやや膨らみ、口縁部が折口となる特異な形態である。外面には顕著なロクロ目のみを残す。18・20は須恵器である。いずれも甕で、外面にはタタキ目を残すが、内面はナデが施され、當て具の痕跡はない。21は土師質土器の小皿、22ははっきりしないが、土師質の燭台であろうか。19は常滑の甕で、外面の全面に灰釉がかかる。釉の色調は、オリーブ黒色～オリーブ灰色である。23は古瀬戸の袴腰形あるいは筒形の香炉で、底部には指でつまんで貼り付けた低い脚がつく。24は上下の欠損した勾玉形土製模造品、25はロクロ土師器杯に穿孔したもので、用途ははっきりしない。26は鉄製の馬鍼の歯で全長21.4cmである。基部付近の一部に、棧にはめ込まれていたため鎌による劣化の軽微な部分が認められる。27～29は火打石で、27・28が玉韁もしくはメノウ、29がチャート製である。30・31はシルト質砂岩の仕上げ用の砥石で、いずれも両端が欠損している。



第27図 東山遺跡その他のトレンチの遺物

### 第3節 本調査区の遺構と遺物（第28図～第37図、図版20～25）

#### 概要

確認調査時に未買収だった部分で、調査対象範囲東端部の道路南側（第2・4図）にあたり、第15トレントレント拡張区に隣接する。面積は231.8m<sup>2</sup>である。基盤層は岩盤で、表土から基盤層までの深さは最も浅い箇所で1.2m前後である。基本土層は1層（灰色粘質砂）、2層（暗灰色粘土）、3層（黒褐色粘土）、4層（灰色粘土）、5・5'・6層（シルトを含む灰色粘質砂）、7層（砂分がマーブル状に多く入る暗灰色粘質土）、8層（未分解のビートを含む暗灰色粘質土）、9層（黒灰色粘質シルト）、10層（灰色粘質シルト）、11層（未分解のビートを層状に含む暗灰色砂）、12層（しまりの弱い灰色粘質シルト）、13層（未分解のビートを層状に含む暗灰色砂）、14・15層（灰色粘質シルト）、16層（未分解のビートを層状に含む暗灰色砂）、17層（軟質砂岩礫を多く含む暗灰色砂）であるが、7・8層間と14・15層間には混入物のない暗灰色砂層を挟む。概ね近現代の耕作土と考えられる灰色系粘質砂及び近世～近代の耕作土と考えられる黒褐色～灰色粘土（上層）、近世の耕作土と考えられる灰色粘質土及び中世の耕作土と考えられる暗灰色ないし黒灰色粘質シルト（中層）、ラミナ堆積が顕著に発達した灰色～暗灰色の砂や粘質シルト（下層）という3層にまとめられる。上層と中層で3層の耕作層が確認できたが、平面的には近世以降段階の擬似畦畔を確認したのみで、中層の水田層を面的に確認することはできなかった。下層は大規模な洪水による堆積と考えられ、人為的な痕跡はなかった。ただ、調査区の南東部付近においては、中層堆積土下は径10cmを超える砂岩のブロックを極めて多く含む砂礫層であり、その中に多くの遺物を含むことから、砂岩を主体とする岩盤層まで掘削し、遺物の回収を意図したところ、岩盤上に遺構が確認された。また、表出した岩盤層は平坦ではなく、調査区の北西隅から南東隅にかけて谷状に窪んでおり、第15トレントレント拡張区北東隅の落ち込みの続きであることが確認された。検出された遺構は、ピット群、土坑である。

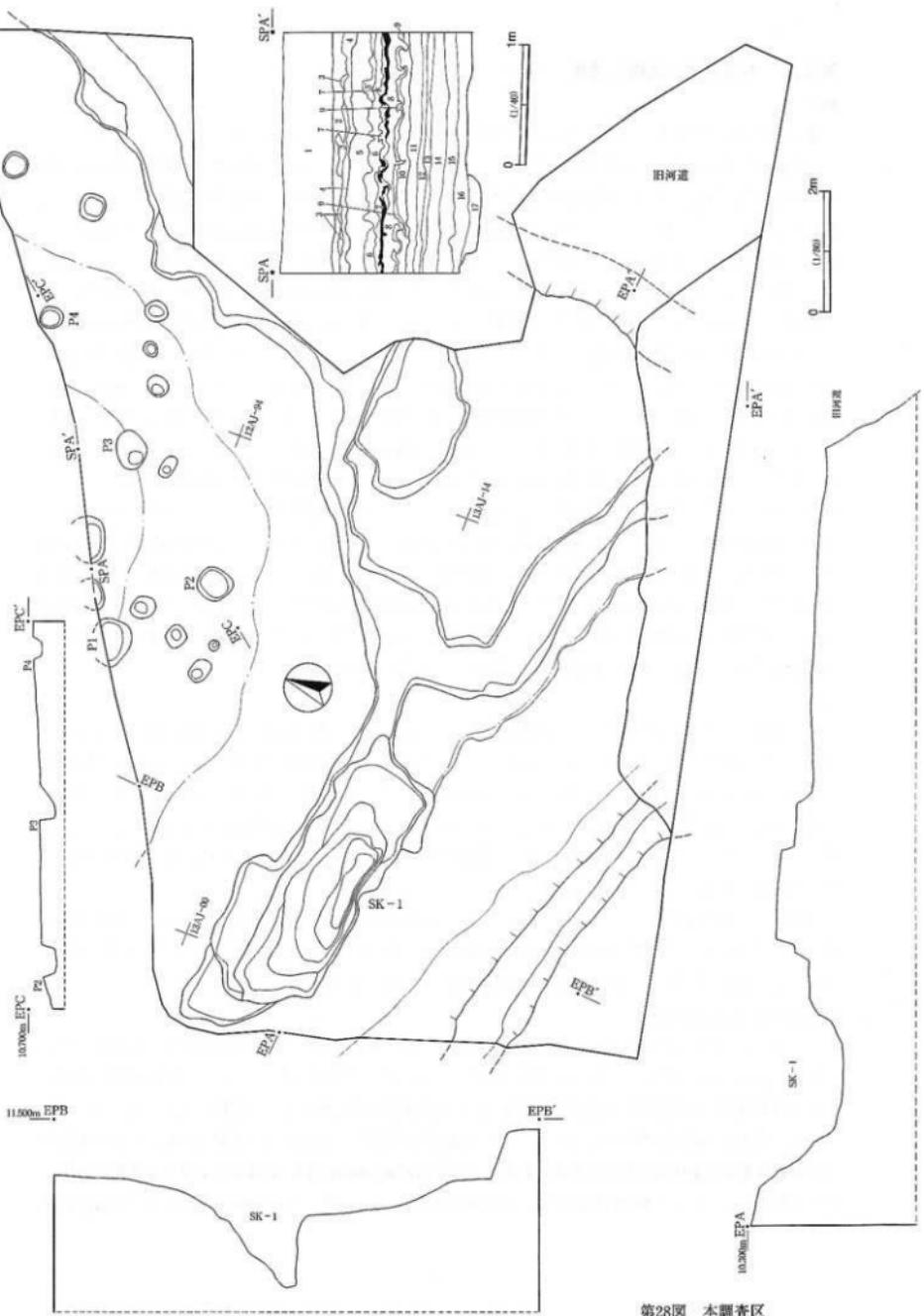
#### 遺構

**ピット群** 調査区北部の岩盤上に16基確認された。当初、流量の多い溪流の河床などに見られるボットホールかと思われたが、すぐ脇を流れる現在の河床にこのような痕跡が見られないこと、柱痕等は確認できなかったが覆土が岩盤層直上の土層よりはるかに堅くしまっていることからピットと認定した。平面形は円形もしくは橢円形で、直径0.2m～0.5m、深さは0.2m～0.3mである。覆土はいずれもシルトもしくは砂で、よくしまっており、奈良・平安時代の土器類や磨石などが出土している。また、P1～P4については配列から掘立柱建物となる可能性がある。

**SK-1** 調査区北西部で確認された土坑である。平面形は長方形で、長さ4.0m、幅1.6m、断面は台形状で深さは1.2mである。覆土は直径5cm～20cm程の砂岩ブロックやシルト、粘質土を含んだ砂質が主体で、単層として把握できる。古墳時代～奈良・平安時代の土器類が若干量出土した。

#### 本調査区の遺物（第29図）

1～4、10・12・14・15・17～19は中央部～南東部の覆土下層から、5・6は覆土中層（排水溝一括）、7・16は覆土上層、8はSK-1、9・11・13はP-2からそれぞれ出土した。1～4は繩文土器である。1・2は早期で内面外面共に貝殻条痕紋を施すが、2は表面を若干磨り消した痕跡が見られる。3・4は中期で、外面に太沈線紋を多用している。5・6は無茎の石鏃で、5はチャート製で平基、6は黒曜石製で半分程度を欠くが凹基のものと考えられる。7は安山岩製の楔形石器、8はホルンフェルス製の剥片、9・10はホルンフェルス製の打製石斧で、9は刃部が欠損した長方形、10は分銅形を呈する。11は砂岩製



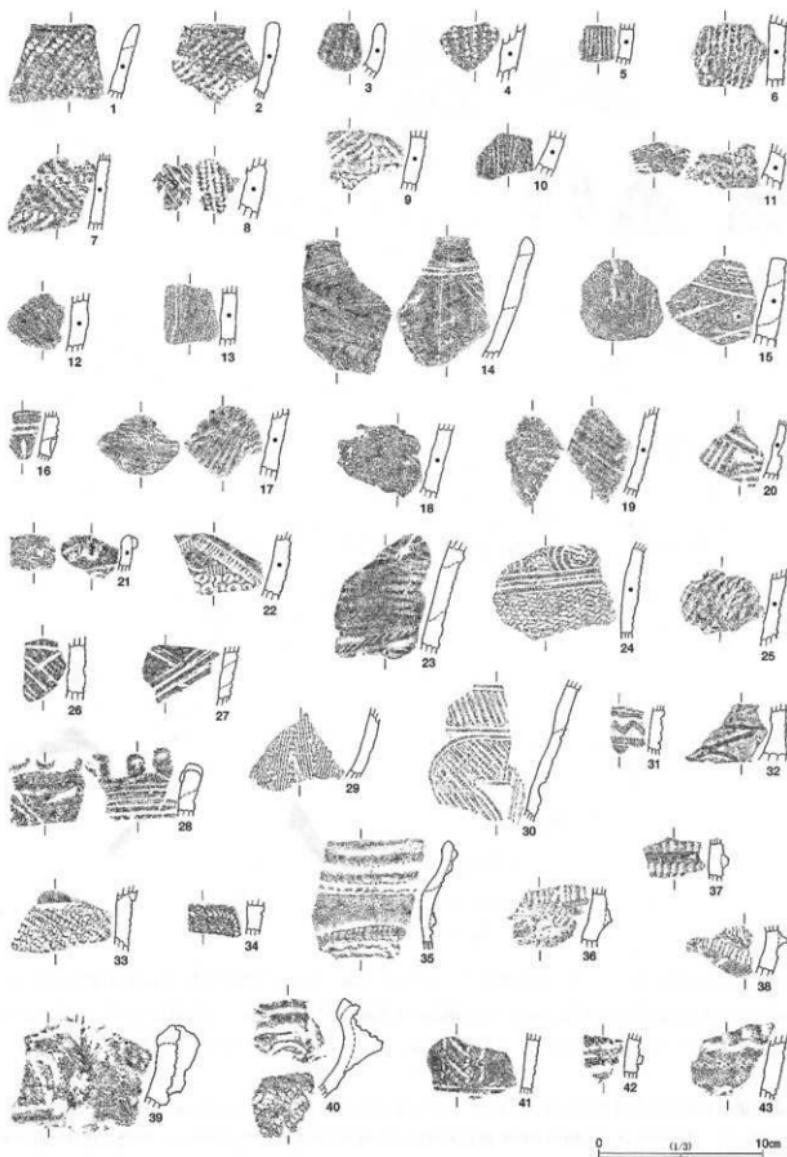
第28圖 本調査区



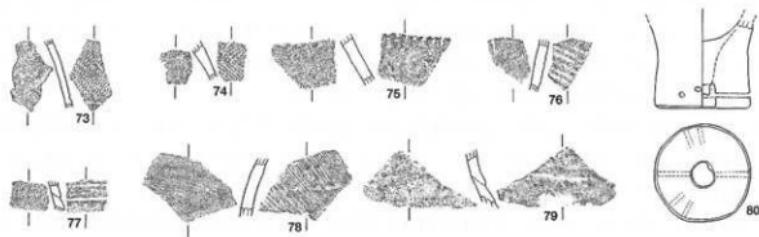
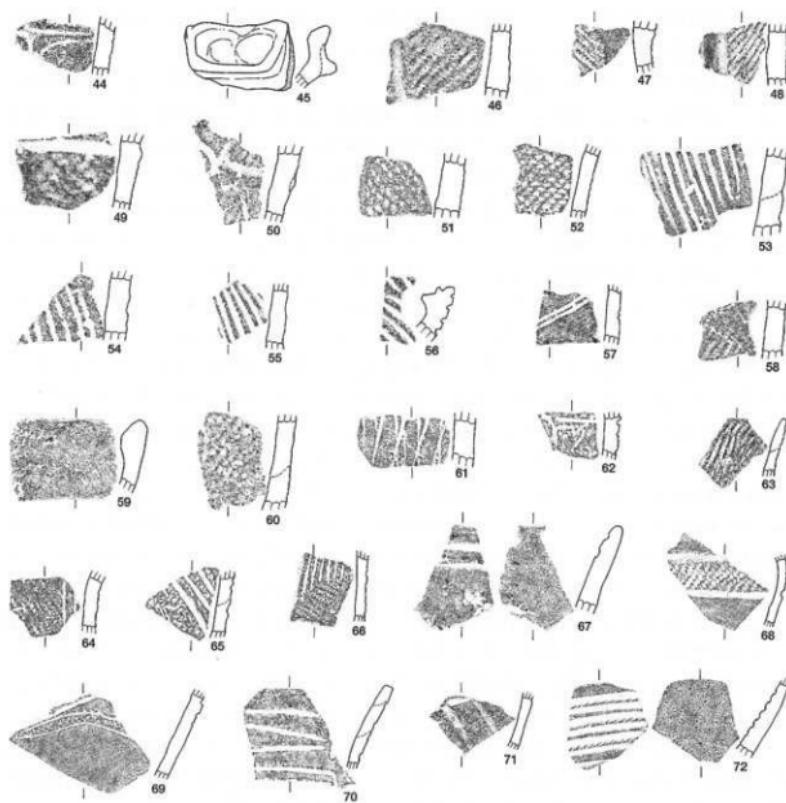
第29図 本調査区の遺物

の磨製石斧で磨滅が著しい。12・13は磨石で、12は安山岩製、13は砂岩製である。14は軽石製の砥石で、基部の1か所に両面からの穿孔がある。15は鏡形の土製模造品で周囲がすべて欠損している。16は土鍤で、瓢箪形を呈する。17～19は須恵器で、17が壺の口縁、18が外面にタタキ目を残す壺の胴部、19は壺の蓋であろう。

**旧河道 岩盤層** は本調査区西部から東部に向けて緩やかな傾斜が見られるが、東端部付近で急激に落ち込んでいる。この落ち込み壁面の方向が現在の河川の方向と平行していることから、埋没した旧河道と考えられる。覆土は直径10cmを超える砂岩ブロックをきわめて多く含む砂礫層で遺物も多く、時期は縄文時



第30図 本調査区旧河道の遺物①



第31図 本調査区旧河道の遺物②

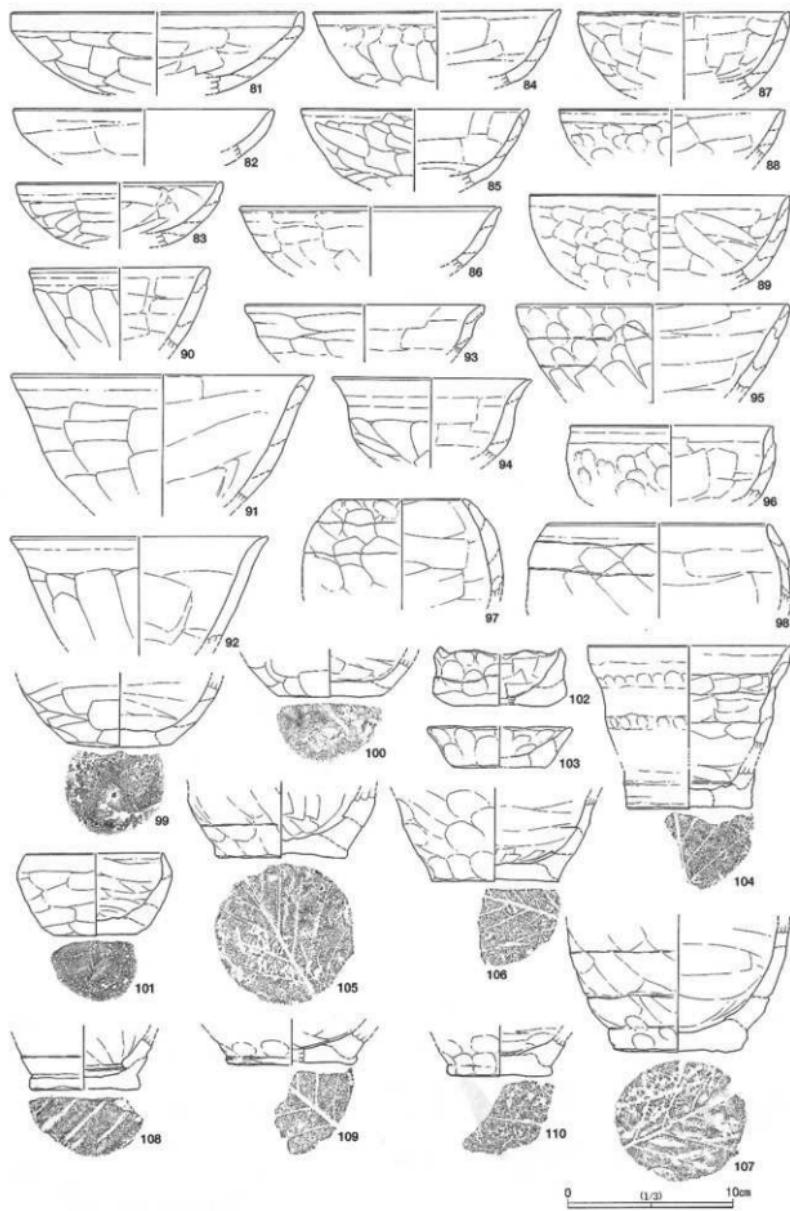
0 1/20 10cm

代早期～平安時代におよぶが、すべての時期の遺物が混在した状態で出土したため、層位的には区別されない。なお、調査区境界付近で検出されたため、安全対策上、河床までは掘削していない。

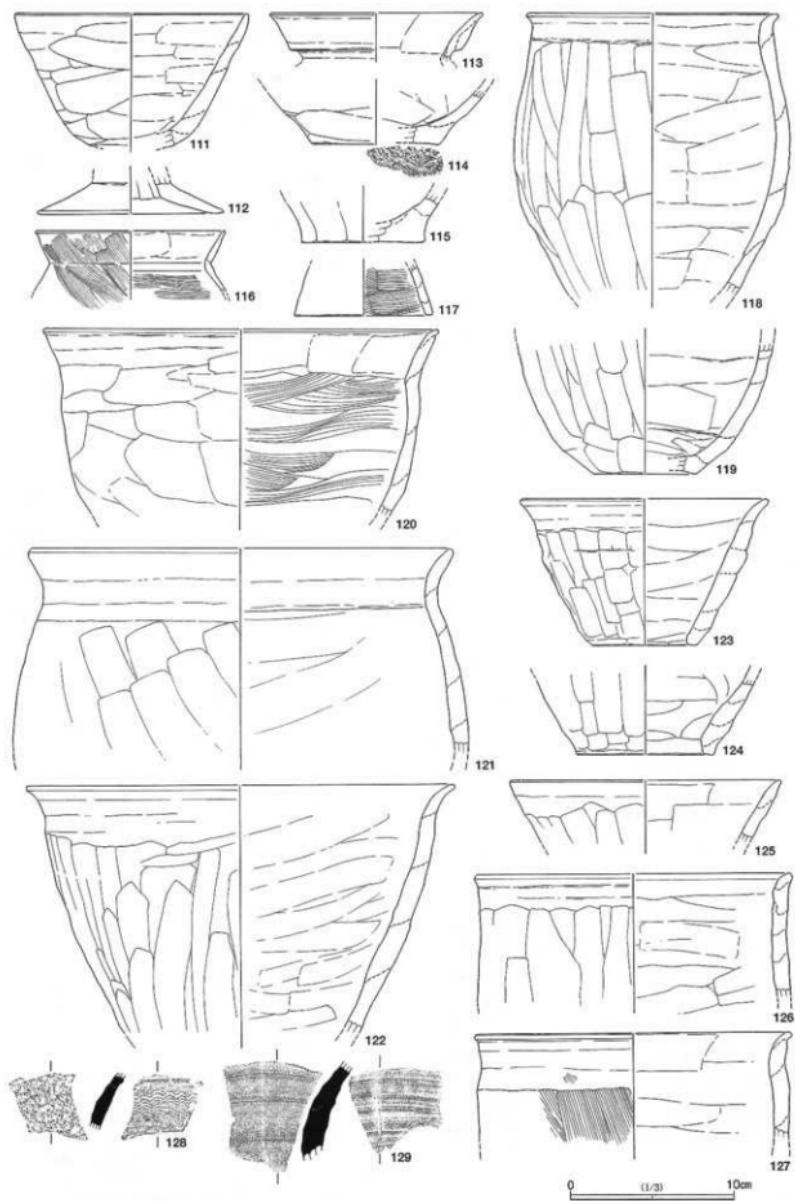
1～72は縄文土器で、1～21は早期、22～32は前期、33～61は中期、62～69は後期、70～72は晩期である。1～3は口縁、4～13は胴部で、いずれも胎土に纖維を多く含み、外面に縱方向の撚糸紋を施す撚糸紋期の土器である。14～16は沈線紋期で、いずれも胎土に纖維を含む。14は口唇部断面が三角形の内削ぎ状を呈し、外面に細沈線を用いた紋様を施す。15は細沈線の区画内に貝殻腹縁紋を充填し、16は太い沈線を用いた平行線紋、その下に刺突状の沈線を施す。14が三戸式、15・16が田戸下層式であろう。17～19は条痕紋期で、いずれも胎土に纖維を多く含み表裏の貝殻条痕紋を磨り消している。20は太い沈線で重三角紋を施し、21はツマミ状の貼付紋と斜方向の平行沈線区画にキザミを施す。22～27は花積下層式で、22～25は胎土に纖維を含む。22は山形の浅い沈線区画内を細かく刻むように刺突し、縄紋を充填する。23～26は縄紋を地紋とする。23は磨耗が著しくはっきりしないが、刻んだ貼付紋を巡らせ、24・26は半截竹管による沈線紋を描く。27は地紋ではなく、半截竹管による紋様のみが施される。28・29は諸磯c式である。28はやや肥厚する口縁で、口唇部には四角く整形した瘤を貼付け、外面に平行沈線紋を施し、29は体部下半でV字状に組み合わされた条線紋を施す。30～31は十三菩提式である。30は半截竹管による浮線区画内を集合沈線で充填し、一部に彫刻技法も用いられている。31は結節浮線紋の区画内に波状の浮線紋を施す。33は外面に縄紋を施し、積み上げ部に貼付帯が巡るもので、五領ケ台式と考えられる。34～37は勝坂式である。34は磨耗が著しくはっきりしないが、縄紋の地紋に結節沈線を施し、35～37は貼付隆帯の両側に結節沈線を施すものである。38～44は阿玉台式で、いずれも胎土に雲母片を多く含む。38～40は口縁でいずれも波状を呈する。38・39は貼付隆帯と沈線による枠状紋に角押紋が施されるもので、内面には稜をもつ。40は貼付隆帯による枠状紋の区画内に沈線を施す。41～44は胴部である。41は細い貼付隆帯を沈線で区画し、撚糸紋が施される。42は貼付隆帯の両端に角押紋を施し、43・44は沈線を多用するものである。45～52は加曾利E式である。45は曲線的な隆起帯をもつ口縁部、46～52は縄紋を地紋とし、46～49は幅広く浅い沈線で区画するもの、50は隆起帯と沈線を併用するものである。53～56は曾利系である。いずれも厚手で、太く深い条線紋を施す。57～61は中期の所産と考えられる。62～66は堀之内式である。63は薄手の口縁で、外面全面に縄紋を施す小型鉢であろうか。他はいずれも縄紋と沈線紋を併用する。67～69は加曾利B式で、67は外面が無紋で、内面に幅広く浅い沈線の巡る鉢、他は沈線区画による磨消縄紋を施す。70～72は晩期で、70・71は変形工字紋を施す。

73～80は弥生土器で、76・78・80は中期、他は後期であろう。73～76は壺である。73は縄紋帯の上下を沈線で区画するもの、74は紋様帶に羽状縄紋を施すもの、76は外面に浅い条痕紋をもつものである。77～79は壺である。77・79は頸部に複数段の輪積み痕を残すもの、78は輪積み痕を残さず、ハケ目調整を施すものである。80は底部側面に穿孔された土器で台付鉢と考えられる。

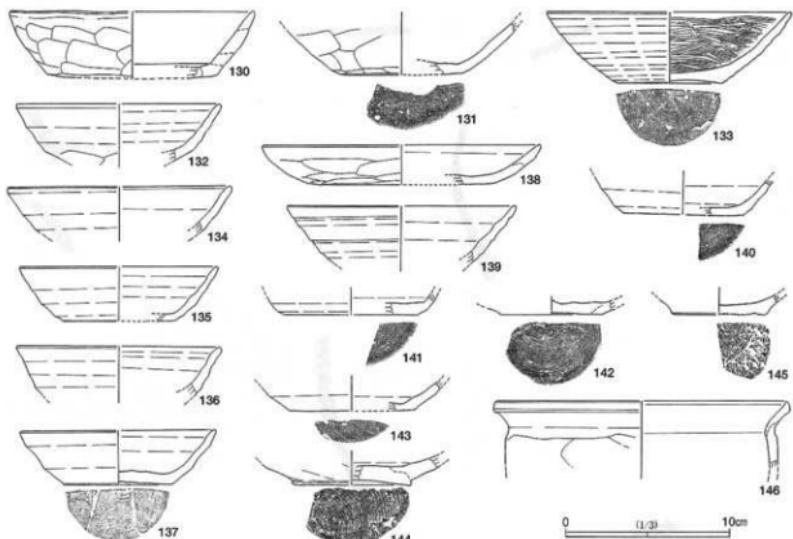
81～129は古墳時代の遺物で、81～127は土師器、128・129は須恵器である。81はいわゆる杯蓋模倣の杯、82～86は杯で、いずれも体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデにより整形される。87～100は鉢である。87～98は口縁で、91～94は外反し、97・98は内湾する。いずれも体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデにより整形されるが、88・89・95・97は外面に指頭圧痕跡を、95・97・98は外面に輪積み痕跡を残す。99・100は底部で、底面がやや丸みを持つタイプである。体部・底部共に外面はヘラケズリ、内面はヘラナデで整形される。101は小型の鉢で、口縁部のみ僅かに内湾する。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデで整形



第32図 本調査区旧河道の遺物③



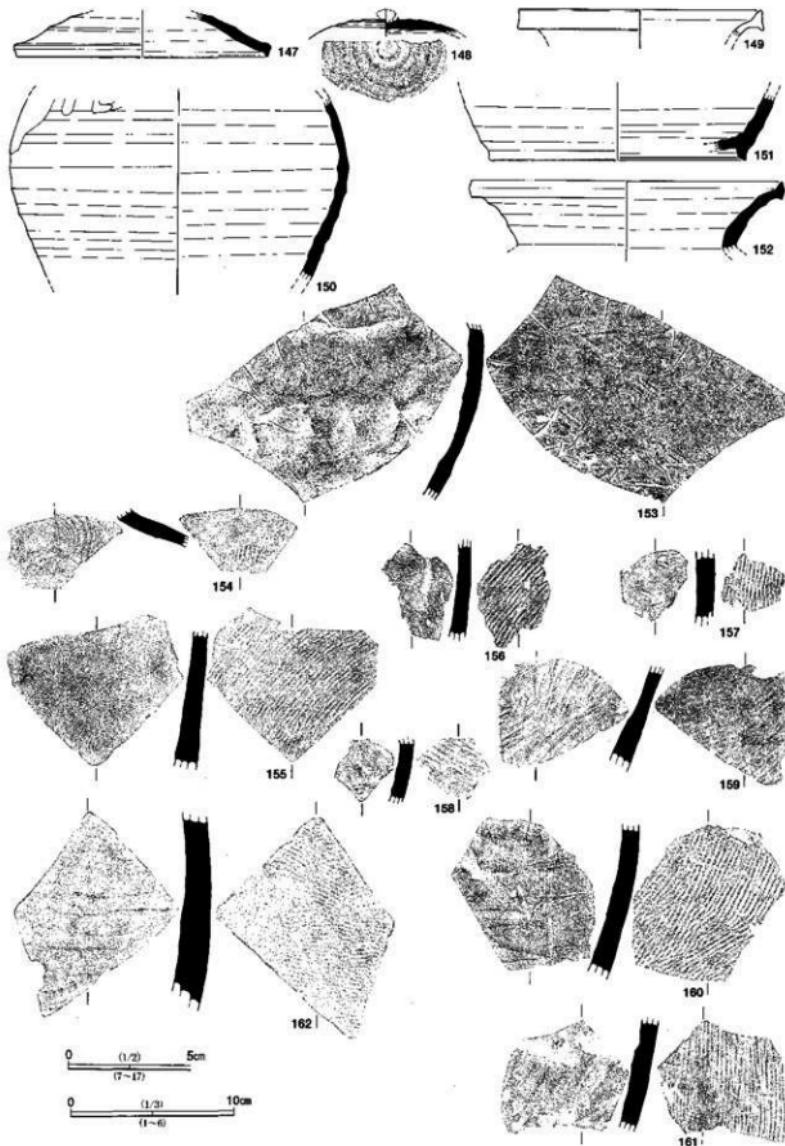
第33図 本調査区旧河道の遺物④



第34図 本調査区旧河道の遺物⑤

される。102・103はいわゆる手捏土器で、102が鉢、103が杯であろうか。共に全面に指頭圧痕を残す。104～110は粗造土器の鉢である。いずれも明瞭な輪積み痕を残し、整形にはヘラ状工具を用いながら指頭圧痕を残すものが多い。底部には明瞭な木葉痕が見られる。111・112は高杯で、111は立ち上がりの急な杯部、112は裾と脚柱の境界が明瞭な脚部である。113～115は壺で、113は複合口縁の口縁部、114・115は底部である。116は小型壺の口縁で顕著なハケ目調整を施す。117は台付壺の脚台部で、外面はヘラナデ、内面にハケ目調整痕を残す。118～121は壺で、118～119は中型、121はかなり大型の個体である。いずれも外面はヘラケズリ、内面はヘラケズリにより整形するが、120のみ内面にハケ目調整痕を残す。122～125は胴部のほとんど膨らまない壺で、123・125は小型品である。いずれも外面はヘラケズリ、内面はヘラナデで整形される。126・127は頸部のほとんどくびれない壺と考えられる。いずれも内面はヘラナデを施すが、外面は126がヘラケズリ、127はハケ目調整を施す。128・129は壺の頸部で、128は外面の上下に稜をもち、その内部に櫛拂波状紋、129は縦の沈線を描く。

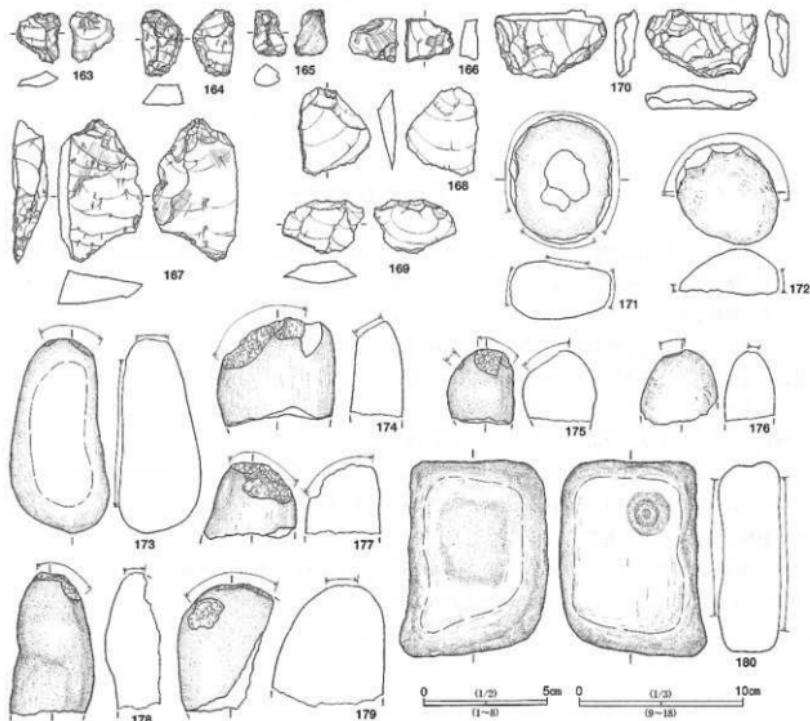
130～161は奈良・平安時代の遺物で、130～146は土師器、147・148・150～161は須恵器、149は灰釉陶器である。130・131は非ロクロの杯、138は皿で、いずれも外面は手持ちヘラケズリ、内面はヘラナデにより整形される。132～137・139～145はロクロ土師器の杯で、132は体部下端を手持ちヘラケズリ調整し、133は内面に密なミガキを施すが、他はいずれもロクロ目のみを残す。また底部は131・137が手持ちヘラケズリ、133・140・141が回転ヘラケズリ、142・143が静止ヘラケズリ、144が回転糸切り無調整、145が回転ヘラ切り無調整である。なお144は底部がやや突出し、円柱技法を用いているものと考えられる。146は口縁部が「く」字形に屈曲するタイプの壺で、外面はヘラケズリを施す。147は須恵器杯蓋、148は杯もしくは短



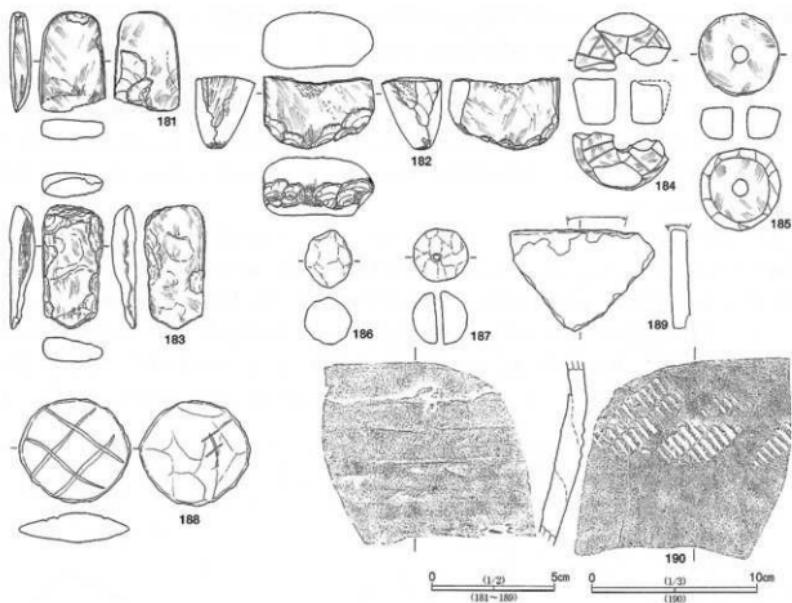
第35図 本調査区旧河道の遺物⑤

頭壺の蓋で、ツマミを欠く。149は灰釉陶器瓶子の口縁部、150・151は須恵器壺で、150は胴部、151は高台をもつ底部である。150は外面に、151は底部内面に自然釉がかかる。152～161は壺で、152は口唇部がやや上下に広がり、若干の平坦面をもつ口縁部、他はすべて胴部である。外面はいずれもタクキ目を残すが、その程度には差があり、ほとんどナデ消してしまっているもの（153）、ナデを施すが、僅かに残るもの（154・159）、ほとんど調整しないもの（155・160～162）まである。内面もいわゆる青海波と呼ばれる当て具痕跡を残すもの（154・155）、ナデ消しているもの（156・157・161・162）、粗いヘラナデを施すもの（159・160）などがある。

163～180は縄文時代の所産と考えられる石器および剥片である。163は黒曜石製の使用痕のある剥片で、右側縁に刃こぼれがみられる。164・165は黒曜石製の楔形石器である。164は上端と下端を、165は上端と裏面の左下端を調整する。166～169は剥片で、166・167は黒曜石製、168・169は粘板岩製である。170はホルンフェルス製の打製石斧で、基半部を欠くが、分銅形を呈するものと考えられる。171・172は磨石である。171は安山岩製で、楕円形の礫の側縁全周を使用し、表面の中央付近に敲打痕がある。172は砂岩製で、卵形の礫の側縁を使用している。173～179は敲石である。174は閃綠岩製、177は玄武岩製、他はすべて砂



第36図 本調査区旧河道の遺物⑦



第37図 本調査区旧河道の遺物⑧

岩製である。いずれも自然縫の先端を使用している。180はかなり粒径の粗い砂岩製の石皿もしくは台石で、長方形の縫の平坦面の両面を使用している。また、裏面の右上方には円形の窪みがあり、擂り潰しに使用された可能性がある。

181～183は弥生時代の磨製石斧である。181は砂岩あるいはホルンフェルス製の扁平片刃石斧で、刃部と基部に使用に伴うと考えられる剥離が認められる。182はホルンフェルス製の太型蛤刃石斧の刃部で、先端のはば全面に刃こぼれが見られる。183はホルンフェルス製の磨製石斧で、裏面と側縁の一部を除いて剥離と磨耗が著しく、刃部も欠損しているため、全体の形状ははっきりしない。

184・185は滑石製の石製紡錘車である。184は上下両面に線刻が見られる。186～188は土製品で、186は土弾、187は土玉である。188は円盤状の土製品で、表裏に線刻が見られる。用途ははっきりしないが、鏡形土製模造品の可能性がある。

189・190は中世陶器である。189は常滑窯の胴部破片を転用した砥石で、上部断面の一部を使用している。190は常滑窯の胴部で、成形工程に対応して押印紋を帯状に連続施紋している。

## 第4章 まとめ

長須賀条里制遺跡及び東山遺跡の遺跡範囲は広大であり、今回の調査範囲はそのごく一部をトレンチ調査したような状況に過ぎない。しかし、これまで述べてきたように縄文時代～中・近世に至るさまざまな資料が得られたことから、それぞれの遺跡について様相を概観し、まとめておきたい。

### 第1節 長須賀条里制遺跡

本遺跡は南北に走る砂丘帯と、丘陵に挟まれた後背湿地帯に立地するが、国道410号（北条）に伴う調査によって、かつては微高地と低湿地がモザイク状に分布する複雑な地形を呈しており、各時代でさまざまな土地利用がなされていたことが解明された<sup>11</sup>。今回の調査はそれに新たな資料を付け加えたことになる。今回の第2トレンチで確認された条里型水田跡は、国道410（北条）調査区のA区で検出された条里型水田がこの部分まで延びていることを示す。また、中世のピット群は国道410（北条）調査区のC区南部及びF区で検出された中世の屋敷地に類似するものと考えられる。この広がりは、北限については推定するに足る資料がないため不明だが、現道の南側の第1・第3トレンチでは基盤層が第2トレンチよりはるかに深く、西側の国道410（北条）調査区のAB区第3トレンチ及び東側の第4トレンチでもピット等の遺構は確認されていないことから現道付近が南限および西限で、東側についても同様と考えられる。規模としてはそれほど大きいものではないだろうが、今回の調査区では井戸跡が確認されていないため、屋敷地の中心は不明である。地形は若干異なるが、遺跡全体としては君津市三直中郷遺跡（中郷地区）など小糸川流域と類似する景観を想定することは可能である<sup>12</sup>。

なお、本事業には未買収部分が残されており、この部分については標高がこれまで調査した部分より高くほとんどの部分の現況が畠地であるうえ、多くの遺物が散布されている現況からみて、国道410号（北条）調査区でも検出されなかった弥生時代～奈良・平安時代の集落跡が発見される可能性がある。

### 第2節 東山遺跡

本遺跡については今回の調査が初例となる。北側を丘陵、南側を沙入川に挟まれた低位段丘上に立地する東西に長い遺跡で、今回はその遺跡の中央付近を東西に横断するような調査区設定となった。背後の丘陵には南北方向の小支谷が複数みられ、現在の河道の流路にもその影響がうかがえること、各地点における現地表の標高差より基盤層の標高差が著しく大きいことなどの点から、過去はかなり複雑な地形であり、各時代の地形に応じて利用されていたものと推定される。残念ながら今回の調査では、この推定を明らかにするに足る人為的痕跡は見出すことができなかった。ただし、背後の丘陵に最も接近する第15トレンチ付近では、水田層下の再堆積基盤層から比較的多量の縄文時代の遺物が出土し、この層が丘陵の斜面崩落に伴うものと考えられることから、現在痩せ尾根状を呈する丘陵部分が、運くとも弥生時代以前の段階までは尾根上もしくはその周辺にある程度の平坦面を持ち、その部分に縄文時代の集落が営まれていた可能性がある。これまで館山市域において丘陵上は中近世城館跡以外の遺跡は想定されていないが、今後、縄文時代などの遺跡の所在についても考慮する必要があろう。

本調査区の基盤の岩盤層に掘り込まれたピットや土坑がどのような目的で作られたであろうか。少なく

とも県内では、河川に面したこのような遺構の調査例はなく、今回の調査自体も面積的にきわめて断片的であることから、実際には不明といわざるを得ない。ただし、出土遺物から見る限り、旧河道の存続時期と重なる可能性もあるので、水辺の何らかの施設に伴う可能性も考えられよう。

注1 高梨友子ほか 2004 「第4章まとめ」『館山市长須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡』 財団法人千葉県文化財センター

2 笹生 衛 2003 「古代集落の変化と中世的景観の形成－西上総、小糸川流域の事例を中心に－」『千葉県史研究』第11号別冊 中世特集号 千葉県

## 出土遺物一覧

### 凡 例

- ・「造構/層位」列の「T」はトレーンチ, 「本」は本調査区を指す。
  - ・「寸法」のカッコ内の数値は、復元した場合の数値を示す。但し、重量のカッコ内の数値のみは破片等の遺存部分での重量を示す。
  - ・「焼成」：●（きわめて良好）、○（良好）、○（やや良好）、△（普通）、×（やや悪い）
  - ・「粒度」：●（堅密）、○（緻密）、○（やや緻密）、△（普通）、×（粗い）
  - ・「胎土」：色調／混入物とその含有量を示す。
- 種別/粗砂（やや径の大きい砂粒）、細砂（シルト質に近い粒径の砂粒）、石英（石英粒子）、長石（長石粒）、針（白色針状物質）、纖維（植物纖維片）。量/●（夥量）、○（多量）、○（中量）、△（少量）。

第1表 長須賀条里制遺跡の遺物① 土器類

辨認番号	造構/層位	区分	器種	時期	寸法(cm)			胎土 焼成	備考
					口径	底径	高		
第5回 2	1T一括		瓶	中世	-	-	-	○ 黄白色/砂粒●	
第7回 1	2T一括		土器	杯	古墳	(12.0)	-	○ 黄灰色/繊維○, 針○	
第7回 2	2T一括		土器	杯	古墳	(11.2)	(8.0)	○ 棕色、灰黄色/砂粒○, 針○	
第7回 3	2T 東御区一括		土器	杯	平安	(12.6)	-	○ × 棕色/砂粒○, 細砂○, 針○	
第7回 4	2T一括		土器	杯	平安	-	(8.2)	○ × 暗灰色/砂粒●	
第7回 5	2T P55一括		須恵	甕	平安	-	-	○ ○ 黄色/砂粒○, 石英○, 石綿○	
第7回 6	2T一括		瓶	縦輪皿	中世	(11.4)	-	○ ○ 黄白色/砂粒○	
第7回 7	2T一括		瓶	香炉	中世	(10.6)	-	○ ○ 黄白色/砂粒○, 石英○	
第7回 8	2T SD-009一括		瓶	香炉	平安	-	-	○ ○ × 暗灰色/砂粒●, 粗砂○, 石英○	
第7回 9	2T P78一括		瓶	香炉	平安	-	-	○ ○ × 淡黄灰色/灰褐色/砂粒●, 石英○	
第7回 10	2T一括		瓶	片口鉢	中世	-	-	○ ○ × 棕色/砂粒○, 細石英粒○	
第7回 11	2T SD-008一括		瓶	片口鉢	平安	-	-	○ ○ × 暗灰色/砂粒○, 石英○	
第7回 12	2T 東御区一括		須恵	甕	中世	-	-	○ ○ △ 暗灰色/砂粒○, 石英○	
第8回 2	3T一括		土器	粗造盆	古墳	-	(8.0)	○ ○ 黄色/砂粒○	
第8回 3	3T一括		瓶	瓶	中世	-	-	○ ○ 黄白色/砂粒○	

第2表 長須賀条里制遺跡の遺物② 土製品・石製品

辨認	造構/層位	区分	器種	寸法(cm)			重量 (g)	備考 (石材等)	
				長(高)	幅(径)	厚			
第7回 13	2T一括		土製品	勾玉形埴造品	(2.5)	1.8	-	(6.6)	上下欠損。
第7回 14	2T/SD-009		土製品	管状土錐	(4.9)	1.8	-	(11.5)	下部一部欠損。
第7回 15	2T/SB-003		土製品	管状土錐	5.1	1.9	-	0.7	14.1
第7回 16	2T一括		石製品	砾石	(5.2)	(4.7)	(2.3)	(16.7)	下部欠損。
第8回 4	3T一括		土製品	土玉	1.6	2.4	-	0.2	7.3

第3表 東山遺跡の遺物① 織文土器

辨認番号	造構/層位	部位	時期	寸法(cm)			胎土 焼成	備考
				焼成	粒径	色調/混入物		
第21回 3	14T 植出面一括	口縁下	後期	×	○	黒褐色・深褐色/砂粒●		
第25回 1	15T 東御Ⅱ層	口縁	早期 (条痕紋)	○	△	黒褐色/繊維○, 砂粒●		
第25回 2	15T 東御Ⅱ層	口縁	早期 (条痕紋)	○	○	黒褐色～暗褐色/繊維○, 灰白軟○, 長石粒○		口唇部キザミ
第25回 3	15T 東御Ⅱ層	胴	中期 (条痕紋)	△	×	黒褐色～灰黃褐色/繊維●, 砂粒●		
第25回 4	15T 東御Ⅱ層	胴下半	早期 (条痕紋)	△	×	黒褐色/繊維●, 砂粒●		
第25回 5	15T 東御Ⅱ層	胴下半	早期 (条痕紋)	△	×	黒褐色/繊維○, 砂粒○		
第25回 6	15T 東御Ⅱ層	胴下半	早期 (条痕紋)	○	△	黒褐色/繊維○, 石英粒●, 砂粒●		
第25回 7	15T 東御Ⅱ層	胴中位	早期 (条痕紋)	○	×	黒褐色～黒褐色/繊維●, 砂粒●		
第25回 8	15T 東御Ⅱ層	胴中位	早期 (条痕紋)	×	×	黒褐色/繊維●, 砂粒●		
第25回 9	15T 東御Ⅱ層	胴上半	早期 (条痕紋)	○	×	黒褐色/繊維●, 砂粒●		
第25回 10	15T 東御Ⅱ層	胴上半	早期 (条痕紋)	○	○	黒褐色/繊維○, 砂粒●		
第25回 11	15T 東御Ⅱ層	胴下半	早期 (条痕紋)	△	×	灰褐色/繊維○, 石英粒○, 砂粒○		
第25回 12	15T 東御Ⅱ層	胴下半	早期 (条痕紋)	○	○	黒褐色/繊維●, 砂粒○		

探査番号	遺跡/層位	部位	時期	胎土		参考
				焼	粒	
第25回 13	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	○	× 黒褐色/繊維〇、石英粒〇、砂粒●	
第25回 14	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	○	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 15	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	○	○ 黒褐色/繊維〇、砂粒〇	
第25回 16	15T 東面 II層	胸下半	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 17	15T 東面 II層	胸下半	早期（条痕紋）	△	△ 黒色~黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 18	15T 東面 II層	胸下半	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 19	15T 東面 II層	胸下半	早期（条痕紋）	△	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 20	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 21	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色~黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 22	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 23	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	△ 黒褐色/繊維〇、石英粒〇、砂粒〇	
第25回 24	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 25	15T 挖振区 下層	胸中位	早期（条痕紋）	△	○ 黑褐色~暗褐色/繊維〇、石英粒〇、砂粒●	尖底
第25回 26	15T 東面 II層	胸下半	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒●	内面コゲ付層
第25回 27	15T 東面 II層	底底上	早期（条痕紋）	△	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第25回 28	15T 東面 II層	胸中位	早期（条痕紋）	△	× 黒褐色/繊維〇、砂粒〇	
第25回 29	15T 挖振区 下層	胸中位	早期（条痕紋）	△	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒●	
第25回 30	15T 東面 II層	口縁下	早期（条痕紋）	○	○ 黒褐色/繊維〇、石英粒〇、砂粒●	
第25回 31	15T 東面 II層	胸中位	早期末~前期初	○	○ 黒褐色/繊維〇、石英粒〇、砂粒〇	
第25回 32	15T 東面 II層	胸中位	前期前葉	○	○ 黒褐色/繊維〇、砂粒〇	
第25回 33	15T 東面 II層	胸中位	前期前葉	○	○ 黒褐色/砂粒〇、石英粒〇	
第25回 34	15T 東面 II層	口縁	前葉	○	○ 黒褐色/砂粒〇、粗砂〇	
第25回 35	15T 東面 II層	胸中位	前葉	○	○ 黒褐色~海灰色/石英粒〇、粗砂〇、砂粒〇	
第25回 36	15T 東面 II層	胸上半	前葉(岡山)	○	○ 黒褐色/砂粒〇、石英〇	
第25回 37	15T 挖振区 下層	胸上半	前葉(五個ヶ台)	△	○ 黒褐色/砂粒〇、石英〇	
第26回 38	15T 挖振区 下層	胸下半	中期?	○	○ 黒褐色~褐色/砂粒〇	
第26回 39	15T 一括	胸下半	中期?	○	○ 黒褐色~褐色/砂粒〇、白色粒子〇	
第26回 40	15T 一括	口縁	中期?	△	× 黒褐色/砂粒〇、粗砂〇、石英〇	
第26回 41	15T 挖振区 下層	胸上半	中期?	○	○ 暗赤褐色/砂粒〇	
第26回 42	15T 一括	口縁	中期?	○	○ 黒褐色/砂粒〇、長石粒〇	
第26回 43	15T 一括	口縁下	中期(中幹?)	○	○ 暗黃灰色/砂粒〇、粗砂〇	
第26回 44	15T 一括	口縁	中期(阿玉台)	○	○ 黒褐色/砂粒〇、白石粒〇	
第26回 45	15T 一括	胸上半	中期(加曾利E)	○	○ 暗灰褐色/砂粒〇、小石粒〇	
第26回 46	15T 一括	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 黒褐色/砂粒〇	
第26回 47	15T 挖振区 下層	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 黒褐色~灰褐色/砂粒〇、石英粒〇、長石粒〇	
第26回 48	15T 一括	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、灰白砂〇	
第26回 49	15T 一括	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、白石粒〇	
第26回 50	15T 一括	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、粗砂〇	
第26回 51	15T 挖振区 下層	胸中位	中期(加曾利E)	○	○ 暗褐色~一時貢褐色/砂粒〇	
第26回 52	15T 一括	胸中位	後期(佐名寺)	○	○ 黒褐色/砂粒〇	
第26回 53	15T 挖振区 下層	胸中位	後期(佐名寺)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、長石粒〇、白色針狀物質△	第26回55と同一?
第26回 54	15T 挖振区 下層	胸上半	後期(安行1)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、白色針狀物質〇	第26回54と同一?
第26回 55	15T 挖振区 下層	胸上半	後期(安行1)	●	○ 暗褐色/砂粒〇、白色針狀物質〇	
第29回 1	本調査区 下層	胸下半	早期(条痕紋)	○	○ 黒褐色/繊維〇、砂粒〇	
第29回 2	本調査区 下層	胸下半	早期(条痕紋)	○	○ 黒褐色~褐褐色/繊維〇、砂粒〇、石英粒〇	
第29回 3	本調査区 下層	胸中位	中期(條理並行)	○	○ ?/砂粒?〇	全面鉄分都着
第29回 4	木調査区 下層	口縁下	中期(條理並行)	○	○ ?/砂粒?〇	全面鉄分都着
第30回 1	本/旧河道 上層	口縫	前期?	×	× 褐色~灰褐色/砂粒●	
第30回 2	本/旧河道 中層	口縫	早期(繊維紋)	○	○ 黒褐色~褐褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 3	本/旧河道 上層	口縫	早期(繊維紋)	○	○ 暗褐色/砂粒〇、褐褐色~灰褐色/砂粒〇、砂粒〇	
第30回 4	本/旧河道 上層	胸中位	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、細砂粒〇、砂粒〇	
第30回 5	本/旧河道 上層	口縫	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/砂粒〇、褐色/繊維〇、砂粒〇、粗砂粒〇	
第30回 6	本/旧河道 上層	胸中位	早期(繊維紋)	○	○ 暗褐色/繊維〇、砂粒〇、石英粒〇	
第30回 7	本/旧河道 上層	胸上半	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、粗砂粒〇、石英粒〇	第29回11と同一?
第30回 8	本/旧河道 中層	胸中位	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 9	本/旧河道 上層	胸下半	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、黃褐色漂粒〇	
第30回 10	本/旧河道 上層	胸下半	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、石英粒〇、長石粒〇	
第30回 11	本/旧河道 中層	胸下半	早期(繊維紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、粗砂粒〇、石英粒〇	
第30回 12	本/旧河道 中層	胸中位	早期(繊維紋)	○	○ 黑色~褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 13	本/旧河道 中層	胸中位	早期(繊維紋)	○	○ 暗褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 14	本/旧河道 上層	口縫	早期(田口下層)	○	○ 黑色/砂粒〇、石英粒〇、長石粒〇	
第30回 15	本/旧河道 上層	口縫	早期(三戸)	△	× 黃褐色~褐色/砂粒〇、長石粒〇、白色針狀物質〇	
第30回 16	本/旧河道 中層	胸上半	早期(三戸)	○	○ 黑褐色~褐褐色/砂粒〇、石英粒〇	
第30回 17	本/旧河道 上層	胸中位	早期(条痕紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 18	本/旧河道 上層	胸下半	早期(条痕紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、粗砂粒〇、長石粒〇	
第30回 19	本/旧河道 中層	胸中位	早期(条痕紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 20	本/旧河道 上層	胸上半	早期(条痕紋)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 21	本/旧河道 中層	口縫	前期?	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇	
第30回 22	本/旧河道 上層	胸上半	前葉(花梗下層)	○	○ 黑褐色/繊維〇、砂粒〇、石英粒〇	
第30回 23	本/旧河道 中層	胸上半	前葉(花梗下層)	○	○ 黑褐色/砂粒〇、粗砂〇	
第30回 24	本/旧河道 上層	胸上半	前葉(花梗下層)	○	○ 黑褐色~黑褐色/繊維〇、砂粒〇	第29回25と同一?

探査番号	遺構/層位	部位	時期	粘土		備考
				焼	粒	
第30回 25	木/旧河道 上層	胴中位	前期(花枝下層)	○	暗褐色~黒褐色/繊維○, 砂粒●	
第30回 26	木/旧河道 上層	胴中位	前期前半	○	同灰色/砂粒○	
第30回 27	木/旧河道 上層	胴上半	前期前半	●	暗褐色/砂粒●, 石英粒○, 長石粒○	
第30回 28	木/旧河道 上層	口縁	前期(諸説C)	△	褐色/砂粒●, 石英粒○	
第30回 29	木/旧河道 上層	胴中位	前期(諸説C)	○	黒褐色~暗褐色/石英粒●	
第30回 30	木/旧河道 中層	胴上半	前期(十三番堤)	○	黒褐色/砂粒●	
第30回 31	木/旧河道 中層	胴上半	中期(十三番堤)	△	灰褐色/砂粒●, 石英粒○	
第30回 32	木/旧河道 上層	口縁下	前期(十三番堤)	○	暗褐色/橙粒○	
第30回 33	木/旧河道 上層	胴上半	中期(五箇ヶ台)	○	灰褐色/砂粒○	
第30回 34	木/旧河道 中層	胴上半	中期(勝坂)	○	暗褐色/石英粒, 粗砂●	
第30回 35	木/旧河道 上層	胴上半	中期(勝坂)	○	暗褐色/砂粒●	
第30回 36	木/旧河道 上層	胴上半	中期(勝坂)	○	暗褐色/砂粒●	
第30回 37	木/旧河道 上層	胴上半	中期(勝坂)	○	暗褐色/砂粒●, 粗砂●	
第30回 38	木/旧河道 中層	口縁	中期(阿玉台)	○	暗灰褐色/砂粒○, 霧得粒●	
第30回 39	木/旧河道 中層	口縁	中期(阿玉台)	△	暗褐色/雪母粒○, 砂粒●, 想砂粒○, 石英粒○	
第30回 40	木/旧河道 上層	口縁	中期(阿玉台)	○	暗褐色/雪母粒○, 砂粒●, 石英粒○	
第30回 41	木/旧河道 上層	胴中位	中期(阿玉台)	○	黒褐色/茶色粒○, 砂粒●, 長石粒●	
第30回 42	木/旧河道 上層	胴上半	中期(阿玉台)	○	暗褐色/雪母粒○, 砂粒●, 粗砂粒○, 石英粒○	
第30回 43	木/旧河道 上層	胴中位	中期(阿玉台)	○	暗灰褐色~暗褐色/雪母粒○, 粗砂粒○, 石英粒○	
第31回 44	木/旧河道 上層	胴中位	中期(阿玉台)	△	褐灰色~黑色粒●, 粗砂粒●, 石英粒○	
第31回 45	木/旧河道 上層	口縁	中期(加賀利E)	△	暗褐色~暗灰色/雪母粒○, 粗砂●, 石英粒○	
第31回 46	木/旧河道 上層	胴中位	中期(加賀利E)	×	灰色/砂粒○, 風砂○	
第31回 47	木/旧河道 中層	胴中位	中期(加賀利E)	○	灰色/砂粒●, 長石粒○, 白色針狀物質○	
第31回 48	木/旧河道 上層	胴中位	中期(加賀利E)	○	暗褐色/砂粒●	
第31回 49	木/旧河道 上層	胴上半	中期(加賀利E)	○	黒褐色~暗褐色/砂粒●, 長石粒○	
第31回 50	木/旧河道 上層	口縁	中期(加賀利E)	○	黒褐色~暗褐色/砂粒○, 石英粒○	
第31回 51	木/旧河道 上層	胴中位	中期(加賀利E)	△	長石粒/砂粒○, 粗砂○	
第31回 52	木/旧河道 上層	胴下半	中期(加賀利E)	○	暗褐色~褐色/砂粒●, 石英粒○	
第31回 53	木/旧河道 上層	胴中位	中期(曾利並行)	○	灰褐色/砂粒○, 細砂粒●, 灰白色泥岩粒○	
第31回 54	木/旧河道 中層	胴中位	中期(曾利並行)	○	暗褐色/砂粒○, 細砂粒○	
第31回 55	木/旧河道 上層	胴中位	中期(曾利並行)	○	暗灰色~褐色/砂粒●, 石英粒○, 長石粒○	
第31回 56	木/旧河道 上層	口縁	中期(曾利並行)	○	黒褐色/砂粒●	
第31回 57	木/旧河道 下層	胴中位	中期?	○	暗褐色/砂粒●	
第31回 58	木/旧河道 上層	胴中位	中期?	○	暗褐色/砂粒○, 長石粒○, 白色針狀物質○	
第31回 59	木/旧河道 中層	口縁	中期?	○	灰黃褐色/砂粒○, 長石粒○	
第31回 60	木/旧河道 中層	胴下半	中期?	○	黒褐色~褐色/砂粒●, 粗砂○	
第31回 61	木/旧河道 上層	胴中位	中期?	○	暗褐色/砂粒○, 細砂粒●	
第31回 62	木/旧河道 上層	胴上半	後期(瀬之内)	○	黒褐色/砂粒●	
第31回 63	木/旧河道 中層	口縁	後期(瀬之内)	△	灰褐色~暗褐色/砂粒○	
第31回 64	木/旧河道 上層	胴中位	後期(瀬之内)	○	黒褐色/砂粒●	
第31回 65	木/旧河道 上層	胴中位	後期(瀬之内)	○	暗褐色/砂粒○, 細砂粒●, 石英粒○	
第31回 66	木/旧河道 上層	胴上半	後期(瀬之内) ?	○	黒褐色/砂粒○, 石英粒○	
第31回 67	木/旧河道 上層	口縁	後期(加賀利B)	○	暗褐色/砂粒○, 細砂粒○, 灰黃色泥岩粒○	
第31回 68	木/旧河道 上層	胴中位	後期(加賀利B)	○	暗褐色/砂粒●	
第31回 69	木/旧河道 上層	胴上半	後期(加賀利B)	○	灰褐色/砂粒●	
第31回 70	木/旧河道 上層	口縁下	後期(加賀利B)	○	暗褐色~黑色/粗砂○	
第31回 71	木/旧河道 中層	口縁下	晚期	○	灰褐色/砂粒●, 石英粒●	
第31回 72	木/旧河道 上層	口縁下	晚期	○	暗灰色/砂粒●, 長石粒○	

第4表 東山遺跡の遺物② 弥生土器

探査番号	遺構/層位	器種	部位	時期	粘土		備考
					焼	粒	
第22回 1	1ST 西側7層	甌	胴上半	中期末	○	褐灰色/砂粒○, 石英粒●, 長石粒○	
第22回 2	1ST 西側7層	甌	胴上半	中期末	△	淡褐色/砂粒○, 石英粒●, 長石粒○	外側赤彩あり
第22回 3	1ST 西側8層	甌	胴上半	中期	△	褐灰色/砂粒●	外側ハケ目
第22回 4	1ST 水路跡	甌	胴中位	中期	○	褐灰色/砂粒○, 石英粒●	口唇部指派押捺
第22回 5	1ST 水路跡	甌	胴中位	中期	○	褐灰色/砂粒●, 細砂粒○, 灰黃色泥岩粒○	外側ハケ目
第31回 73	木/旧河道	甌	胴上半	中期末	●	暗褐色/砂粒○	
第31回 74	木/旧河道	甌	胴上半	中期末	○	灰黃白色/砂粒○, 石英粒○	
第31回 75	木/旧河道	甌	胴上半	中期	○	暗褐色/砂粒○, 石英粒○	
第31回 76	木/旧河道	甌	胴上半	中期?	△	暗褐色/灰褐色/褐色/砂粒●	外側に浅い条痕
第31回 77	木/旧河道	甌	胴上半	後期	△	褐色/灰色/砂粒●	被覆段の輪積痕
第31回 78	木/旧河道	甌	口縁下	中期	○	暗褐色/細砂粒●, 白色針狀物質○	外側ハケ目
第31回 79	木/旧河道	甌	口縁下	後期	△	淡褐色~黃褐色/白色/砂粒○, 粗砂○	東部下端に1段の輪積痕
第31回 80	木/旧河道	甌	底部	中期?	○	暗褐色/砂粒●	底部削面からの穿孔あり

第5表 東山遺跡の遺物③ 古墳時代以降の土器類

探査番号	遺構/層位	区分	器種	時期	寸法(cm)		粘土	備考
					口径	底径	高	
第13回 1	2T SX-1	土師	甌	古墳	-	(10.0)	(3.2)	△ × 灰色~灰褐色~褐色/砂粒○, 粗砂○ 木葉痕

探査番号	道標/層位	区分	器種	時期	寸法(cm)			胎土		備考
					口径	底径	高	焼	粒	
第13回 2	2T 條出面一括	土師	高杯	古墳	-	-	(4.7)	○	○ 橙色/砂粒○, 石英○, 針○	
第13回 3	2T 條出面一括	土師	杯	古墳	(15.0)	-	(3.0)	○	○ 淡褐色~灰褐色/砂粒○, 針○	
第13回 4	2T 條出面一括	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 灰色/繊維●	
第13回 5	2T SX-1	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 灰色/繊維●	
第13回 6	2T 條出面一括	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 淡灰色/砂粒●	
第13回 7	2T 條出面一括	土師	杯	良瓦	-	(9.4)	(2.1)	○	○ 淡灰白色/繊維○, 雪色粒○, 黄白色粒○	
第13回 8	2T 條出面一括	土師	高台杯	平安	-	(5.2)	(1.3)	○	○ 暗褐色~灰白色·橙色/繊維○, 針△	
第13回 9	2T 條出面一括	土師	高台杯	平安	-	(6.6)	(1.8)	○	○ 暗褐色~灰白色·淡褐色/繊維○, 灰白褐色○	
第13回 10	2T SX-1	土師	高台杯	平安	(17.2)	-	(1.9)	○	○ 淡褐色~橙色/繊維○	
第13回 11	2T SX-1	陶器	片口鉢	中世	-	-	(3.5)	×	× 灰色/砂粒●, 粗沙●, 石英●	
第13回 12	2T 條出面一括	瀬戸	縦隔壁	中世	(10.8)	-	(1.8)	○	○ 白灰色(青黄)/砂粒○	鉄輪
第13回 13	2T 條出面一括	柴付	甕	中世	-	(4.0)	(1.8)	○	○ 乳白色/砂粒△	口縫部破缺
第15回 1	3T SD-002	須恵	甕	平安	-	-	(1.3)	○	○ 灰色/繊維○, 石英○	
第15回 2	3T -1括	土師	杯	平安	(13.4)	(8.4)	4.3	○	○ 黄褐色/繊維○, 赤褐色粒○	
第15回 3	3T -1括	土師	杯	平安	-	(4.8)	(1.1)	△	△ 灰黄色/砂粒○, 繊維○, 赤褐色粒○	
第15回 4	3T SD-002	須恵	甕	平安	(13.3)	-	(1.2)	×	× 灰色~暗灰色/繊維○	
第15回 5	3T -1括	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 灰色~灰白色/繊維○	
第15回 6	3T -1括	瀬戸	小里	中世	(7.2)	-	(1.8)	○	○ 白灰色/繊維○	
第15回 7	3T -1括	瀬戸	打明器	近世	(11.7)	-	(1.6)	○	○ 白灰色/繊維○	灰輪 輪胎
第18回 1	9T -1括	土師	高台杯	平安	-	(8.1)	(1.7)	○	○ 淡灰白色·橙色/繊維○, 針○, 灰白色粒○	
第18回 2	須恵	甕	平安	-	-	-	●	● 灰色/砂粒●		
第18回 3	11T -1括	土師	杯	平安	(12.8)	(7.6)	4.4	○	○ 橙色/繊維○, 灰白色粒○	
第18回 4	11T -1括	土師	杯	奈良	-	(6.8)	(1.3)	○	○ 橙色~暗橙色/砂粒○, 針△	
第21回 1	13T -1括	須恵	甕	古墳	-	-	-	○	○ 灰色/繊維●	
第23回 6	15T 6番	土師	杯	古墳	(16.4)	-	(3.3)	○	○ 淡褐色·砂粒○, 針○	全面赤
第23回 7	15T 武藏区	土師	杯	古墳	-	(7.2)	(4.8)	○	○ 淡灰褐色·砂粒○, 粗沙○, 針○	
第23回 8	15T -1括	土師	粗造盆	古墳	-	(5.8)	(3.6)	●	● 淡赤褐色/砂粒○, 针○, 奈良色粒○	
第23回 9	15T -1括	須恵	甕	平安	-	-	(1.3)	△	△ 灰白色/繊維○, 雪色粒○	
第23回 10	15T 武藏区	土師	杯	平安	(12.4)	(7.8)	4.0	○	○ 淡黃色/砂粒○, 針○	
第23回 11	15T -1括	土師	台付甕	奈良	-	(4.4)	(2.2)	○	○ 淡褐色~黃灰色/繊維○, 針○	
第23回 12	15T -1括	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 淡灰白色/繊維○, 黑化粒○	外自然 輪胎
第23回 13	15T 6番	瀬戸	平碗	中世	-	(4.5)	(1.6)	●	● 淡黃色/砂粒●	
第23回 14	15T 上層一括	青磁	甕	中世	-	-	-	○	○ 灰白色/混入物なし	
第23回 15	15T -1括	瓦質	羽釜	中世	-	-	-	○	○ 灰色~灰白色/繊維○	
第27回 1	1T -1括	瀬戸	盆	中世	(33.4)	-	(3.8)	×	× 灰白色/砂粒○, 石英○	
第27回 2	1T -1括	白磁?	甕	中世	(18.8)	-	(1.9)	●	● 灰白色/石英○	
第27回 5	4T -1括	土師	高台杯	平安	-	(5.8)	(1.9)	△	△ 淡褐色·黑色/砂粒○, 粗沙○, 針○, 黑色粒○	
第27回 6	4T -1括	土師	高台杯	平安	-	(7.5)	(2.0)	△	△ 白灰色~灰褐色/繊維○, 灰白色粒○	
第27回 7	5T -1括	土師	杯	古墳	-	(8.0)	(3.4)	○	○ 淡褐色~淡褐色/砂粒○, 粗沙○, 針○, 黑色粒○	
第27回 8	6T -1括	常滑	片口鉢	中世	(23.6)	-	(4.5)	×	× 暗褐色/砂粒○, 粗沙○	
第27回 9	8T -1括	土師	杯	平安	(9.8)	(6.0)	3.7	○	○ 橙色·淡黃色/繊維○	
第27回 10	8T -1括	須恵	甕	平安	-	-	-	●	● 淡灰白色/繊維○	
第27回 11	8T -1括	常滑	片口鉢	中世	(27.5)	-	(5.0)	●	● 橙色/砂粒●, 粗沙○	タキモノあり
第27回 12	8T -1括	常滑	甕	中世	-	-	-	○	○ 橙色/砂粒○	
第27回 13	13T -1括	常滑	甕	中世	-	-	-	○	○ 淡灰白色/砂粒○, 小石粒○	
第27回 14	16T 上層一括	土師	杯	古墳	-	(7.2)	(2.4)	○	○ 暗褐色~深褐色/繊維○, 細沙○, 針○	
第27回 15	16T 中層一括	土師	杯	奈良	(3.2)	-	(2.5)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 石英○	
第27回 16	16T 中層一括	土師	杯	平安	(13.3)	(6.9)	3.3	○	○ 淡褐色/砂粒○	
第27回 17	16T 中層一括	土師	杯	平安	(18.2)	-	(3.0)	△	△ 橙色/繊維○	
第27回 18	16T 中層一括	須恵	甕	平安	-	-	-	●	● 淡褐色/砂粒●, 細沙●	
第27回 19	16T 上層一括	常滑	甕	常滑	-	-	-	○	○ 淡褐色/砂粒○, 細沙○	外自然 輪胎
第27回 20	16T 上層一括	須恵	甕	常滑	-	-	-	○	○ 淡褐色/砂粒○, 細沙○	
第27回 21	16T 中層一括	土師	小甕	中世	(8.4)	(5.8)	1.4	△	△ 深褐色~黃灰色/繊維△, 黑白色粒○	
第27回 22	16T 中層一括	土師	杯	中世	28	2.3	1.6	○	○ 黑色/繊維○	
第27回 23	16T 上層一括	瀬戸	香炉	中世	-	(7.7)	(1.6)	○	○ 淡黃白色/繊維○	
第27回 25	16T 上層一括	土師	高台杯	平安	-	-	-	○	○ 灰色/繊維○, 針○	
第29回 17	本満正菴区下層	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 淡褐色/砂粒○, 黑化粒○	内自然
第29回 18	本満正菴区下層	須恵	甕	平安	-	-	-	○	○ 淡褐色/砂粒○	
第29回 19	本満正菴区下層	須恵	甕	古墳?	-	-	(1.8)	●	● 黑色/砂粒○, 石英○	外自然
第32回 81	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(17.8)	-	(5.0)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○	
第32回 82	木/田河道 中層	土師	杯	古墳	(15.8)	-	(3.1)	○	○ 淡褐色~淡褐色/砂粒△, 粗砂△, 針○	
第32回 83	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(12.6)	-	(3.9)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 粗沙○, 針○	
第32回 84	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(15.0)	-	(4.5)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○	
第32回 85	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(13.8)	-	(4.7)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 細沙○, 針○	
第32回 86	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(15.8)	-	(3.8)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 粗砂○, 針○	
第32回 87	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(13.0)	-	(5.0)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○	
第32回 88	木/田河道 中層	土師	杯	古墳	(13.8)	-	(3.0)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○	
第32回 89	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(15.8)	-	(5.5)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○	
第32回 90	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(10.7)	-	(5.0)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 粗砂○, 針○	
第32回 91	木/田河道 上層	土師	杯	古墳	(18.3)	-	(7.8)	○	○ 淡褐色/砂粒○, 針○, 橙色粒○	
第32回 92	木/田河道 中層	土師	杯	古墳	(15.5)	-	(6.6)	△	△ 淡褐色/砂粒○, 粗砂○, 針○	

桜名番号	遺傳子/種位	区分	種類	時期	寸法(cm)			胎生 色調、混入物等	備考
					口徑	底径	高		
第32回93	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(14.3)	-	(3.0)	○ 黄褐色~砂粒○、針△	
第32回94	木/旧河道 中層	土師	鉢	古墳	(12.2)	-	(5.0)	○ 黄褐色~砂粒○、粗砂○、針△	
第32回95	木/旧河道 中層	土師	鉢	古墳	(16.2)	-	(5.3)	○ 黄褐色~砂粒○、粗砂△、針○	
第32回96	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(12.4)	-	(5.5)	△ 黄褐色~砂粒○	
第32回97	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(7.6)	-	(5.9)	○ X 細灰褐色~灰黃色~砂粒○、針○	
第32回98	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(13.3)	-	(4.8)	○ X 灰褐色~砂粒○、針△	
第32回99	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	-	6.4	(4.1)	● 橙色~淡橙色~粗砂○、粗砂○、針○	
第32回100	木/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	-	6.4	(2.3)	○ ○ 明灰色~黄灰色~砂粒○、針○	
第32回102	木/旧河道 上層	土師	手挽	古墳	(8.4)	5.2	5.0	△ ○ 黄褐色~砂粒○、針○	
第32回103	木/旧河道 上層	土師	手挽	古墳	(7.4)	(6.0)	3.6	△ X 細灰褐色~灰黃色~砂粒○、粗砂○	
第32回104	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	(8.6)	(5.6)	2.5	△ X 黃褐色~黃灰色~粗砂○、針○、黃灰色泥質○	
第32回105	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	(12.4)	(7.6)	(10.0)	○ ○ 黃褐色~黑褐色~砂粒○、粗砂○、針△	黒相跟着
第32回106	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	-	7.5	(4.0)	○ △ 橙色~黃褐色~砂粒○、粗砂○、針○	黒相跟着
第32回107	木/旧河道 中層	土師	組造鉢	古墳	-	7.8	(5.2)	● ○ 橙色~黃褐色~砂粒○、粗砂○、針○	黒相跟着
第32回108	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	-	7.8	(7.7)	○ ○ 黄褐色~灰黃色~砂粒○、粗砂○、針○	黒相跟着
第32回109	木/旧河道 中層	土師	組造鉢	古墳	-	(6.6)	(3.3)	△ ○ 黄褐色~灰黃色~砂粒○、針△	黒相跟着
第32回110	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	-	(7.8)	(2.2)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、針○	黒相跟着
第32回111	木/旧河道 上層	土師	組造鉢	古墳	-	(6.4)	(2.6)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、粗砂○、針○	黒相跟着
第33回111	木/旧河道 上層	土師	鉢?	古墳	(14.2)	-	(9.0)	○ ○ 淡褐色~浅褐色~砂粒○、粗砂○、針○	
第33回112	木/旧河道 上層	土師	高杯	古墳	-	(11.4)	(2.3)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、粗砂○、針△	
第33回113	木/旧河道 上層	土師	蓋	古墳	(13.0)	-	(2.9)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、粗砂○	
第33回114	木/旧河道 中層	土師	鉢?	古墳	-	(7.8)	(3.3)	○ ○ 淡褐色~黃灰褐色~砂粒○、瓦石○、針△	
第33回115	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	-	(7.4)	(3.0)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、瓦石○	
第33回116	木/旧河道 上層	土師	中型甕	古墳	(11.5)	-	(4.0)	○ ○ 黄白色~白黃色~粗砂○、長石○、針○	
第33回117	木/旧河道 上層	土師	台付甕	古墳	-	(8.3)	(3.1)	○ ○ 橙色~白褐色~粗砂○、長石○、針△	
第33回118	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(15.4)	-	(17.3)	○ ○ 黄褐色~白褐色~砂粒○、粗砂○、針○	
第33回119	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	-	(6.2)	(8.0)	○ △ 黄褐色~白褐色~砂粒○、粗砂○、針○	
第33回120	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(23.9)	-	(11.5)	○ ○ 黄褐色~灰黃色~砂粒○、粗砂○、針○	
第33回121	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(25.5)	-	(12.5)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、粗砂○、針○	磨耗
第33回122	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(26.0)	-	(15.2)	○ ○ 黄褐色~灰褐色~砂粒○、粗砂○、針○	外側ハケ
第33回123	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(14.8)	(6.2)	(9.0)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、粗砂○、針○	内側ハケ
第33回124	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	-	(8.2)	(4.6)	○ ○ 橙色~淡褐色~砂粒○、粗砂○、針△	
第33回125	木/旧河道 上層	土師	古墳	古墳	(16.4)	-	(3.8)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、粗砂○、針○	
第33回126	木/旧河道 上層	土師	古墳?	古墳?	(19.0)	-	(7.5)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、針△	
第33回127	木/旧河道 上層	土師	古墳?	古墳?	(19.2)	-	(6.5)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、針○	
第33回128	木/旧河道 上層	土師	須恵	古墳	-	-	-	△ ○ ぶい裡褐色~暗褐色~砂粒○、石英○	
第33回129	木/旧河道 中層	土師	古墳	古墳	-	-	-	○ ○ 白褐色~砂粒○	
第34回130	木/旧河道 上層	土師	杯	奈良	(15.0)	(10.4)	(4.1)	○ ○ 淡黃褐色~淡灰色~砂粒○、針○	
第34回131	木/旧河道 上層	土師	杯	奈良	-	(7.4)	(3.4)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、針△	
第34回132	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.6)	-	(3.6)	○ ○ 橙色~淡褐色~細砂○、褐色ブロック○	
第34回133	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(15.0)	6.4	4.4	● ○ 淡褐色~淡褐色~細砂○、針●	
第34回134	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(13.6)	-	(2.8)	○ ○ 黄褐色~淡褐色~砂粒○、粗砂○、針△	
第34回135	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.0)	(6.6)	3.4	○ ○ 黄褐色~淡紅色~細砂○、灰白色粒○	
第34回136	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.4)	-	(3.0)	○ ○ 淡黃褐色~細砂○	
第34回137	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.0)	6.5	3.3	● ○ 淡褐色~淡褐色~細砂○、針△	
第34回138	木/旧河道 上層	土師	杯	奈良	(17.0)	(9.8)	2.5	○ ○ 橙色~淡黃褐色~細砂○、褐色粒○	
第34回139	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	(14.0)	-	(3.5)	○ ○ 淡黃褐色~淡褐色~細砂○、針○	
第34回140	木/旧河道 中層	土師	杯	平安	-	(7.4)	(2.4)	○ ○ 橙色~細砂○	
第34回141	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	-	(8.0)	(1.3)	○ ○ 棕褐色~細砂○、針○	
第34回142	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	-	(6.2)	(0.9)	○ ○ 灰白色~橙色~細砂△、灰黃白色粒○	
第34回143	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	-	(7.6)	(1.6)	● ○ 橙色~細砂○	
第34回144	木/旧河道 上層	土師	杯	平安	-	7.2	(1.6)	○ ○ 暗色~淡黃褐色~砂粒○、瓦石○、灰黃色粒○	
第34回145	木/旧河道 中層	土師	杯	平安	-	(5.6)	(1.3)	● ○ 黄褐色~深褐色~細砂○、針△	
第34回146	木/旧河道 上層	土師	杯	奈良	(17.6)	-	(4.1)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、細砂●	ロクロ整形
第35回147	木/旧河道 上層	須恵	平安	-	(15.3)	(2.7)	-	○ ○ 黄褐色~砂粒○、石英○	
第35回148	木/旧河道 上層	須恵	平安	-	-	(1.2)	-	○ ○ 黄褐色~砂粒○、石英○	
第35回149	木/旧河道 上層	須恵	瓶子	平安	(14.8)	-	(1.7)	● ○ 黄褐色~細砂○、黑色粒○	
第35回150	木/旧河道 上層	須恵	瓶子	平安	-	-	(11.0)	○ ○ 黄褐色~砂粒○、石英●	
第35回151	木/旧河道 上層	須恵	瓶子	平安	-	-	(15.5)	○ ○ 淡褐色~砂粒○、石英△	
第35回152	木/旧河道 中層	須恵	平安	平安	(18.2)	-	(4.5)	● ○ 黄白色~暗褐色~砂粒○	
第35回153	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~細砂○、針●、石英○	
第35回154	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~砂粒○、黑色粒○	
第35回155	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 淡褐色~砂粒○	
第35回156	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	△ X 黄褐色~細砂●	
第35回157	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~細砂●	
第35回158	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~細砂●、石英△、炭化粒△	
第35回159	木/旧河道 中層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~砂粒○、石英○、炭化粒○	
第35回160	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 明灰褐色~砂粒●、石英○	
第35回161	木/旧河道 中層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 黄褐色~砂粒●、石英○	
第35回162	木/旧河道 上層	須恵	平安	平安	-	-	-	○ ○ 灰色~灰白色~砂粒●	
第37回10	木/旧河道	雷滑	大圈	中量	-	-	-	○ △ 黄褐色~褐色~砂粒●、石英○	

第6表 東山遺跡の遺物④ 土製品・石製品

押出	遺物/場所	区分	器種	寸法(cm)			重量(g)	備考(石材等)
				長(高)	幅(径)	厚		
第13回 14	2T SX-1	土製品	白形橢橢造品	(3.3)	3.1	-	(17.6)	脚部欠損
第13回 15	2T 案出面-柄	土製品	管状土鉢	4.6	1.9	0.7	11.5	
第13回 16	2T 2握	土製品	春石?	-	1.9	0.6	2.0	
第13回 17	2T 2握	土製品	泥陶子	-	1.5	0.5	1.4	人面。
第19回 2	12T/SK-001	土製品	土瓦	1.6	2.1	-	0.3	6.4
第23回 8	15T 東側 8号	土製品	土瓦	2.1	1.9	-	0.2	7.3
第27回 3	1T 上層-柄	土製品	泥陶子?	(2.0)	1.5	0.6	-	(15)「吉わ旗」か?
第27回 4	1T 1折	石製品	火打石	2.3	1.5	1.4	-	4.4 玉類/瑪瑙
第27回 24	16T 下層-柄	土製品	勾形橢橢造品	(4.2)	2.1	1.9	-	(15.7) 上下欠損。
第27回 27	16T 上層-柄	石製品	火打石	2.3	2.5	1.6	-	12.5 玉類/瑪瑙
第27回 28	16T 下層-柄	石製品	火打石	3.1	2.2	1.3	-	8.3 玉類/瑪瑙
第27回 29	16T 下層-柄	石製品	火打石	4.0	1.8	1.1	-	7.8 チャート
第27回 30	16T 上層-柄	石製品	砾石	(4.9)	3.1	1.6	-	(37.3) 砂岩。仕上鉋。
第27回 31	16T 中層-柄	石製品	砾石	(7.5)	2.8	2.0	-	73.4 砂岩。仕上鉋。
第29回 14	本調査区/下層	石製品	砾石	(7.8)	(6.7)	3.6	0.9	(25.0) 砂岩。
第29回 15	本調査区/下層	土製品	鏡形橢橢造品	-	(5.0)	1.0	0.3	(19.0) 外端全欠。
第29回 16	本調査区/上層	土製品	管状土鉢	4.3	2.0	-	0.8	13.8 鏡形形、くびれ部径1.7cm。
第37回 181	木/旧河道 中耕	石製品	磨擦車	-	(3.8)	1.9	(0.7)	(21.4) 布石。表面麻斑。半欠。
第37回 182	木/旧河道 中耕	石製品	磨擦車	-	3.3	1.3	0.7	25.8 布石。
第37回 187	木/旧河道 上層	土製品	不明	2.4	1.9	-	-	8.9 上穿?
第37回 188	木/旧河道 上層	土製品	土瓦	2.1	2.3	-	0.3	9.8
第37回 189	木/旧河道 中耕	土製品	鏡形橢橢造品?	-	4.5	1.2	-	20.9 表面鋸歯。無孔。
第37回 190	木/旧河道 上耕	土製品	粗用砾石	-	-	-	-	常滑變質片の転用品

第7表 東山遺跡の遺物⑤ 石器類

押出	遺物/場所	区分	器種	寸法(cm)			重量(g)	備考(石材等)
				長(高)	幅(径)	厚		
第19回 1	12T -柄	U 刃片	黑曜石	1.41	1.46	0.70	1.3	
第21回 2	14T -柄	剝片	黑曜石	2.38	2.70	1.05	5.2	楔形石器の剝片
第26回 36	15T 西面 8号	剝片	黑曜石	2.84	4.15	1.75	14.9	
第26回 37	15T 東側 II層	R-剥片	黑曜石	1.69	1.70	0.30	0.7	
第26回 38	15T 東側 II層	剝片	カルンフェルス	3.85	5.65	1.13	17.9	
第26回 39	15T 東側 II層	楔形石器	黑曜石	3.40	1.70	1.33	7.1	
第26回 40	15T 東側 II層	剝片	黑曜石	3.82	1.14	0.81	2.8	
第26回 41	15T 東側 II層	剝片	黑曜石	4.70	1.56	1.25	6.4	
第26回 42	15T 東側 II層	剝片	黑曜石	1.70	2.45	1.12	4.2	
第26回 43	15T 東側 II層	剝片	黑曜石	2.60	2.70	0.85	3.8	
第26回 44	15T 東側 II層	楔形石器	黑曜石	2.22	2.25	0.88	3.5	
第26回 45	15T 東側 II層	楔形石器	安山岩	2.91	3.73	1.51	16.4	
第29回 5	本調査区/排水溝	石集	チャート	2.71	2.68	0.83	5.1	平筋加刃型。先端欠損
第29回 6	本調査区/排水溝	石集	黒曜石	2.20	(1.16)	0.38	(0.9)	円筋無刃型。半欠
第29回 7	本調査区/上層	楔形石器	安山岩	2.59	3.33	1.50	11.7	楔形石核か?
第29回 8	本調査区 SK-001	剝片	ホルンフェルス	3.96	4.80	1.05	19.4	
第29回 9	本調査区/SB-002	打製石斧	安山岩?	(5.79)	4.43	1.85	(51.9)	打製石斧?
第29回 10	本調査区/下層	打製石斧	ホルンフェルス?	7.31	6.23	3.28	194.3	分離形
第29回 11	本調査区/SB-002	磨製石斧	ホルンフェルス?	(5.28)	5.85	3.70	(151.9)	
第29回 12	本調査区/下層	磨石	安山岩	(3.70)	(6.20)	(2.80)	(88.0)	橢円形?
第29回 13	本調査区/SB-002	磨石	砂岩	(7.40)	3.90	3.00	(164.8)	
第36回 163	木/旧河道 上耕	U 刃片	黒曜石	2.94	1.77	0.62	1.5	
第36回 164	木/旧河道 上層	楔形石器	黒曜石	2.58	1.70	0.89	4.1	
第36回 165	木/旧河道 中耕	楔形石器	黒曜石	1.85	1.37	0.92	2.2	
第36回 166	木/旧河道 中耕	剝片	黒曜石	2.18	1.76	0.72	2.7	
第36回 167	木/旧河道 上耕	剝片	黒曜石	5.79	3.45	1.44	24.4	
第36回 168	木/旧河道 上耕	剝片	粘板岩	2.93	3.62	0.65	6.5	
第36回 169	木/旧河道 上耕	剝片	粘板岩	2.17	3.32	0.89	6.6	
第36回 170	木/旧河道 上耕	打製石斧	ホルンフェルス	(4.11)	6.88	1.45	(46.0)	半分以上欠損
第36回 171	木/旧河道 中耕	磨石	砂岩	7.90	6.20	3.50	283.2	橢円形
第36回 172	木/旧河道 中耕	磨石	砂岩	(5.80)	(6.10)	(2.80)	(182.8)	
第36回 173	木/旧河道 中耕	磨石	砂岩	11.80	5.80	4.90	489.9	
第36回 174	木/旧河道 上耕	磨石	閃緑岩	(5.80)	7.20	3.20	(234.8)	
第36回 175	木/旧河道 中耕	磨石	砂岩	(4.40)	4.06	4.50	(118.8)	
第36回 176	木/旧河道 上耕	磨石	砂岩	(4.30)	(4.70)	(3.00)	(83.1)	
第36回 177	木/旧河道 中耕	磨石	玄武岩	(4.30)	5.40	4.50	(177.1)	
第36回 178	木/旧河道 中耕	磨石	砂岩	(8.40)	4.80	(3.40)	(219.4)	
第36回 179	木/旧河道 上耕	磨石	砂岩	(7.20)	(5.30)	6.80	(390.4)	
第36回 180	木/旧河道 中耕	磨石/台石	砂岩	11.90	8.40	3.70	649.6	
第37回 181	木/旧河道 上耕	扁平片刃石斧	ホルンフェルス	6.10	4.05	1.22	46.4	
第37回 182	木/旧河道 上耕	太頭拾刃石斧	ホルンフェルス	(4.45)	6.82	3.64	(144.3)	
第37回 183	木/旧河道 中耕	堆積石斧	ホルンフェルス	7.57	3.72	1.52	51.7	去頭堆頭斧

# 写 真 図 版



図版2 (長須賀条里製造跡)



第1トレンチ検出状況（東から）



第2トレンチ検出状況（東から）



第2トレンチ完掘全景（北東から）



第2 トレンチ拡張区完掘全景（北西から）



第3 トレンチ検出状況（西北西から）



第3 トレンチ完掘全景（西南西から）

図版4 (東山遺跡)



第2トレンチ完掘全景（東から）



第2トレンチ検出状況（西から）



第3トレンチ検出状況（西から）



第2 トレンチ完掘全景（北西から）



第2 トレンチSD-002完掘全景  
(北西から)



第3 トレンチウシ足跡検出状況  
(北北東から)

図版6 (東山道路)



第3 トレンチ中央付近全景（西から）



第5 トレンチ検出状況（東から）



第4 トレンチ検出状況①（北東から）



第4 トレンチ検出状況（西から）



第7 トレンチ検出状況（東から）



第9 トレンチ検出状況（南西から）



第9 トレンチ検出状況（東南東から）

図版8 (東山遺跡)



第8トレンチ検出状況（西から）



第10トレンチ検出状況（北東から）



第11トレンチ旧河道木質出土状況（東から）



第12トレンチSK-1全景  
(西から)



第13トレンチ完掘全景  
(東北東から)



第14トレンチ検出状況  
(北西から)

図版10 (東山遺跡)



第45トレンチ小区画水田跡



第45トレンチSX-1



第15トレンチ検出状況（東から）



第15トレンチ検出状況（東から）



第16トレンチ検出状況

図版12 (東山遺跡本調査区)



上層検出状況（北東から）



上層検出状況（北西から）



上層断面（西から）



全景①(南西から)



全景②(南東から)



全景③(北東から)

図版14 (東山遺跡本調査区)



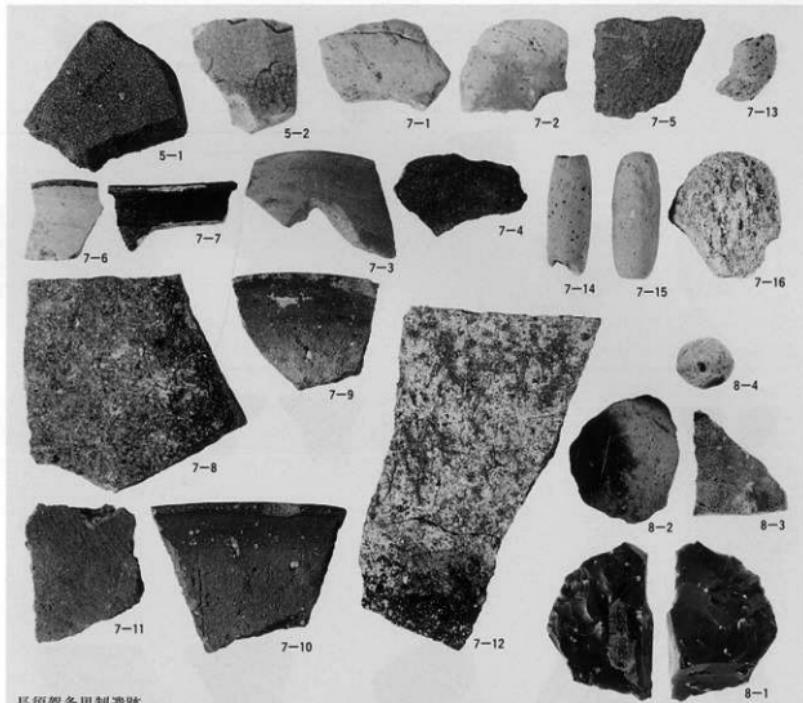
全景④（北西から）



ピット群全景①（西から）



ピット群全景②（東から）

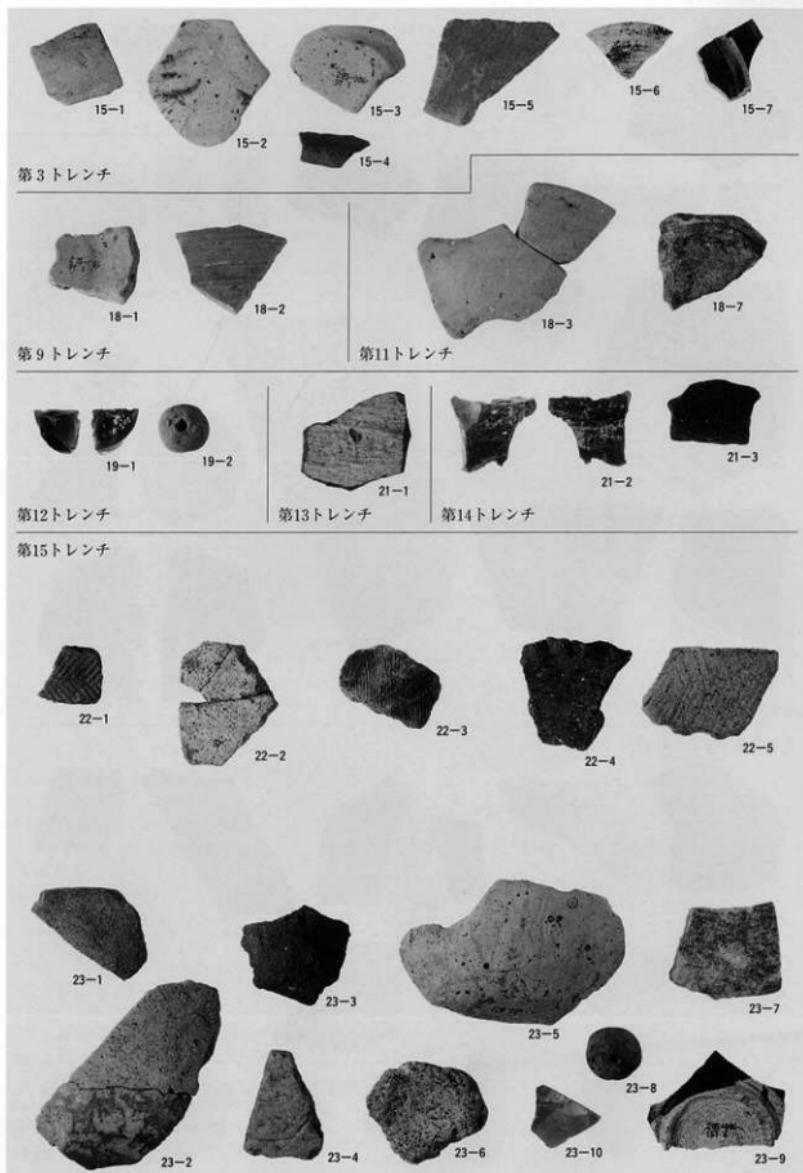


長須賀条里制遺跡

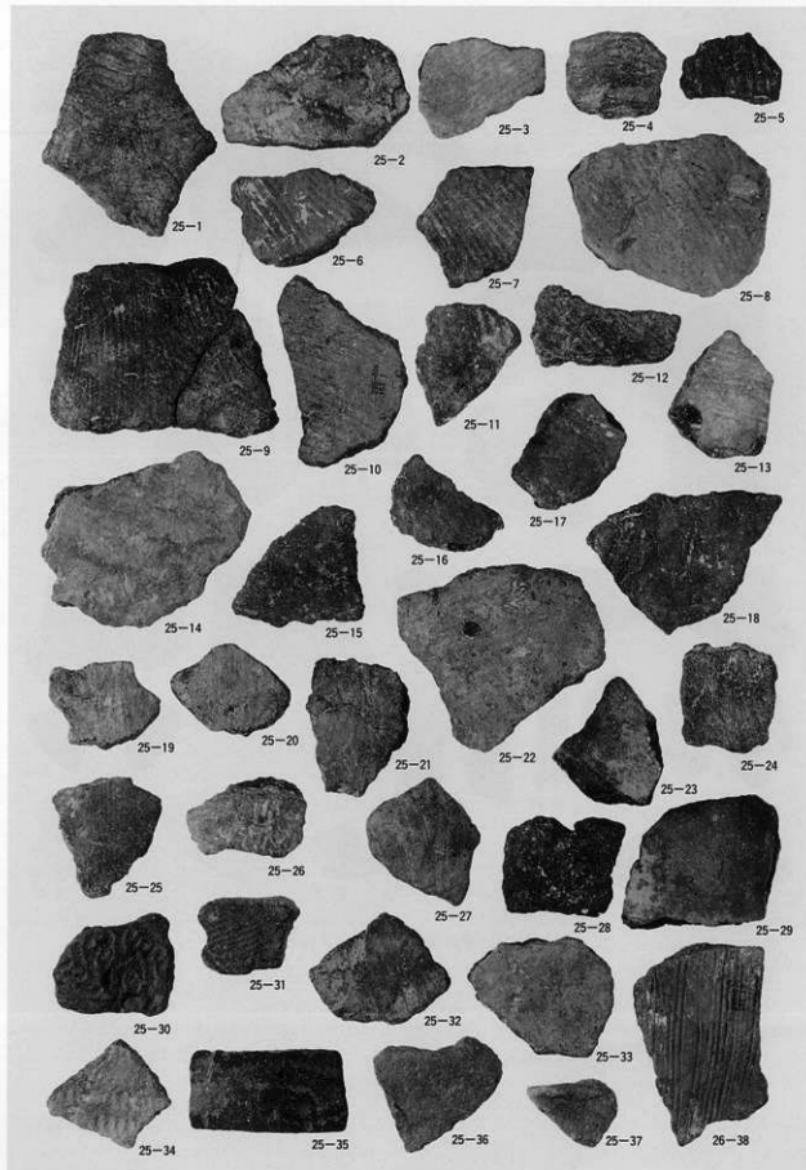
東山遺跡 第2トレンチ



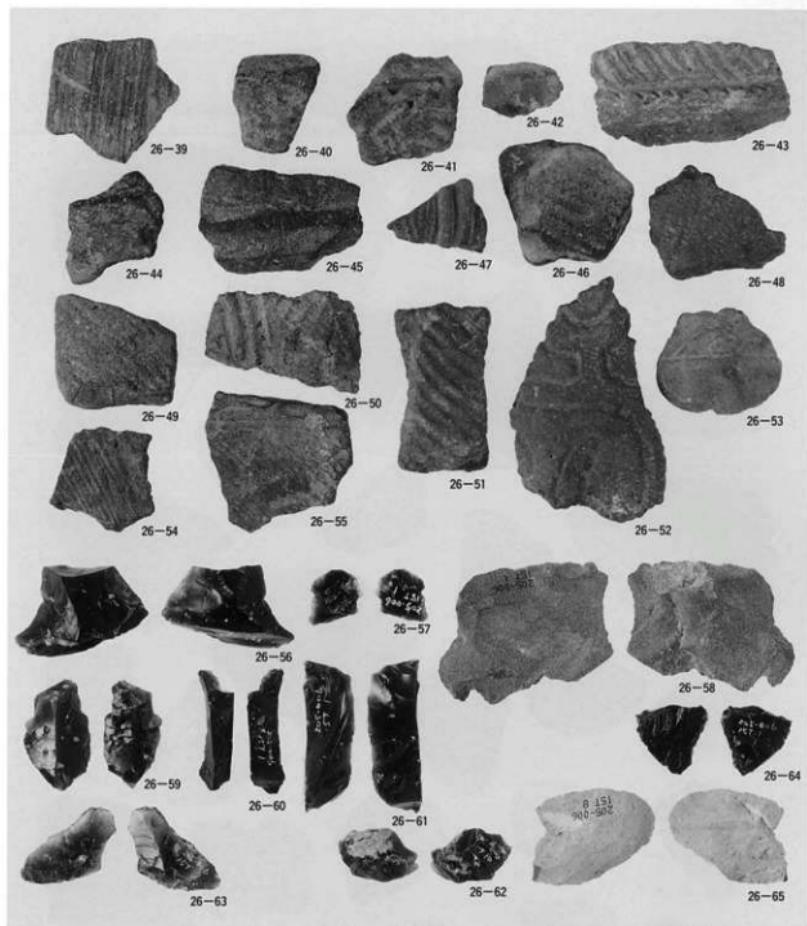
出土遺物① (長須賀条里制遺跡・東山遺跡第2トレンチ)



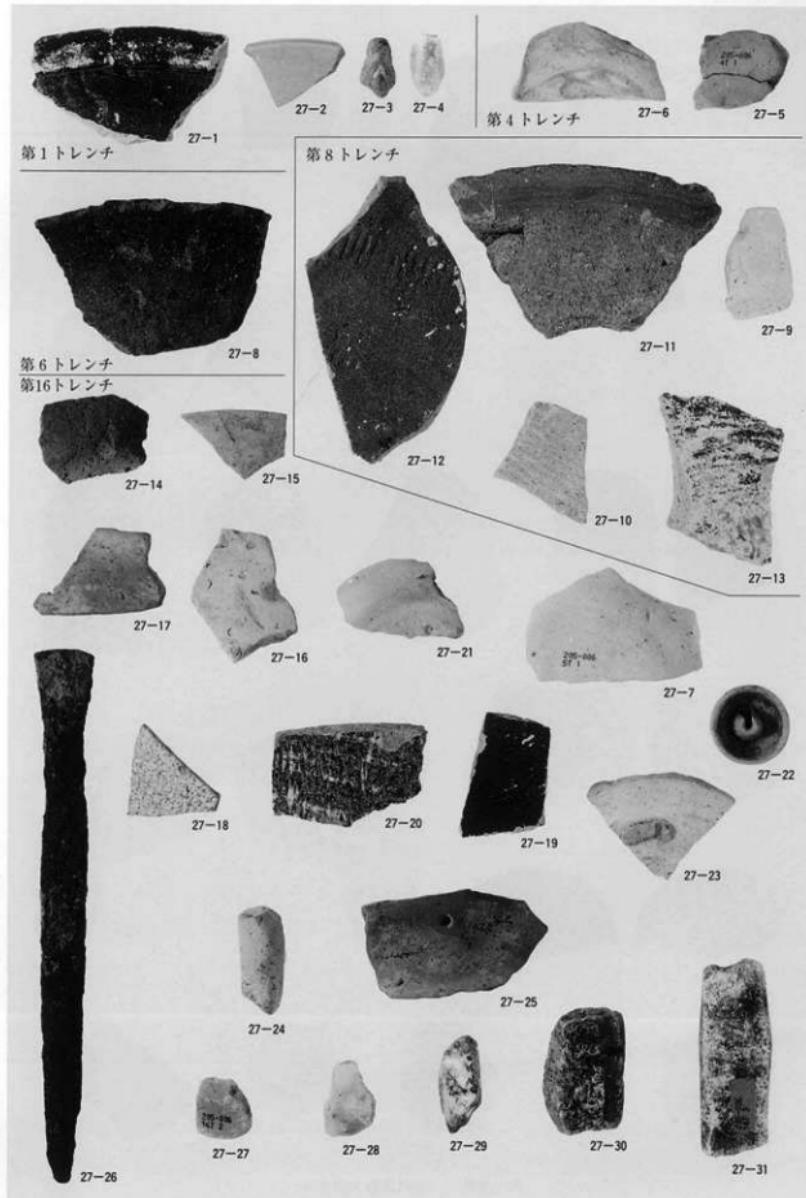
出土遺物② (東山遺跡第3・9・11-1トレンチ)



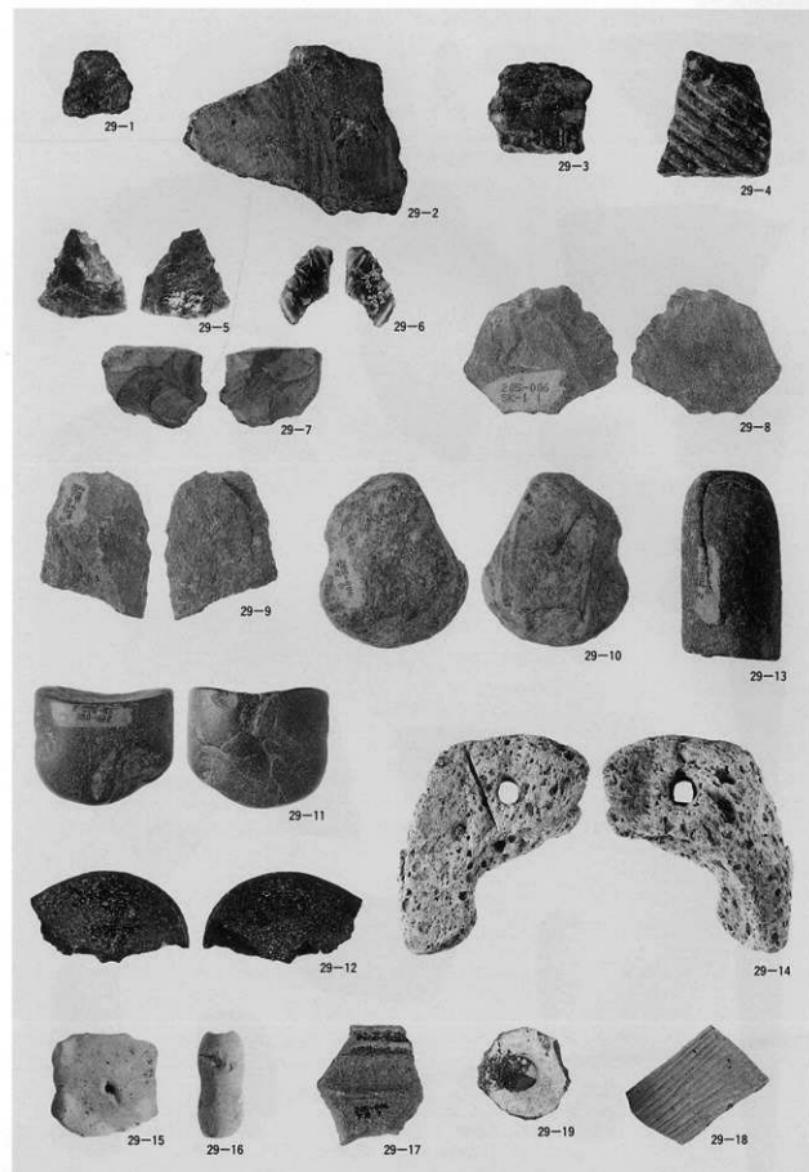
出土遺物③（東山遺跡第15トレンチ拡張区①）



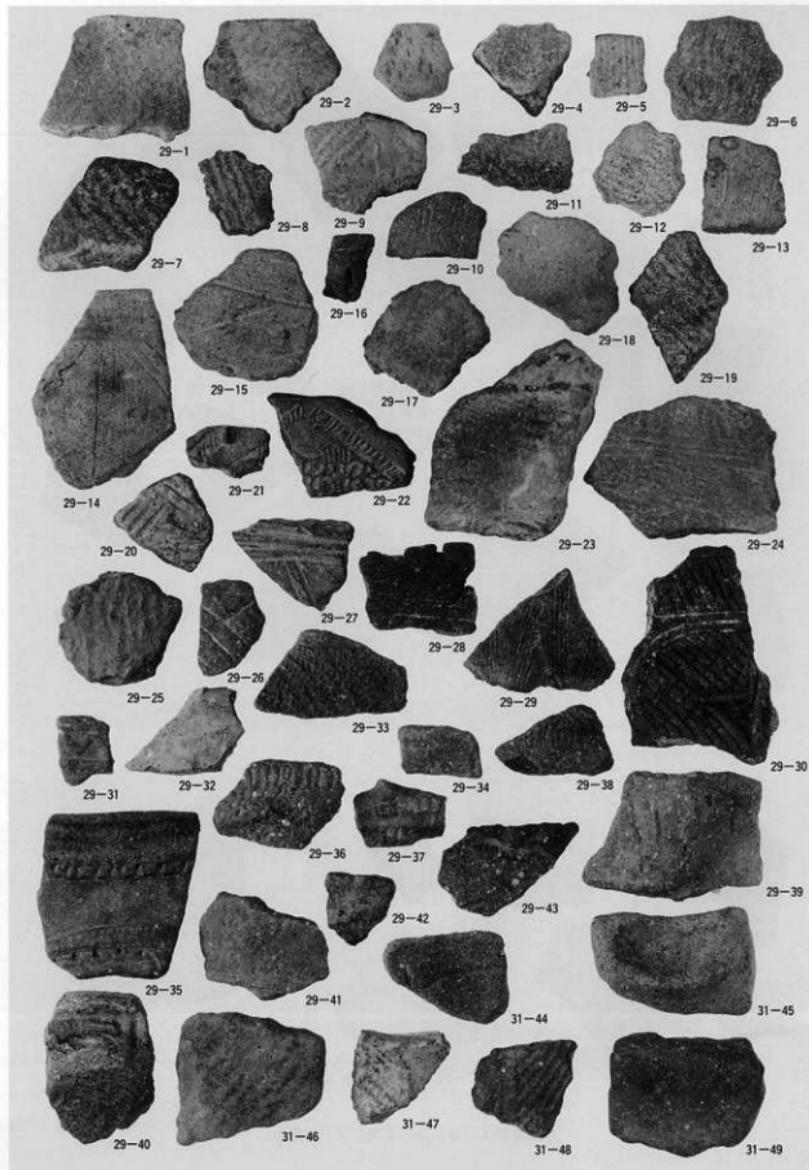
出土遺物④（東山遺跡第15トレンチ拡張区②）



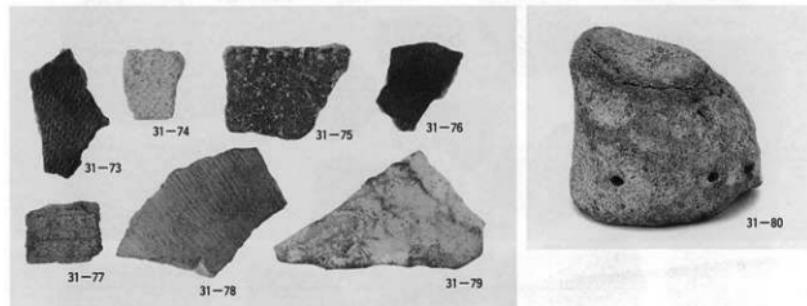
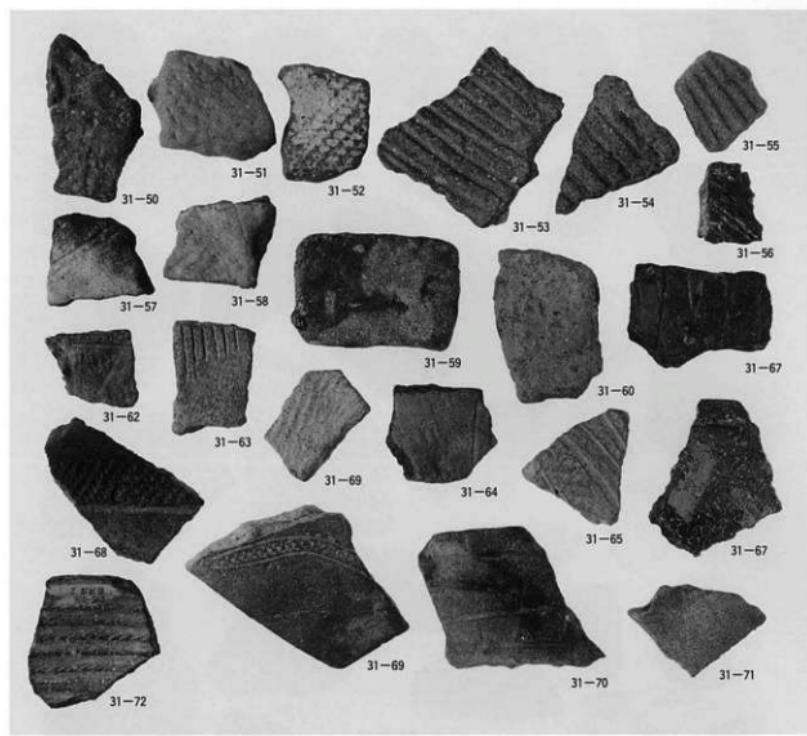
出土遺物⑤ (東山遺跡第1・4～6・8・16トレンチ)



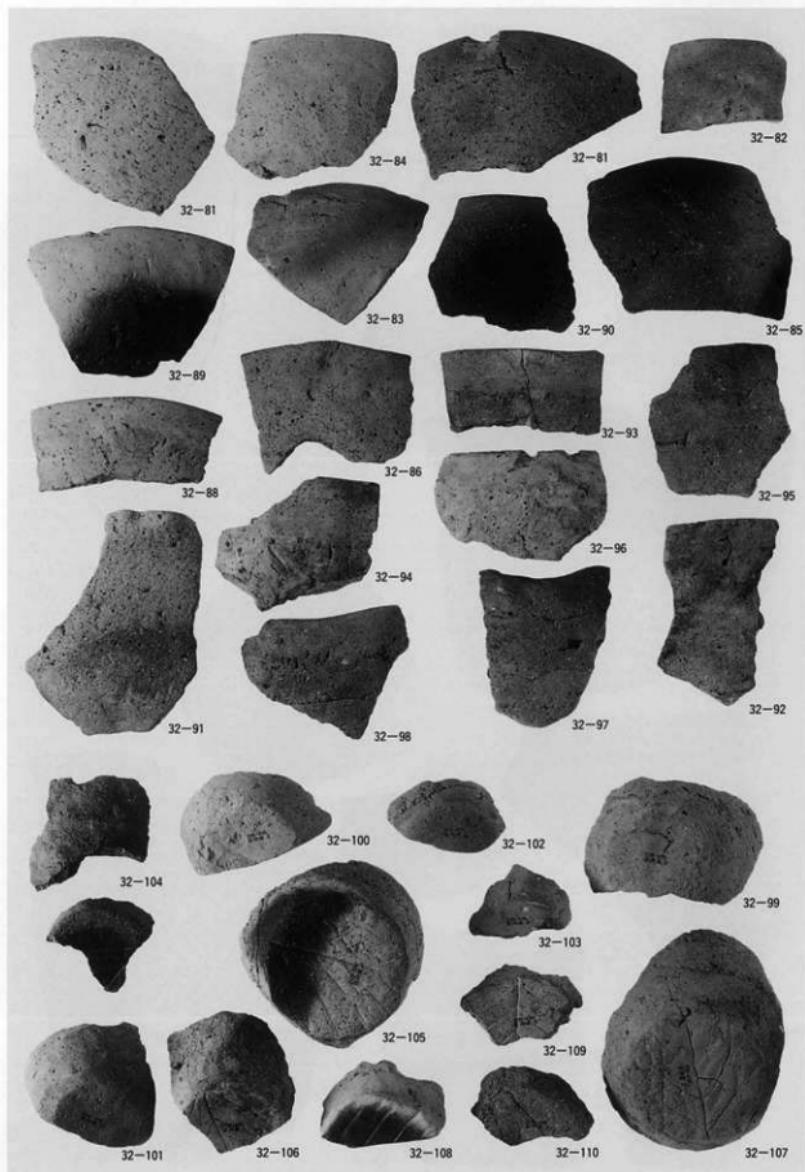
出土遺物⑥(東山遺跡本調査区)



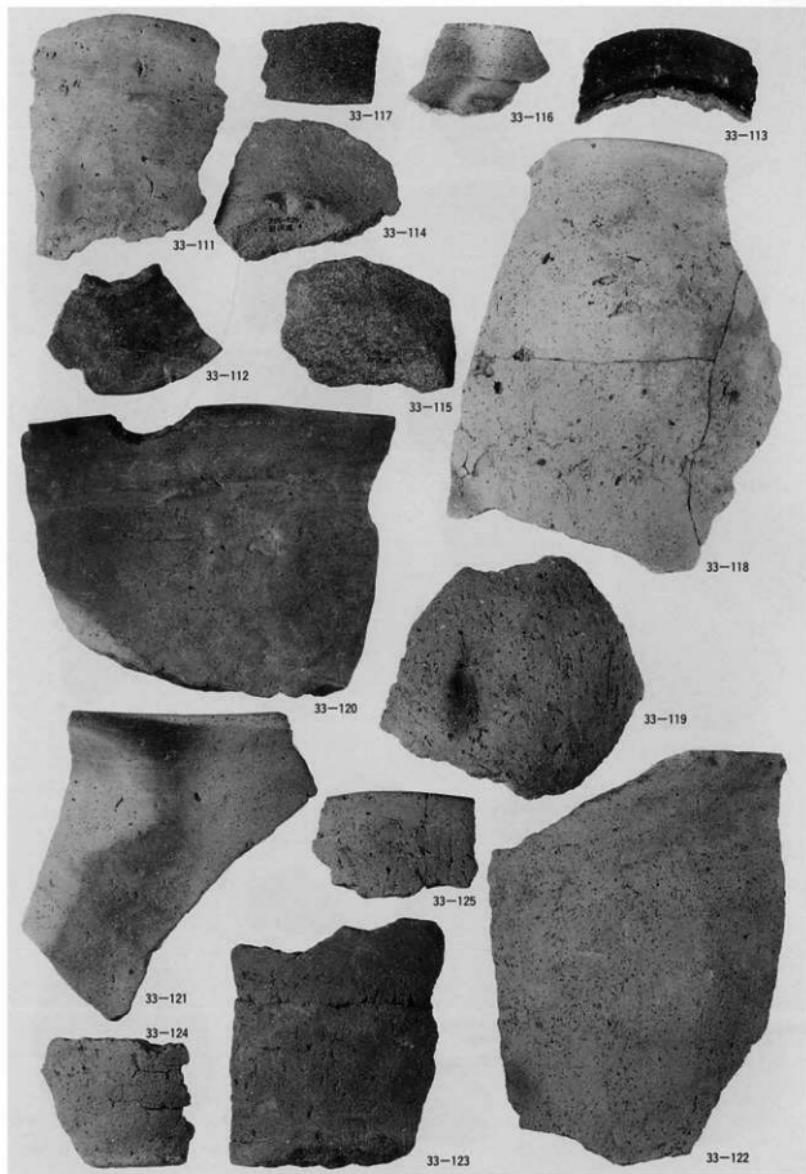
出土遺物⑦（東山遺跡本調査区旧河道①）



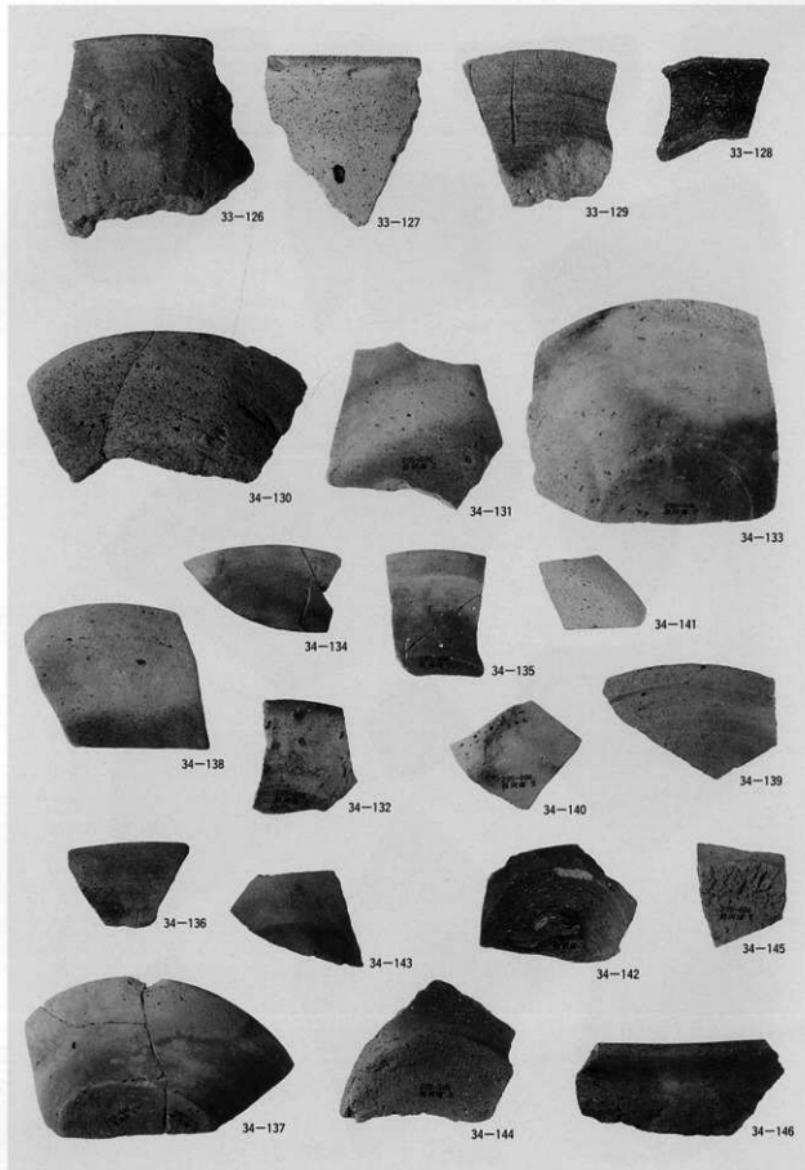
出土遺物⑧（東山遺跡本調査区旧河道②）



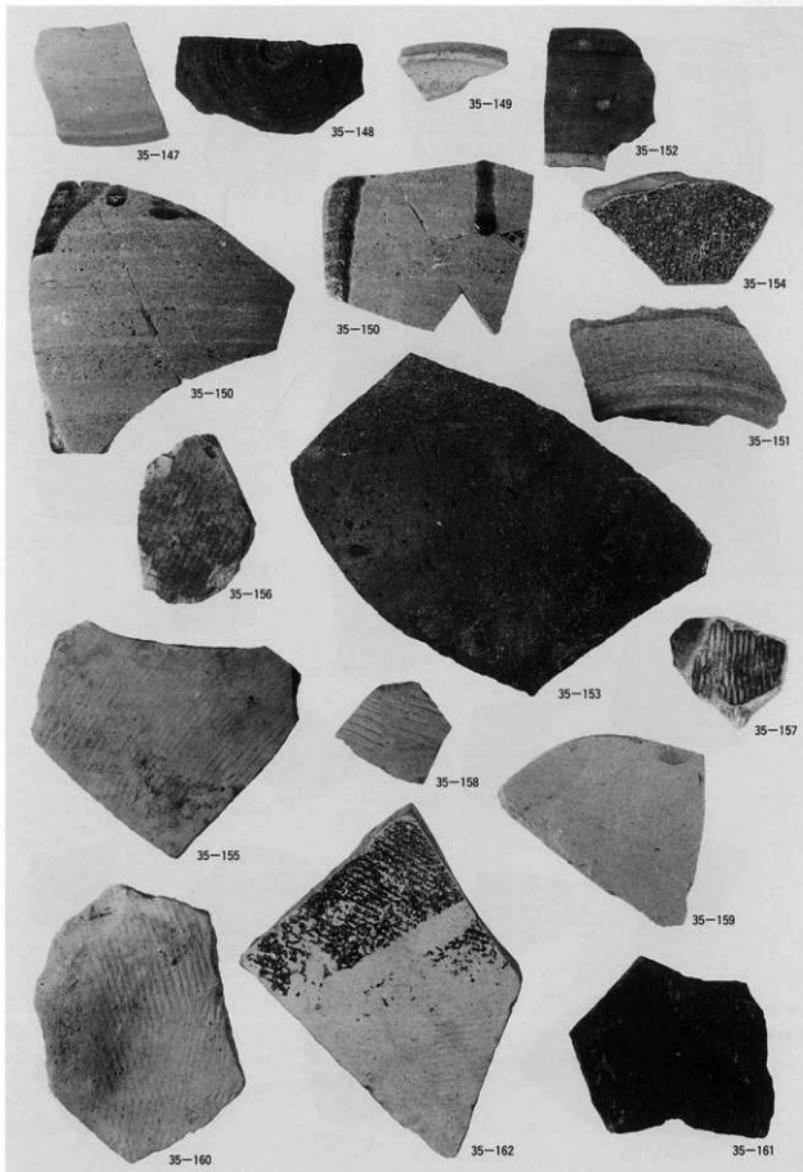
出土遺物⑨ (東山遺跡本調査区旧河道③)



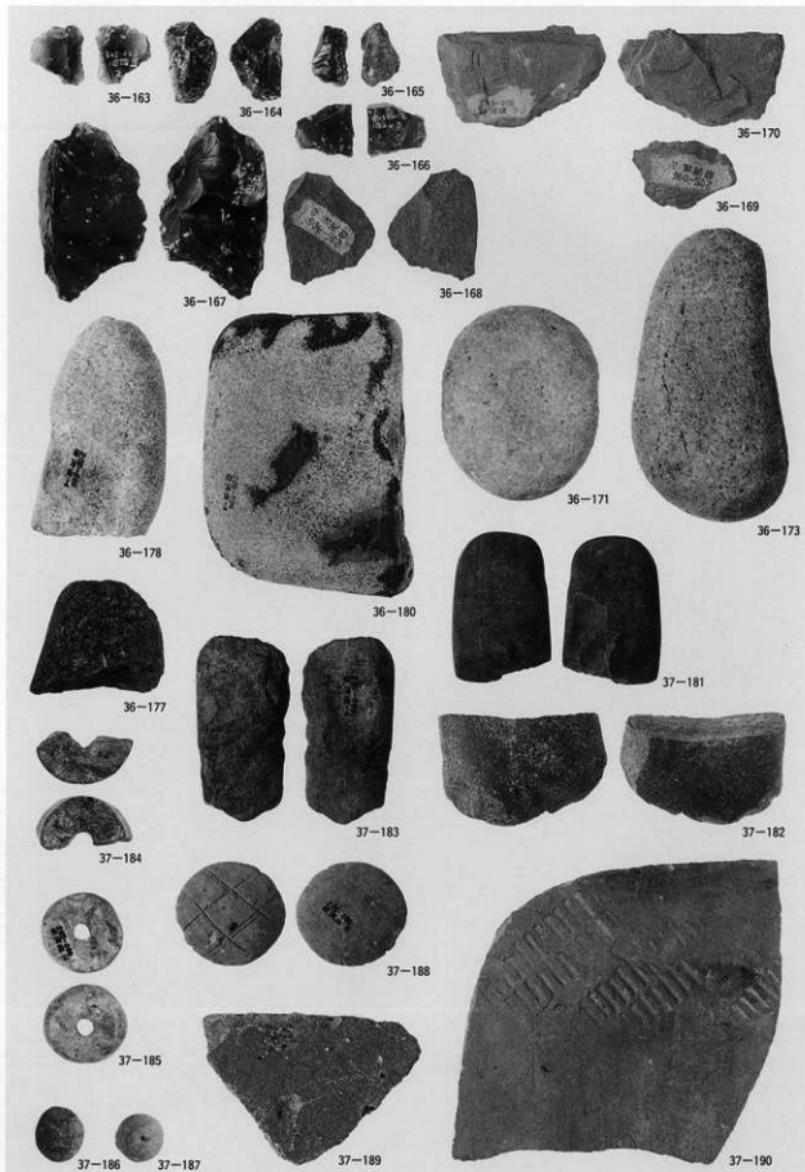
出土遺物④(東山遺跡本調査区旧河道④)



出土遺物①（東山遺跡本調査区旧河道⑤）



出土遺物26（東山遺跡本調査区旧河道⑥）



出土遺物⑬ (東山遺跡本調査区旧河道⑦)

報告書抄録

ふりがな	きんきゅううちほうどうろせいひいたく(たてやまおおぬきちくらせん)まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	緊急地方道路整備委託（館山大貫千倉線）埋蔵文化財調査報告書						
副書名	館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡						
卷次							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告						
シリーズ番号	第502集						
編著者名	城田義友						
編集機関	財団法人千葉県文化財センター						
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811						
発行年月日	西暦 2005年3月25日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村；遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
長須賀条里制	千葉県館山市 下真倉字舞台 ほか	12205	002(2) 34度 58分 38秒	139度 52分 38秒	19991006～ 10001112	1.843	緊急地方道路 整備委託（館 山大貫千倉 線）建設に伴 う調査
東山	千葉県館山市 南条・飯沼・ 大戸・作名ほ か	12205	006 34度 58分 25秒	139度 53分 15秒	19991006～ 10001224 20030901～ 20030930	4.950 231.0	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
長須賀条里制	生産遺跡 集落跡	奈良・平安 中世	条里区画水田畦畔 ピット群、溝状遺構	土師器・須恵器 青磁、国産陶磁器、鉄貨		条里区画水田畦畔 は坪畦畔と考えら れる。	
東山	包蔵地 生産遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世	なし 小区画水田 旧流路、溝状遺構 溝状遺構、土坑 井戸、ピット群、 土坑、旧河道	縄文土器、石器、剥片 弥生土器、石器 土師器・須恵器 土師器・須恵器、 灰釉陶器 青磁、国産陶磁器、 鉄製品	縄文土器は、主に 小区画水田基盤層 となる再堆積土層 から出土。古墳時 代～平安時代の遺 物は主に旧河道か ら出土。		

千葉県文化財センター調査報告第502集

緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線)埋蔵文化財調査報告書

—館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡—

---

平成17年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県県土整備部  
千葉市中央区市場町

財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809番地2

印 刷 株式会社 正文社  
千葉市中央区都町1-10-6

---